

379.9
089

大妻コタカ著

母の文庫

母の禮法

婦女界社版

大妻學院
図書館

東京都千代田区
8156
昭和28.11.9
大妻学院図書館

發刊の趣旨

人の親の心は闇にあらねども
子を思ふ道にまどひぬるかな

これは親の心をよく言ひ表はした古歌です。昔の親も、今の親も、子ゆゑに迷ひ、子ゆゑに惱んでゐます。否、未來永劫、親達は、子ゆゑに迷ひ、且つ惱まなければならぬでありませう。わけても、現代日本の母は、過去のいつの時代の母よりも、大きな惱みを惱みぬいてゐるやうです。なぜ、現代の母達は、さうした大きな惱みを惱まなければならないのでせうか。それは、指標のない道を辿つて、愛兒を導いてゐるからではありますまいか。

歴史を顧みますと、日本の家庭では、子女の教育に就いて、はつきりした指標があり、生活習慣がありました。それが、西洋文化の影響を受けて、著しい變化と動搖を來たしたことは見逃せない事實です。

今や、我が國は東亞永遠の平和のために、國を擧げて長期建設に邁進してをります。この聖なる大目的を遂行するためには、いろいろ大切なこともありませうが、次の時代を背負つて立つ第二國民を、精神も肉體も優れた立派な國民に育て上げることは、何をおいても緊急切實な問題であります。

それには、日本の母達が、確たる目標の下に、愛する子女を導いて行かなければなりません。即ち、古いものからは、永劫に朽ちない美はしき日本獨特の久遠の要素を把握し、新しいものからは、時局に卽應した、より大なる躍進の可能を掴み、この兩者を結合して母性再吟味の目標を樹立しなければなりません。

「母の文庫」至十二卷は、かうした理想の下に、育兒報國の大任を果して頂く、全日本の母達への贈りものとして、思ひを潜め、苦心を重ねて、本社が公けにしたものです。執筆者は何れも斯界の權威で、新母性創造の熱情に燃えて、本社のこの擧に賛同を與へられました。子ゆゑに惱む全日本の母の心に適ふものとならば、この上もなき欣びです。

はしがき

今回の支那事變を契機として、日本は生産部門に於ても文化部門に於ても劃期的な飛躍を遂げ、着々と世界的地歩を確保しつゝありますが、曾ては因循姑息であつた日本の女性も世界に於ける大日本の地位に醒然として目覺めました。街頭に三尺の布片をかざし、昨日までは アカの他人として行き過ぎてゐた未知の同性に千人針の協力を仰ぎ、共々に祖國の勝利を祈願する女性達。出征戰士の歡送には白一色の隊伍を組んで街路を埋める女性達。闇夜の市街に整列しては防空演習に參加して甲斐々々しく立ち働く女性達。これが今日の新しい日本女性の凛然たる姿です。

日本の女性は初めて女性の價値に目覺め、その使命をはつきり認識することが出來たのです。一個の人格者として、國家の有用な成員として、今こそ、女性は誇り高く自らの部署を固守し、その任務を遂行しなくてはなりません。特に、私は今日日本女性の任務のうち最も重要性を持つものは母性の任務であると主張して憚りません。世界に雄飛する大日本の次代を建設する第二の國民を養成する神聖な重任が、過去の何れの時代にもまして、

（2）

今日の母の双肩にかゝつてゐるのです。

而して、生れ出た子女を健康に生育させるだけではも早や今日の母としては完全な責任を果したとは言へないのです。愛兒の品性の涵養について、この時代の母は聰明であり、合理的でなくてはなりません。世界の新文化を作る大使命を委ねられた日本の大國民としての威容と矜持を具へた、敎養ある優秀な成員として、子女を世界的檜舞臺に登場させなくてはならないからです。

精神文化の一部門としての禮法の重要性はこゝから來るのです。禮法の正しい解釋によつて、子女をしてその品性を高め、品位ある態度で生活を建設させることによつて、日本の文化は一段と高い水準に到達することを固く信じます。この方向への母の理解と指導によつて、子女敎育の萬全をも亦期待することが出來ませう。

時局の敎へるところに鑑み、子女敎育の重要項目としての禮法をお母樣方と協力して檢討する好機に惠まれた事は欣快に堪へません。

昭和十四年十月

大妻コタカ

母の禮法目次

はしがき……（一）

學齡前の幼兒のお躾け……（七）

おはやう……（七）

齒を磨かせませう……（八）

ご先祖さま……（一一）

ごはん……（一四）

お母さんとお客に行つた時……（一九）

ひとりで遊びに行つた時……（二三）

お言葉……（二五）

おやすみ……（三一）

（1）小學一年生のお行儀……（三一）

自分の事は自分で……（三三）
ものはきまりよく……（三五）
出入りその他の挨拶……（三七）
身のまはりは清潔に……（四〇）
遅刻はいけません……（四五）
先生を尊敬させませう……（四六）
屋外でのお行儀……（四九）
おつきあひ……（五二）

小學三、四年生のお行儀……（五六）
兩親、長上へのお作法……（五六）
日常のお行儀作法……（六〇）
他家へ行つた時の心得……（六四）
御飯どきのお行儀……（六七）
お友達づきあひ……（七一）

公德心を養ふこと……（七九）

小學校卒業頃の女生徒の禮法……（八五）
日常の起居振舞……（八五）
身近かをしまりよく……（八八）
お食事中のお作法……（九三）
人前でのお作法……（九七）
お客さまへのお作法……（一〇一）

小學校卒業頃の男兒の禮法……（一〇五）
學友・同僚との交際……（一〇六）
長上への態度……（一〇九）
就職試驗についての禮法……（一一二）
履歷書……（一一五）
身のまはり……（一一六）

試驗場での態度……（一二四）

女學校三、四年生の禮法……（一二六）

家庭……（一二七）

言葉遣ひ……（一二七）

身嗜み……（一二七）

接待、接客のお作法……（一二九）

學校……（一三三）

服裝……（一三四）

通學時の心得……（一三四）

學校でのお作法……（一三七）

社交……（一三九）

交友の禮儀……（一四一）

訪問の禮儀……（一四四）

手紙の書き方……（一四四）

中學校三、四年生の禮法……（一四六）

家庭……（一四九）

言葉遣ひ……（一四九）

身嗜み……（一五二）

日常の起居動作……（一五六）

學校……（一五八）

通學時の心得……（一六二）

學校内での禮儀……（一六三）

社交……（一七〇）

交友についての心得……（一七〇）

訪問の心得……（一七二）

お母さんの禮儀作法……（一七四）

お子さんへの禮法……（一七四）

目次

子供の呼び方と言葉遣ひ……（一四）
子供の叱り方……（一八）
身じまひ……（一九）
日常作法……（一九）
お母さんご自身の禮法……（二〇）
家庭内の禮法……（二〇）
家庭外の禮法……（二二）

母の禮法

はしがき

「這へば立て、立てば歩めの親心」といふ古い言葉があります。また、「焼野の雉子、夜の鶴」といふ言葉もあります。これらの言葉は、みな親の愛情、母の愛情を短かい言葉のうちに端的に表現したものです。

婦々と燃え上つた焼野ケ原に行つてみれば、焼け死んだ母雉子の黒焦げの翼の下から、がき（1）

尊い母の生命をかけて護られた子雉子たちが、無事な、可愛い姿をピョ〳〵と現はすさうです。ましてや人の母として、子供を可愛いと思はぬお母様がありませうか。

子供を通してこそ、父の、母の、生命は永遠に生きるのです。例へ自分は死んでも、子

供が、子供の子供が、さうして永遠に、自分の生命の火は續いてゆくのです。遠い御先祖樣から受け繼いだ尊い生命の火を傳へ、運んで貰はねばならぬ大事な、そして可愛い子供たち！　「這へば立て、立てば歩め」と祈り願ふ心もまことに當然なことです。

さてさうして、子供たちがすく〳〵と丈夫に育ち、知能すぐれた子供に生ひ立つた時、お母樣方のまづお考へになることは何でせうか。

それは「しつけ」です。如何に體の丈夫な子、智慧のすぐれた子供に育て上げた所で、お客樣がいらした時「いらつしやいませ」ひとつ出來ないやうな子供に育てゝしまつたらそれは立派な母とは申されません。

「あの子は丈夫で元氣だが、どうも亂暴で……」とか「あの子は勉强はよく出來るが、どうも内氣でひとに逢つてもお辭儀ひとつ出來ない」とか言つて、ひとはそのあとに「きつとお母さんの躾がわるいんだらう」と言ひます。そのやうなことを言はれるのは、母の恥

と申さねばなりません。

かういふ話があります。ナポレオンが、ある時母に無理を言ひ、母に叱られました。するとナポレオンは「母上、余は全佛蘭西國を統治する皇帝ですぞ！」と、自分の我儘を押通さうとしました。その時母は嚴然として「私は皇帝の母です」と言つたので、英雄ナポレオンも、一言もなく恐れ入つてしまつたさうです。

さればこそナポレオンも、常々「余の今日あるは全く母の賜物である」と深く母に感謝してゐたさうです。かういふ逸話は、例を外國に取るまでもありません。北條時賴を教へた母松下禪尼の話、楠正行の母久子の話、等々、わが國にも例はいくらでもあります。

まことに、母の躾け方如何で、わが子をどのやうに立派な人間にも育て上げることが出來るのです。たとへ偉人英雄にはならなくとも、慕みある、人に敬され、愛される、立派な人間に育て上げることが出來るのです。

さて「子供の躾」と言ひますと、女學校を出たての若いお母樣方の中なぞには、よく、

（4）母の禮法

「躾、しつけなぞと言つたのでは、子供を窮屈な鑄型に嵌めこむやうなもので、それでは子供をのび〳〵と成長させることが出來ぬのではないか」などとお考へになる方もありますが、勿論、度を過ぎたヒステリックな躾け方はいけないとしましても、そのやうな考へ方は誤りです。

一本の木を育てるにしても、無駄な枝振りの惡い枝を伐つてゆかなければ、すく〳〵と大きくは伸びませんし、立派な大木とはならないものです。

「子供」といふ木が伸びるのを助けるためにこそ、「しつけ」といふ手入れが、是非必要になつて來るのです。

一體、躾けとか、禮儀とか、作法とか申しますと、なにか緊苦しい形式的なことのやうに考へて、そんなもの、と一概に否定なさる方があります。

然しもうひとつ深く考へてみませう。例へばあの交叉點の、赤と青のゴー・ストップの信號です、あれが無かつたらどうでせう。恐らく大勢の怪我人と、車の衝突事故が起ること

とでせう。

躾けとか、禮法といふものは、あの交通信號のやうなものです。それがあるために、無駄な事故や衝突を無くし、世の中を滑らかに動かし渡ることが出來るのです。

また、私達がある偉い方に尊敬や、感謝の氣持を示したいとき、言葉で表はすより方法がなかつたとしたら、隨分と無駄なお喋りをせねばならず、それでもまだ充分でなかつたら、隨分と不便なことですが、お辭儀や敬禮といふ簡單な形で、その精神が充分に通ずるのですから、これは大變に有難いことです。

ですから、躾けや、禮法を簡單に、なんだ形式的な、と一概に捨て去ることは出來ません。捨てるどころか、その「形式」といふことを、もういつぺんよく考へてみなくてはなりません。

一面から言へば、形式をきちんと整へることによつて、精神も亦きちんとひき緊めることが出來る、とも言へるのです。

夏の暑いとき、暑いからといつてアッパッパ姿や、細帶姿で寢そべつてゐれば、どうにもやりきれないほど暑いものですが、いつそ反對にきちんと衿もとを合はせてキユツと帶を結べば、却つて涼しい道理なのです。

精神がきちんとしてゐれば、おのづから形式もきちんとして來ますが、形式をきちんとすることによつて精神をきちんとさせようといふのが躾であり、禮法の主眼なのです。

精神修養や訓話によつてよい子供に育てようとすることは中々大變ですが、言葉遣ひや起居動作の躾けから子供を導いてゆくことは、行ひ易い方法でもあり、また根本からほんたうに立派に育て上げる方法でもありませう。

では、子供を躾けるにはどうしたらよいか……。

それについて、學校へ上るまへのお子さんから、小學校一、二、三年と順を追つて、女學校（中學校）二、三年までのお子様の躾け方をお話し致し、なほ子供の手本とも鏡ともならねばならぬお母様方自身の禮法について、これからお話しすることに致しませう。

學齡前の幼兒のお躾け

まづ、まだ小學校へ上るまへの五、六歳のお子さんの躾け方ですが――、子供の躾けはこの位の年齡から初めませう。これでも決して早いとは申されませんが、それかといつて餘り小さいお子さんをきちんと躾けすぎるのも考へものでせう。普通、讀事などを仕込んだり、幼稚園へ通ひ初めたりするのもこの年齡ですから、お躾けを初めるのも五、六歳ぐらゐからが適當でせう。

五、六歳といへば、その生活は殆んど對外的なものといつては、近所の遊び友達ぐらゐのものしかありませんから、躾け方も實際の一日の生活に卽して、「自分のことは自分でする」習慣を敎へこむことに主眼を置きます。

おはやう

朝起きたら、まづ「おはやう」を言はせませう、口をゆすぎ。顔を洗つてから言はせるのがほんとでせうが、この年齢のお子さん達ならば、目を覺ましてお母さん、お父さんの顔を見ろと同時に「おはやう」と言はせるやうにした方が自然ですし、寢起きが惡くてお母さんを手こずらせるやうなお子さんも、この習慣をつけることによつて、元氣に「おはやう！」と飛び起きるやうにもなりませう。

朝は一日の初めですから、朝目を覺ます時に愚圖らせる習慣をつけると、一日ついめそめそさせてしまふものです。なにを置いてもまづ元氣に「おはやう」と早起きをさせ、健康な朝の空氣を、胸一杯に吸はせます。育つてゆく體に、早朝の新鮮な空氣ほど藥になるものはありませんし、一生の初めであるこの頃の年齢に、元氣で目を覺ます習慣と早起きの習慣をつけてやることは、わが子の一生を良い方向へきめてやることです。

齒を磨かせませう

さて起きたら、今度は齒を磨かせませう。子供は、齒を磨く、といふやうなことはなかなか面倒がつてやりたがらぬものですが、さういふ時は赤い柄のついた可愛らしい齒刷毛を與へるとか、齒磨紛を別に美しい繪のついた鑵に取り分けて、うがひのコップと一緒に箱に入れて「ハイこれは太郎ちやんの分」といふ風に渡してやると喜んで齒を磨く習慣をつけたりするものです。（挿圖參照）



なほ齒刷毛は、子供の背の屆く所に釘を打つて置いて、それに柄の穴をかけさせるやう

にします。これは衛生的にも良いことです。

子供はどうしても甘いものを喰べますから、齒を磨く習慣をつけないと、糖分が齒の琺瑯質を浸して、折角美しかるべき米粒のやうな白齒が、醜い味噌ッ齒となつてしまひます。齒が悪いと自然咀嚼が充分でなくなる、さうするとその分だけ餘計に胃や腸が働かなければならなくなる。從つて齒の悪い子は胃腸も弱い、といふことはよくお醫者様も言はれることです。朝起きたら口をそゝぎ、といふ禮儀からばかりでなく、これは愛兒の衛生の點から必要なことなのです。

このことを子供にも解るやうに易しく說明して納得させ「齒が悪ければおなかまで悪くなるのよ、それに、花子ちやんは味噌ッ齒になんかなつたらいやでせう？」と自分から進んで齒を磨かせるやうにします。

また、これに引續いて顏を洗ふことですが、これも「太郎ちやんは自分でお口が磨けるんだから、お顏も自分で洗ひませうね」と自分で洗はせるやうにします。あらかじめエプロンか油屋さんをかけさせて置いて、少々水で汚しても餘り叱らぬやうに致しませう。なほ洗顏は冬でも水を使はせるやうにすることが肝腎で、その方がサッパリして後で溫いし、柔い皮膚にお湯を使ひますと、却つて毛孔がゆるんで埃が入つて不潔ですし、後で風邪をひいたりするものです。

ご先祖さま

次に、寢間着を脫いで自分で着物を着換へさせましたら、今度はお佛壇の前に坐らせます。

そしてお母さんと一緒にご先祖様の位牌に向つて手を合はさせます。

若し眠がつたり、恥しがつたりして、さうしなかつたら、その時はちやんと說明してやりませう。

「太郎ちやん、あなたはお母さんが好きでせう？　そしてお父さんも好きでせう？　この

お佛壇に入つてゐらつしやるのは、このお母さんを産んで下すつたお父さん、お母さん、あなたのお父さんをお産みになつたお父さん、お母さん、またそのお父さん、お母さんといふ方達なのよ。さういふ方達をご先祖様といふの。だからご先祖様がゐらつしやらなければ、あなたの好きなお父さん、お母さんも生まれなかつたし、さうすれば太郎ちやん、あなたも生れなかつたわけなのよ。だから、あなたが毎日さうして元氣で遊ぶことが出來るのも、みんなご先祖様のお蔭なの。ご先祖様はありがたいでせう？　だからご先祖様に、ありがたうございます、つて手を合はせてお禮を言ひませう」

さういふ風に說明してやります。さうすれば子供にもよく解り、ほんたうに、ありがたい、と思つて手を合はせます。（挿圖參照）

そしてこのことは、ひいては、若しご存命中ならばお祖父様、お祖母様を敬ふことにもなりますし、美しい敬老敬神の風を敎へることにもなります。

一日の生活を感謝から初め、朝の靜かな時間に、靜かに手を合はせることを敎へることは、亂暴になり勝ちな男の子には優しい落着いた心を、そして女の子にはますく美しい女らしさを育てることになりませう。

歐米の子供達に、夜寢る前、お祈りをする習慣が徹底してゐることは大變結構なことですし、日本の家庭の子供達の間にも、是非この良習を普及徹底させねばなりません。



ごはん

今度は御飯です。御飯の前には必ず手を洗はせませう。手を洗はせることは、單に衞生のためからだけではなく、「サア、これからごはんなのだ」といふ心持を與へ、お行儀よく御飯を頂かせるもとになります。

今まで外でワア〳〵元氣に遊んでゐて、そのまゝお膳の前に坐つたのでは、どうしても食事中に騷いだり、お行儀の悪い眞似をし易くなるものですが、手を洗はせることに依つて、さういふ荒々しい昂んだ氣分を鎭めてやることが出來ます。

お膳の前に坐つたら、お箸を取る前にお辭儀を致しませう。そして必ず「頂きます」を言はせます。まだ小さいからなんにも働けない自分が、かうして無事に白い御飯を頂けるのは、お父さん、お母さん、世の中の大勢の大人の人達のお蔭だ、といふことを敎へます。お米が出來るまでのお百姓さんの苦勞を話してやるのもよいでせう。

いよ〳〵今度はお箸をとる番ですが、決して「握り箸」や「摑み箸」などはさせないやうに致します。まだ小さいのだから」といふ考へから、それらを放任して置きますと、そのやうなお箸の持ち方では自然御飯をこぼし易くなりますし、何となく見た目にも汚たならしく、また當人も摑んだ箸でお惣菜の鉢をこね廻したりしたくなるものです。もうこの年齡になれば、箸をちやんと取るぐらゐのことは出來るのですから、初めは操りにくさうに見えても、正式に取らせるやうにします。お箸の代りに匙などを使はせるのも考へものでせう。

食事は、子供にとつて何といつても一日中で一番たのしい時間ですから、どうしても燥ぎがちになります。食事をたのしんで頂く習慣をつけることは結構ですが、燥やぎすぎて適當な節度を破るやうな態度をとらせてはなりません。かといつて食事中に傍からガミ〳〵頭ごなしにうるさく叱ることは、子供から食事のたしのさを奪ふことになりますし、肉體的に言つても、胃液の分泌を停止させて消化を惡くさせます。

すべて食事は、明るく正しく頂かせることが必要で、いち〳〵口について小笠原流式に嚴しく躾けることは要りません。小笠原流などは、食事中に談話することを嚴禁してありますし、よく「御飯の時は默つておあがんなさい！」なぞと子供を叱る御家庭があるやうですが、さうしたのでは折角たのしかるべき食事の時間が暗くなつてしまひますし、折角のお母さんの苦心の料理も砂を噛むやうに味けないものになつてしまひます。

朝顏が幾つ咲いた、とか、お隣りの武夫君がどうした、とかぐらゐの輕い話題でしたら話相手になつて聞いてやるのも、食卓を賑はせることになるでせう。

けれども、汚い話題や、大聲の談話などを初めましたら、その時は嚴しく嗜めます。

食事には節度と愼しみが必要である、といふことを知らず〳〵のうちに敎へておきます。さうすれば從つて、友達が呼びに來たからといつて、御飯の途中で遊びにいつてしまつたり、またお茶碗の中でさんざ御飯をこねくり廻して「フン」なぞとお母さんに食べさせるやうな、不作法なことはしなくなると思ひます。

然し、御飯を弄んでおもちやにして喰べずにこねくり廻したりするのは「子供は育つんだからウント喰べなくつちやいけない」なぞと仰つしやつて、子供を過食にさせてゐるせいではないかどうかも、母親として一度反省してみませう。若しさうでなかつたら、その時は優しい嚴しい母の威嚴で叱りませう。

食事中に子供が御飯粒をこぼしたりしますと「まアこの子は」なぞと仰つしやりながらも、日も鼻もないやうな調子で、そのたんびに拾つてらつしやるお母さまがありますが、さういふことでは、ます〳〵子供が甘へてしまつてお躾けをすることは出來ません。

かと言つて、疊にこぼした御飯を子供さんに拾はせるのは結構ですが、「勿體ない」とか「おまへがこぼしたんだから」とか仰つしやつて、無理に食べさせたりするのは大變不衞生なことです。

疊は足で踏むところ、疊へ落ちたものは絶對に口に入れさせないのが、衞生的なことでもあり、また禮儀に適つたことなのです。

次に食事中の注意ですが、しやぶり箸、探り箸、迷ひ箸、等の不作法であることはいふまでもありません。

また、自分の分、として取り分けられたお惣菜を喰べ散らしてしまつて、お母さんの分へ箸をつけたりする時、よく子供の食べ荒した分と自分のと取り換へてやるお母さまがありますが、これは慈愛深いやうに見えて、却つてさうではありません。

さういふ時は、自分の分を綺麗に食べることを教へ、食べてしまつてなほ足りない時はこちらから取り分けてやります。「自分の分を食べ散らしても、お母さんのが貰へるから」といふやうな悪い習慣は決してつけないやうに致しませう。子供といふものは、自分のものよりか、ひとの物の方が、なにか良いやうな、おいしく思ふやうな、さういふ所があるものですから、最初にその我儘を許しますと、いろ〳〵の點でもさういふ我儘が出來るものと思ひこんでしまひ、さうさせないと駄々をこねる、といふことにもなつて折角のお躾けがなんにもならなくなります。

最後に、御飯を頂いてしまつたら「ごちそうさま」と言はせませう。おいしく、たのしく、無事に今日も御飯を頂けたことへの感謝は、子供だからといつてしないでよいといふことはありません。それにはお母さま、お父さまも共々に「御馳走さま」を仰言ることが許嘗です。

お母さんは仰つしやるが、お父さんは仰つしやらない、といふ家庭が間々あるやうですが、さういふ時は「母」として子供のお躾けのために、御主人にも仰つしやつて頂くよう、お願ひ致しませう。

お母さんとお客に行つた時

今度はよそのお家へお客さまに行つた時のお躾けです。まづ小母さまが出ていらつしたらご挨拶をさせます。これは女中さんでも同じです。女中さんだから「今日は」を言はせなくともいゝといふことはありません。女中さんといへどもお訪ねした先の家族の一員で

すから「今日は」とお辭儀をさせます。

さて「どうぞこちらへ」といふことになりましたら、お母さまは女中さんのご案内に從つて、どん〳〵先へ行つてしまふやうなことをせず、ちやんとお子さんが靴や下駄を正しく脫いだかどうかを見ます。そして若し跳ねとばして脫いであつたりしましたら、歸る時にすぐ履けるやうに後向きに揃へるよう注意します。若しそのあとからまたお客樣があつた場合、その注意を忘れますと、締りのない奥さん、躾けの行き屆いてゐないお母さんとして嗤はれるやうなことにもなります。

禪家に「照顧脚下」といふ言葉があります。「足もとに注意せよ」といふ意味ですが、心を練り、禪道の奥義に到達するには、まづこの「足もとに注意」して履物を正しく脫ぐ、といふ簡單なことから初めるのです。味はふべき言葉だと思ひます。

お客間へ通り、女中さんがお茶を運んで來て下すつたら、輕く頭を下げます。よその、女中さんだからといつてお母さんがつんと澄ましてゐたのでは、お子さんが丁寧にするわけはありません。

小母さまが出ていらつしやるまでの間、お子さんがはにかんで、なにか、もじ〳〵してゐるやうでしたら、輕い言葉を二、三かけてやつて落着くやうにしむけます。これは特別「靜かにしてるんですよ」とか「小母さまにご挨拶するんですよ」とかいふ必要はありますまい。却つて特別に意味のない「こゝの正男さんが家へ遊びにいらしたのはいつでしたつけ」ぐらゐの言葉で結構で却つてその方がお子さんも落着きます。小母さまへご挨拶することなぞは、お伺ひするまへに、日頃から、よそのお家へ伺つたら、小母さまにちやんと、ご挨拶するもの、と敎へておくべきです。

その反對に、よそのお宅へ伺つたといふので、すつかり燥いでしまひ、無暗に飛び廻つたり、床の間の置物を弄んだりしましたら叱るのは勿論で靜かにちやんと坐らせて置きます。

小母さまをお待ちしてゐる間はお母さんと二人なので、甘へて出されてあるお菓子などをねだりましても、決して取つてやつてはなりません。小母さまが出ていらして「おあが

りなさい」と仰つしやつて下さるまでは絶對に手をつけてはなりません。「おあがりなさい」と言はれても、一應お母さんに訊かせ、お母さんが「頂きなさい」と言つたら、お母さんから取つて貰つて食べるやうにさせませう。

食べる時は、靜かに、お菓子の粉なぞをこぼさないやうに、お行儀よく頂きます。食べてしまつたら、膝やお洋服などで、汚れたアンコの手を拭いたりせず、ハンカチか鼻紙で拭きます。疊へこすりつけたりさせて知らん顏をしてるお母さまなどは以ての外です。

小母さまに、年やその他のことを訊かれましたら、はにかまず、はつきり、丁寧に答へさせます。「六つだい」とか「そんなこと知らねえやい」とか言はせるやうなことがあつてはなりません。

子供は、はにかんだり恥しがつたりした時、投げやりな無作法な言葉を使ふものですから、たゞ言葉使ひだけを直さうとせず、他人の前へ出ても恥しがつたり、はにかんだりさせないやうな方法をとることが肝腎です。

これと反對に女のお子さんなぞに、お愛想に一つ訊かれると十ぐらゐ答へるおしやまさんな子供がゐますが、これも度を越えては見苦しくて聞苦しいものです。「一を聞いて十を知る」のは結構ですが、「一を聞かれて十を答へる」のでは困りものです。

このやうなお子さんは、また大人の話の中へよく傍からなにかと嘴を容れたがるものですが、これは嚴に戒めます。お母さまが他家へ伺ふからには、お母さまとしての用事があるからなので、子供がその大事なお話の中にいろ〳〵煩く口を挟んだのでは、御用が濟まないわけで、お母さまと一緒に伺つた時は、お子さんは愼ましやかに順しく控へ目にしてゐた方が見ばがよいものです。

ひとりて遊びに行つた時

さつきはお母さんと一緒に他家へ伺つた場合のことでしたが、今度はひとりで遊びに行つた時はどうしたらよろしいでせうか。

原則としては、矢鱈に人さまの家へは上り込まぬやうに躾けて置きます。然し若し小母さまが、「今日は上つて家で遊んで頂戴」と言つて下すつたら、その時は「今日は」をして上りますが、若しこれがそのお家の御飯時分や御晝親のお留守の時でしたら、どんなことがあつても上つてはなりません。遊んでゐて御飯時分になつたら、「さよなら」をすることも同樣です。

上つて、お菓子などを頂きましたら、歸つてから一應お母さんに見せて、それから食べるやうにして、その場ですぐ食べてしまふことはいけません。みつ豆とかお汁粉とか、その場で頂かなくてはならぬものは、歸つてからどこそこさんで何を頂いた、といふことを忘れずに必ず言はせるやうにします。それでないと御馳走になつた家の奥さんに逢つてお禮をいふことも出來ず、大變失禮をしてしまふことにもなります。

お友達の部屋へ行つて遊ぶ時は、玩具などを壞さないやうにします。繪本を見せて頂いて亂暴に扱つて破いたりしないやうにします。またふざけて障子や襖を破いたり、人さまの家の道具を珍しがつていじり廻して傷をつけたり壞したりさせてはなりません。子供といふものは、友達が遊びに來ると、お客間や、お兄さん、お姉さんの留守のお部屋などへ連れていつて、いろ〳〵なものを自慢したがるものですが、大事なものを壞したり失くしたり、汚したりしてはなりませんから、さういふ部屋へは入らぬやうに躾けておきます。

また、友達の玩具を借りて遊び、遊び終つたら散らかしつ放し、放りつぱなしで歸つて來るやうなことをせず、玩具は玩具箱へなり、なんなり、ちやんと藏つてから歸つて來るやうにさせることが宜しいです。

お言葉

次はお言葉ですが、もうこの年齡のお子さんは、ひと樣やお友達に「ばかやらう」などといふことの惡いことはちやんと知つてゐるのです。けれどもいつてはいけない、と思ふと餘計言つてみたいものなのです。それで、何かと言へばすぐ「ばかやらう」と言つて喜

んでアハァハ笑つたりします。

これは言葉の汚い友達や、大きな子のいふことから覺えて來て、さういふ亂暴な言葉を使ふことでおとなになつたやうな氣がして言ふのが普通ですが、時には、お母さんが口汚く「ばか」と叱つたり、「おばかちやんねえ」と言つたりしたことから覺えて使ふこともありますから注意致しませう。

また聞いてゐてハッと耳の赤らむやうな性的な言葉を口にすることもありますが、これも「ばか」同樣、わけは解らないながら使つてはいけないと、禁止されてゐるその禁止を破る快感から言ふのですから、そのやうな言葉を口にしましたら、嚴しくこん〳〵と戒めます。

お友達に「ばか」といつてはいけないと同樣、お友達の綽名を呼ぶことも亦いけないことです。「富夫さん」を「トンちやん」と呼ぶぐらゐのことは未だ罪はありませんが、「出ッ齒」とか、「びつこ」とか、「デブちやん」とか呼ぶことは、どんなにお友達の幼い魂を傷つけることでせうか。それでなくとも、お友達は自分のさういふ所を氣にしてゐるのですから、不用意に「出ッ齒」とか、「びつこ」とか呼ぶことによつて、その子の性格を暗いものにしてしまひます。相手の最早どうにもならない肉體の缺陷を擧しめることは最も卑劣なことです。

わが子がそのやうな言葉を使つてゐるのを發見したら「若しあなたがあの子のやうに足が惡く生れたらどうします。そしてお友達から『びつこ〳〵』と呼ばれたらどんなにか悲しいでせう。足が惡く生れたのはなんにもあの子が惡いのではなくて、仕方がないことなのです。あゝいふ氣の毒な子はいたはつて上げなくてはなりません」と教へませう。

「縊死者の家に繩を語らず」といふ格言があります。頸をくゝつて死んだ人のある家へ行つては、「繩」といふ言葉を使ふことさへ愼む、といふ意味です。このいたはりと愼しみが禮法の根本精神です。

なほこれは、お友達にばかりでなく、大人に對しても綽名を呼ばしてはなりません。禿

ちやびん」などといふ言葉は、子供はすぐ覺えてしまふものですから、子供にそれを言はせないばかりでなく、お父さん、お兄さんにも、さういふ言葉は使はないやうにして頂くことが肝腎です。

女中さん、ねえやさんを呼ぶ場合は、名前を呼び捨てにせず、「花子さん」「お花さん」とさんづけで呼ばせます。かういふ場合は子供は必ずお母さんの呼ぶ通り呼ぶものですからお母さん自身が「お花！」と呼び捨てにしてゐながら、子供にだけ「お花さん」と呼べと言つてもそれは駄目です。

ねえやさんを呼ぶ時も「ねえや！」と言はずに、「ねえやさん」と呼ばせるとか、すべて友達に喋る時と同じにさせればよろしいと思ひます。それ故、親しみをもつて「花ちやん」と呼ぶことは一向に差支へありません。

西洋人を見ると、子供はよく「異人バツパ猫バツパ」などと言つたり、支那人が通ると「チヤン〳〵坊主くそ坊主」と囃したりしますが、異國人をこのやうに侮蔑の眼で見ることは宜しくありません。日本は今大飛躍を遂げつゝあり、これからは益々他國人と往來することが激しくなつて參りませう。さういふ際には是非大國民として恥しくない國際的氣品の必要が愈々必要になつて來ますが、その時の素地を養ふ意味に於ても、さういふ侮蔑的な言葉はやめさせなくてはなりません。

いま日本が支那と戰爭してゐるからと言つて、支那人を侮蔑させてはなりません、東洋平和の爲には、日支の國民は一層親善の度を深めてゆかなくてはならぬのですから。

おやすみ

さて一日が終りました。今度は寢るのです。寢る前にはちやんとおしつこに行かせ、齒を磨かせます。そして着物を着換へるぐらゐのことは自分でさせます。脫いだ着物は、疊んぎつ放しにさせて置かずに、枕元にちやんと袖疊みに疊ませて置くことが必要で、これは殊に女のお子さんには是非さうさせませう。着物を疊ませたりするのは小さい者を躾けす

ぎるやうで憚らしい、とお考へになる方もあるか知れませんが、それは遠ひます。まだ小さいのですから、自分で重い大きなお蒲團を出すことは出來ぬかも知れませんが、せめて自分の脫いだ着物を疊ませるぐらゐのことは、自分のことは自分でする、といふ習慣をつける上からも必要ではないかと存じます。

また、別の意味から言つても、ちやんと寢間着に着換へてしまつてから枕元に坐り、靜かに着物を疊むことは、氣分を靜かに落着かせ「サアこれから寢るんだぞ」といふ暗示を與へることにもなつて、寢つきの惡い癖などをなほすのにも役立ちます。

寢間着と着換へましたら、「おやすみなさい」の挨拶をさせませう。これは、一日のお作法の最後の締くゝりです。一日を無事に暮すことが出來たといふ感謝の氣持を、「おやすみなさい」といふ簡單な言葉——形から教へてゆくのです。禮儀正しく、「おやすみなさい」をして靜かに眠る夢の世界は、どんなに深く、たのしく、美しいことでせうか。

小學一年生のお行儀

頑是ないとはいへ、お子さんも小學校へ入つたのですから、子供心にも事のよしあしの辨へが多少出來て來た筈です。少しづゝ形の上でも、禮法に叶つたお行儀を教へてまゐりませう。

いまゝでは近所の幼いお友だちと遊び戯れる他は、お家にあつてお母さん相手の生活が大半を占めてゐたのですが、小學入學と共に一日のうち三、四時間はお家を離れ、他の人と接觸を持つ生活が始るのですから、さういふ中でお行儀が必要となつて參ります。

あちらの町、こちらの町から集つて來る大勢の子供達といつしよに一つの教室で、「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」の讀み方やお習字を教はる集團生活の中へ置かれます。その中では授業中に勝手に席を立つたり、我が儘にお喋りをしたりしてはいけないといふ規則を守らねばなりません。先生が右向け！と號令をおかけになれば、その通りに向かな

大圖



（自分のことは自分で）

むのはよくありません。角をためて牛を殺すとか申しますが、禮法の精神は肝腎のものを殺すことではないのです。

さて、朝、おめざを與へなくては起きない習慣がまだ抜けてをらないやうでしたら、丁度絶好の機會ですから、この際ふつつり矯正しませう。カバンに教科書を詰めたりなさることもお止しになつて下さい。成るほどお母さんにして見れば、やつと一番低い小枝に飛びつくことを覺えた

くてはなりません。遊戯の時間にしても、フツトボールを自分だけで抱へてゐるわけにはゆきません。繩飛びも順番を待たなければ、みんなで樂しく遊ぶことが出來ません。ですから以前のやうなお山の大將をきめ込んだ自分勝手な振舞が一切出來ないわけです。

このやうに單純な形ながら、子供の最初の社會生活ともいふべきものが始まるのですが、そこでは各々のお子さんが秩序、統制のある振舞をしなくてはなりません。その振舞が禮法なのです。

また、こゝでは尊敬しなくてはならない指導者、先生に對する禮法も必要となつて來ます。それと共に家の外のさういふ生活を持つやうになつたお子さんの家庭内でのお行儀の躾け方が一層大切になつてまゐります。それをお母さんとごいつしよに研究いたしませう。

自分の事は自分で

勿論、草花の二葉、樹の若芽のやうなお子さんを四角四面にお作法々々で型に嵌め込

雛鳥のやうな、いたいけないお子さんのことですから、何かと庇ひ、手を貸してやらねばとお考へになるのは御尤もです。新しい生活に馴れなくて、何度も起された揚句、やつと渋い眼をこすり〳〵起きてくれれば、唯々いぢらしく、それに學校を遅刻させたり、教科書を入れ忘れたりさせるやうなことがあれば、母として無責任だとお思ひにもなり、つい手出しをなさるのでせうが、これはお子さんのために決していゝことではありません。

かういふ態度が、のち〳〵までの生活を支配しますし、お行儀を仕込む上から言つても、大きな支障となります。

夜、床に就く前に、「時間割り通りに本が揃つてゐますか」といふ風な注意は母らしいやさしい行届いた心遣ひで、近くで絶えず見守り乍ら、お子さん自身に責任をもたせ、出來るだけ自分できちんとするやうに仕向けて下さい。そのためにはお子さんが、きちん〳〵出來るやうに、いろ〳〵な準備をしておあげにならなくてはなりません。

ものはきまりよく

机、本箱など、學校生活に必要なものをお子さんに與へて、勉強のしよいやうにしてあげて下さい。別に贅澤なもの、また殊更新調しなくてもよろしいでせう。有合せで結構です。お部屋を一つづゝ與へることはお宅の事情で許されないことですから、明るいお部屋の片隅に机や本箱を据ゑて「ここゝがあなたの勉強するところ」だと教へ、生活をきちんとするやうに、まづ定めの場所を與へます。

どうせ一年生だもの、兄さんや姉さんの机の端を借りてもすむだらうといふやうでは、お子さんがだらしなくなります。兄さんや姉さんが勉強する時、邪魔になるので他へのけてしまひ、何かのはずみで本や鉛筆がどこかへまぎれ込んでしまふ。また、ちよつと兄さんの鉛筆を借りてしまふ、かういつた調子から、自分のものと人のものとのけじめがつかなくなり、それがやがてお行儀の悪い振舞になります。

本箱も同樣です。僅か五、六冊の敎科書ですから、有合せのミカン箱に色や模樣の美しい包裝紙でも上貼りをし、お子さんに切り紙細工をさせて、貼りつけたりなされば母と子の合作で氣の利いた本箱が出來上りませう。

かういふお母さんの頭のよい機智が、子供をお行儀よくさせるのに大變役立つものです。

「こんなところへ本をおつぽり出してはいけない」「また散らかして、ちやんと片づけなさい」と口喧しく御言る代りに、子供が自分の生活を樂しく守つて行けるやうに仕向けてやります。

帽子やカバン、洋服をかける場所も是非お子さんの入學と共に新しく設けてやりませう。お玄關にカバンを投げ出し、お部屋のこつちの隅には上着、あつちの隅には雜下、本當にうちの子供はだらしがないつたらありやしないと叱つ前に、お子さんがそんなことをしないやうにお母さんの方でお膳立が出來てるかどうかお考へ下さい。

定めの場所に入用の品々がきちんと揃へられてあれば、急ぎの場合もまごつくことはなく、平常のかうした心構へが基礎となつて子供は一歩一歩お行儀よく育つてゆきませう。家庭内のその態度が共同生活の中で禮儀正しい行爲となつて、自然巧まずに外へ表はれるものでございます。

出入りその他の挨拶

朝は「おはやう」を、夜は「おやすみなさい」の挨拶を述べること、またお食事の際の、「いたゞきます」「御馳走さま」などは前の章で述べるやうにと申上げておきました。今度はお子さんが、家を出たり、入つたりするやうになりましたから、出入りの挨拶をさせませう。

學校に行く時は必らず「行つてまゐります」と言はせ、歸つた時はまた「只今」と言はせるやう、最初の日から習慣をつけませう。それもカバンをかけて玄關口を出るとき、「行つてまゐりまアす」と怒鳴つたまゝ駈け出すやうなこと、歸つた時も入口をガチヤンと引

き開けるなり「たゞいまア」と叫ぶなどはたしなめなくてはなりません。これでは折角の挨拶も意味がなくなります。

カバンを肩にかけないうちに坐つて手をついて、「行つてまゐります」を言はせます。お母さんが廊下やお臺所に立つていらつしやる時なら、わざ〳〵坐り込む必要はありませんが、立つたまゝでも頭はちやんと下げて挨拶させます。歸宅の際も同樣です。「只今」も、ろく〳〵言はずに「お母さん、おやつ」と、お母さんの體に飛びつくやうな態度は七八ツのお子さんとしては可愛いやうには見えますが、そのまゝで見逃しておくと、いつまでも甘へつ子で後々までしめしがつかなくなりますから「はい、只今」とお母さんからやさしく歸宅の挨拶を促して下さい。それからお子さんが出入の挨拶をなすつた時はお母さんの方でも「はい、行つていらつしやい」と挨拶を返し、「只今」と言へば「お歸りなさい」と返事をして下さい。折角挨拶をしてゐるのに「あ」とか「ウン」などですましておけばいつしかお子さんが不行儀になつてしまひ、人さまにも頭を下げなかつたり、御挨拶をしなかつたり、無作法なことをするやうになります。

子供に挨拶をさせると共に、お母さんも出入りにはお子さんや、女中さんにも同樣に挨拶なさることをお忘れにならないで下さい。

この他、お父さま、お母さま等に、ものを頂いたとき、お兄さん、お姉さんに勉強を敎はつたり、何か御面倒をおかけした時は「有難う」とお禮を言はせませう。

他所のおぢさん、おばさんには「有難う」を言つても、自分の家の人には、家の人だから「有難う」なんか言はなくてもいゝのだと思つてゐるお子さんがありますから、これも言ひ聞れさせませう。その代り、お母さん方の方でも、お子さんに「ちよつと其處から新聞を持つて來て頂戴」と子供の手を煩はしたやうな時は、あとで「有難う」と勞を揚らつて下さい。「お菓子をあげるから、お使ひに行つて來て下さい」といふ風な交換條件を出さなくては子供を動かすことの出來ないお母さんは、お母さん自身で子供への禮を缺いていらつしやることが原因してゐるとも申されませう。

それから、往來などで近所の方や知人に行き逢つた時、先生やお友だちにお會ひしたときにはまづお辭儀をさせます。子供ですから「お早やう」とか「今日」以外には特別に御挨拶の言葉はなくてよろしいからお辭儀をさせて下さい。

小さいお子さんが少し差みながら、學帽を脫いでピヨコンと頭を下げてゐるのは可愛くもあり、いゝ育ちの程も偲ばれて、そんなお子さんをお持ちになつたお母さんのお人柄が頷ける氣がいたします。

身のまはりは清潔に

征朝齒を丁寧に磨くこと、食事の前に手を洗ふことは、既に習慣をおつけ下すつたことゝ存じます。お子さんも前の章に述べた時代より大きくなりましたから、もう一段と念入りに身じまひをさせませう。

齒も食事のあと、床に就く前にも磨かせませう。食事のあとなどは丁寧にするに越したことはありませんが、三度の食事の度にあまり丁寧を强ひれば、瞎坊になつて却つて良習が破れますから含漱の程度でも結構です。青い菜つばの破片などや、お菓子のカスなどを齒の間にためてゐるのは見苦しく、人目にも不快を與へます。

外でいろ〳〵な埃を吸つてゐますから、學校から歸つた時にも、水や番茶などで含漱をさせるやうに習慣づけて下さい。まだ全身の機能が頑健に完成してゐない子供の保健上からも大切です。

食事の前ばかりでなく、學校から歸つた時、お習字や手工などのあとでも手足を洗ひ、顏を洗はして下さい。殊に手足の爪は再三切るやうにして下さい。長く伸びてその間に黑く垢などたまつてゐるのはよくありません。

それからハンカチ、鼻紙は通學その他外出の際、是非忘れないやうに持たせて下さい。着物の袖口やスカートの端などに鼻汁をなすりつけたり、汚れた手を拭いたりして、むさくるしいことをするのは、その用意が怠られてゐた結果で、如何にも育ちの惡さを思はせ

ます。

肌につけるものは殊に清潔でありたいものでございます。汚れたシャツ、パンツなどは自分で取り換へること位はそろ〳〵仕込んでもよいでせう。夜、お風呂場の控室に子供の整理棚や整理箱を据ゑて各自の名前をつけ、洗濯した肌着類を入れておきますと、お子さんが手輕にそれと着換へることが出來て便利でせう。お母さんが忙しくて手が廻りかねても、お子さんがひとりで垢のつかない身なりをしますから、お母さんも大助りでせう。

脫いだ汚れものは、風呂場の片隅なりに入れる習慣をつけておけば、一層徹底いたしませう。お洗濯する段になつて、やれ、シャツはどこへ脫いだといたの、靴下が片方見えないのでは、つい癪劫にもなりますし、仕事の能率も上らず、もう一日それで辛抱しておきなさい、といふことになり、子供に垢ぢみた、恰好をさせておくことになりませう。

好ましい身じまひといふのは、美しい衣服を身に纏ふことでないのは勿論で、清潔にしておくことが禮法の上から言つても根本精神なのです。

校服など、ズボンのお尻のあたりにお母さんの丹誠の繼ぎがあたつてをり、アイロンをきちんとかけた映いほど白いワイシャツのカラー、カフスが衿もとから、袖口から覗いて見えるといふやうなお子さんの姿は、胸のすくやうな凛々しい身なりで、お母さんの床しいお心掛けが窺はれます。

女のお子さんなど、美しい色や柄の衣服で愛らしく飾つておあげになることは勿論、やさしいお母さんの愛情の表はれで結構ですが、それと共に頭を度々洗つて、いつも艶々と埃やフケなどのたまらぬやう、また冬など霜やけやヒビの切れてをらぬやうお手當てをなすつてあげて下さい。

遲刻はいけません

必らず朝、遲刻しないやうに一年の初めから習慣づけませう。

ある意味では缺席することより、遲刻することの方が遙かにいけないことだと言へませう。缺席するのには、まあ言つてみればそれぞれ理由があるわけで、例へば病氣をしたからだとか、どうしてもお休みしなくてはならない用事があつたとかいふ風に。併し、遲刻するのはその人が怠慢であつたといふ證據と見られるからです。

それに教室でもう皆が揃つて先生から勉強を教つてるところへ、一人だけ遲れて行けば、そのため級全體の緊張が破れて、授業の妨害になります。さういふことは共同生活の中では嚴重に戒めなくてはならないことと思ひます。

一方、當の子供自身にとつては定刻に遲れて、あとから、のこ〳〵入つて行くことは、それだけで、もう人に負目を感じるものです。朝の第一時間目から人に負けを取つたといふやうでは、一日ぢう何かとうまくゆきますまい。また遲刻すれば時間を損したといふだけでなく、勉強の方もそれだけ人に後れるのです。度々さういふことがあると、勉強が分らなくなり、面白くもなくなり、つひには學校にゆくことが厭になりませう。

（遲刻はいけません）



子供の時から、この時間を正確に守るといふ態度が大切です。

一體、日本人は世界の文明國にも似合はず、時間が不正確だといふので有名です。そのために日本時間などゝいふ不名譽な言葉が出來てるくらゐです。

午後二時に集るといふ會合に、正直なことを言つたつて、どうせ一時間ぐらゐは遲れてくるだらうからと、始めからそれを計算に入れて、正二時にお集り下さいなどゝ白々し

く申し渡したりします。又招かれる方では正一時としてあるが、皆が正確に揃ふまいと、たかをくゝつて、一時間も遲れて「やあ」などゝ、すまして着席するといつた具合で、正直に時間を嚴守する人は、大切な時間を一時間も無駄にしなければならないのです。子供の時分からこれは是非念頭におかせて、惡習を改めたいものです。

幸ひ、學校は時間で規則正しく課業を修めるのですから、學校生活から、その精神を充分學ばせませう。

勉强の方はまあ中位だつたが、缺席、遲刻なしで皆勤だつたといふことは、それだけで充分に眞面目な態度で自分の學業に專念したと言つてよいでせう。

先生を尊敬させませう

先生は子供の最初に尊敬する指導者です。何はさておき、まづ先生を尊敬させませう。學校では環境、性格のそれ〳〵異つた子弟を一堂に集めて、一定の方針のもとに教育するのですから、お母さん方としては多少の御意見もおありでせうが、子供の前で決して學校當局の方針をとやかく批判したり、先生の教へ方をあれこれ仰言らない方がお子さんのためによろしいのです。

よくあることでございます。「だつて、うちのお母さんはかう言ひました」などゝいふ子供がありますが、これでは先生の面目は丸つぶれです。若し、先生が御自分の方針に從はうとなされば「あなたのお母さんの仰言つたことは間違です」と言はなくてはなりません。

子供は先生を尊敬すべき方だと信じてゐます。また一方お母さんの言ふことに間違ひがあるなどゝは考へません。すると、どつちが本當なのか判らなくなりませう。新しい教育を受けたお母さんに特にこの點をお考へ願ひたうございます。若しこんなことから、お子さんが少しでも先生に不遜な態度を取るやうになりましたら、無禮なだけではすまされますまい。教育上にも支障を來しますし、謙讓の美德を缺くことにもなりませう。

兎に角、お子さんが先生を衷心から尊敬するやうに、お母さんも平常から先生に敬意を

拂つて下さい。まづ、お子さんには先生に名指しをされたとき、はつきりと「ハイ」と返事をさせて下さい。靜かになさい」と言はれたら、言下にお喋りを止めさせて下さい。これがまづ基本的な態度です。

併し、決して先生を怖い方だと思ひ込ませないやうにして頂かなければ、教育上やはり困ります。唯親しみに狎れすぎた無作法は充分たしなめませう。

運動場や、街路などで小さい生徒が先生の手にすがつて、「先生、先生」と慕つてゐるのは何となく微笑しい圖ですが、しつこくいつまでもすがりついてゐるのはたしなめませう。まして、先生が過つて仁つたり、躓いたりなすつたとき、手を打つたり、「ヤーイ、ヤーイ」などゝ囃し立てたり、先生の背中に紙片などを喰つつけて面白がつたりするやうな愚ふざけは止めさせなくてはなりません。

先生のお頭に手をかけたり、お髭にさはつたり、その他先生の體へ矢鱈に手をかけることは愼しみませう。また、先生の馬鹿野郎とか先生のお名前をふざけて呼び捨てにしたり、背の高い、先生を「のつぽ先生」などゝ綽名で呼んだりすることは特に注意しておいて下さい。

「三尺去つて師の影を踏まず」と言つて、昔のお弟子さんは先生と同伴で道を行くとき、假令、影でも先生の影を踏むのは禮に非ずとした位でした。今の時代では形の上でこそ相違がありましても、先生を尊敬する精神はかくありたいものでございます。

屋外でのお行儀

道路は左側を通行することはお子さんもよくご存じでせう。猶、路上に痰、唾を吐き捨てたり、紙屑やその他不潔なものを投げ捨てたりしないやうにして下さい。荷車などの後にぶら下つて、ほら〳〵するやうな危いことをよくするものですが、交通規則もさることながら、危險この上もないことですから、是非止めさせて下さい。（挿圖參照）

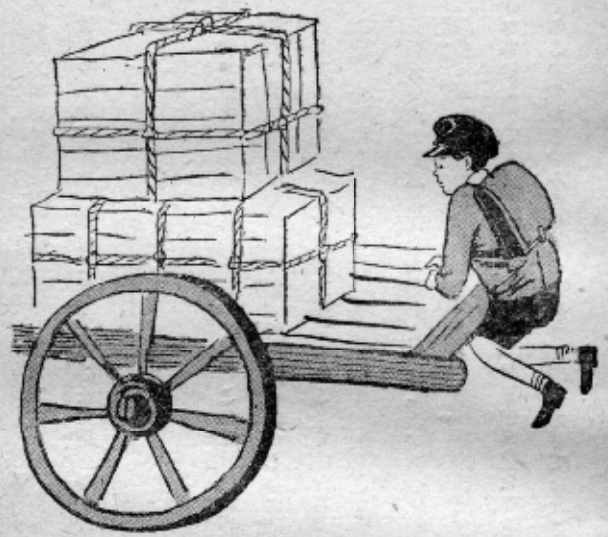
電車、汽車その他の乘物の中で、座席に上り込んで泥靴や泥下駄の先で隣席のお客さまの着物を汚したりしてゐるのを、よく見受けますが、かういふ不作法もきびしくたしなめ

ていたゞきませう。

遠足やピクニツク、運動會などでお辨當を頂いたあと食べがら、バナナやミカンの皮、キヤラメルの箱などを所かまはずに投げることは、非常に汚らしいことですし他の人の興を殺ぎますから、綺麗にあと片づけをさせて下さい。屑籠などの設備がある時はそれへ捨てゝ仕末させます。

公園や遊園地では花や樹をむしつたり、折つたり、瑕をつけてはなりません。日頃から人さまのお庭を荒したりしたやうな場合、よく〳〵言ひきかせてお置きになることです。芝生へ入つてはいけないとか、これに手を觸れてはならぬとかいふ規則があれば嚴しく守らねばなりません。

大して惡氣やたくらみがあつてのことではないのですが、惡戲盛りなので、つい度の過ぎたおいたをしますから、お母さんも絶えず御注意下さい。板塀や壁へ樂書をすることもこのころのお子さんのやることですが、止めさせて下さい。



公衆道德の初步としてかういふところから、だん〳〵進めてゆきませう。

更にこの精神を進めて道端に落ちてゐるガラスの破片、空罐、釘、金など、人が踏めば怪我をするからといふ心からわきへ取り除くやうになれば一層嬉しい振舞です。

お宅の中ではお母さんのお躾けが相當行き屆いてゐるお子さんも一步外へ出ますと、外所だから、直接自分の身邊のことでないから

といふので、案外不作法な行をし勝ちですから、屋外でのお子さんのお行儀は一層氣をつけるやう、どんな些細なことでも人さまに迷惑をかけないやう、嚴しくお躾け下さい。

おつきあひ

お友達とのおつきあひと言つても、この時代は相變らず幼い隣近所のやんちや友だちと遊ぶことが主になるのですが、近所からいつしよに學校へ通ふお子さんがあれば、遊び友だちであると同時に、學校友達でもあるのですから、學校友達としての態度が必要になつてまゐります。

正夫さんと呼ぶお友だちを今までは「まアちやん」と呼んでゐましたが、學校へ行つて敎室に入れば先生が、「藤木正夫さん」と姓をお呼びになります。そこで正夫さんはもう「まアちやん」でなく、小さい乍らも、ちやんとした「藤木」と名乘る一人前の人として扱はれるのですから、みんなもそのやうに考へなくてはならないのです。

「藤木君」とか「正夫君」とか呼ぶやうに改めさせませう。赤ん坊のときから近しくしてゐるので、家へ歸つて遊び友だちとしてつきあふ時には愛稱の「まアちやん」と呼ぶことまで喧しく言ふことはありますまいが、學校や公の場所では正しい呼び方をさせませう。自分の事は、子供のことですから「私」と言はせることはいりませんが「僕」と云はせて下さい。お友達のことは勿論「君」と呼ばせます。「お前ンちで遊ばうか」とか「おれンち來いよ」などゝ言ふのは大變聞き苦しいと思ひます。

それからお友だち同志で、他のお友達のことを話し合ふとき、よく親愛の氣持から「あいつがね」とか「あの野郎がしなどゝ言ひますが、これは是非直して頂きます。やはり「森田君が」「宮島君が」と正しく呼ぶやうにさせて下さい。

剛切れのよい話しぶりは、如何にも子供らしく凛々しくてよろしいが、亂暴な口のきゝ方は愼ませます。「森田君がさういやがつたのさ」だとか、「おい、藤木君來いよ」だとか、言ふやうな言葉遣ひは追々改めさせませう。丁寧すぎたり、固苦しい文章みたいな言葉は子

供の言葉の生命を殺し、子供の生活の新鮮さをなくすることですが、「さういやがつたのさ」を、「さう言つたんだよ」と改めさせること、「おい」を「ね」、「來いよ」を「來給へ」と言へなくとも「來ないか」に改めることは子供として少しも不自然ではなく、而も粗野でなくなりませう。小學校一年生ぐらゐの男のお子さんの言葉遣ひはこの邊の手加減を加へつゝお躾け下さればよろしいでせう。

女のお子さんの方は男の子のやうな荒つぽい言葉遣ひは止めさせなくてはなりません。女の子は「お前」とか「あいつ」とかは、まさか申しませんが「みイちやんがさうしたんだよ」と男言葉で言ふところは、「さうしたのよ」と改めさせ、「山田さん、遊ばうよ」を「遊びませうよ」「遊ばない？」といふ風に改めさせませう。「ヤーイ」とか「ヘン」とか「なあんだ」とか、いふやうなものゝ言ひつぷりは是非注意して頂きたいと思ひます。

お友だち同志が、まるで仔犬のやうにころ〳〵と縺れ合つて遊び戯れてゐるのはつい微笑ませられる光景ですが、度が過ぎて、相手のお友だちの額をポン〳〵打つたり、髪の毛をむしつたり、くすぐつたりするのはよくありません。

また虫の好かない子が來たといふので、舌をベロリと出したり、齒をむいて「イー」をしたり「アカンベイ」をしたりするなどは、小さい時からいましめておきませう。

男の子が早くも男性の優越感から、何んだ女の子ナンかといふやうな素振りで、女の子いぢめをすることは固くいましめなくてはなりません。

女の子とばかり遊んで、お人形さんごつこをしたりしてゐるのは、これまた男の子らしくない振舞ですが、女の子が道に筆箱を落したりした時、いつしよに鉛筆やゴム消しなどを手傳つて拾つてやる程の床しさがあることは、男の子として實に立派です。拾つてやれないまでも「君、向ふの隅の方にも落ちてるよ」と見失つたものゝ在所を知らしてやるやさしさは是非持つてゐて欲しいものです。

お友だちと朝出合つたときは「お早やう」を交はし、別れるときも「さようなら」を言はせませう。男の子ならば「失敬」でもよろしいでせう。

小學三、四年生のお行儀

お子さんもこの邊の年ごろになりますと、よほど聞きわけが出來てまゐります。さあ一段とお行儀よく躾けてまゐりませう。

兩親、長上へのお作法

まだ罪はないのですが、そろ〳〵男の子は生意氣になつたり、女の子は意地惡になつたりする年ごろです。ひとかど分つたらしい口を利く癖に、本當はよくは判らないのですから、お母さんは一年生を扱ふやうな具合に生やさしいことではすまず、大變お骨折りなさいますでせう。

呼んでも、すぐ返事をしない時には、お叱りにならなければいけません。何ほともあれ「ハイ」と言下に答へさせます。お子さんが「ハイ」といふ答がはつきり出來るやうになればお母さんのお仕込み、お躾けが充分に行き屆いたと申してもよろしいでせう。お父さん、お母さん、その他目上の方に呼ばれた時は「ウン」とか「あア」とかいふ風な失禮な返事は必らず愼しませ、明快に「ハイ」と答へさせ、それと共に直ちに立ち上つて、呼んだ方の側へ行き、御用のお言ひつけを伺ふやうにさせませう。そして言ひつけられたことは出來ないまでも直ちに取りかゝらせます。若し直ちに立つて行けないときは取敢えず「ハイ、只今」とか「ハイ、ちよつと待つて



（鳩に三枝の禮あり）

下さい」といふ風におことはりさせます。またお言ひつけ通りに出來ないときには、これこれですから、すめばすぐしますと、理由をちやんと述べるやうにさせて下さい。

例へば「幸雄さん、ちよつとお使ひに行つて來て下さい」とお母さんがお呼びになりました。幸雄さんは常々繪が大變好きで、今もお部屋の窓からお庭のダリヤを一生懸命寫生してゐます。丁度花の背景の空を水色の繪ノ具でぼかしてゐたのです。で幸雄さんは「お母さん、いま繪を描いてゐるんだけど、こゝを塗つてしまはなければムラになるの、ちよつと待つてね」と言ひました。幸雄さんのこの態度は決してお母さんに對して失禮ではないのです。

好子さんは雜誌を夢中で讀んでゐます。お姉さんが「好つちやん、お掃除をするんだけれど、ちよつとそこをどいて、あなたもお手傳ひして頂戴」と言ひました。ところが好子さんは雜誌に噛りついてゐて「ウン、ウン」と返事もロク〳〵しなければ動かうともしないばかりか、重ねて言はれますと「何んなのよオ」とブツとふくれ、果ては雜誌をばたんと投げ出し、あゝァと欠伸までしました。おまけに「うるさいわね」などゝ呟きました。これではもうお話しにもならない不作法です。

また「一郎さん、ちよつといらつしやい」とお母さんがお呼びになると、一郎さんは威勢よく「ハーイ」と返事をします。こゝまでは大變いゝのですが、いくらしてもお母さんのところへ伺はない。又呼ばれると「ハーイ、只今」併しやはり返事だけ、春枝さんはお母さんから「一寸お使ひに行くからお釜がふいたら、ガスの火を細くしといて頂戴」と仰言つたので「大丈夫よ、ちやんとしておくわ」としかと返事をしました。併しお母さんが歸つて來て見ると、御飯が焦げてゐました。かういふ返事だけで實行しようといふ誠實の伴はない態度は大變よくありません。

殊に、お父さん、お母さんへはお行儀がよくても、兄さん、姉さん、長上の方へは謹愼を缺くことがあり勝ちですから、お子さんに長幼の序を亂すやうなことを固くいましめて下さい。

「鳩に三枝の禮あり」と言ひ、禽獣の類にすらこんな床しい習性があるくらゐです。

このやうにお子さんを躾けます代り、お母さんの方でも、お子さんは呼ばれたとき「ハイ」と言つてあげて下さい。「ねえ、お母さんてば、ねえ」など、再三呼んでゐるのに、ちやんと返事をしてやらなかつたり、やつとこつちを向いて「何んだといふの、うるさい子ね」などゝ言ふのは、お母さんの方で改めて頂かなくてはならないことです。

それから、お父さんがお役所やおつとめさきから歸つていらしつたとき、お母さんといつしよに、お玄關までお出迎へして「お歸りなさい」と御挨拶をさせて下さい。お母さんにもさせます。お兄さん、お姉さんにもやはり「お歸りなさい」と言ふ習慣をおつけ下さい。

日常のお行儀作法

「さあ、御飯ですよ」と呼ばれる頃になると、きまつて勉強をはじめたり、何かに取りかかつたりするお子さんがありますが、さういふことは止させませう。

何の氣なしにすることですが、机、床の間などに腰をかけたり、ひどいのはお膳や火鉢に腰をかけたりするものですが、これは嚴しくお叱り下さい。また机や床の間に靴下の類を置かぬやうに。

寢ころんで本を讀むこと、本を讀みながらお菓子を食べたりするのもお行儀がよくありません。お習字がすんだあとは筆を洗ひ、硯箱の蓋を開けつぱなしにしておかないで、きちんとして机の上を整頓させます。

圖畫の勉強のとき、繪筆の水を切るのに、障子や壁に、ひゆうとばしたりすることもいけません。書きほごしや鼻をかんだ紙などを撒きちらしておかず、屑籠へ捨てさせます。鉛筆を削る時、お庭にぢかに削り屑を落したり、もつとひどいのは机の上や火鉢の上で削つたりさせないことです。反古紙の上で削つて、鉛筆の粉などを散らさないやうにして、紙を丸め屑籠へ捨てさせませう。

昔の人は本を疊へぢかに置かず、机の上から下ろすときはお盆にのせたと言ひます。そ

れは書物には先賢の尊い教の言葉が記されてゐるのだから、假りにも足で踏む譯にぢかに置くことは先賢に對して非禮であり、又教へを輕んずる所業であるといましめたからです。

大變いゝ心掛けだと思ひます。本を踏いだり、足で踏んだり、投げたり、本の中のさし繪に髪をはやしたり、表紙の字を赤鉛筆などでなすつたりすることは神聖な教育の精神を汚す行ですから、お子さんによく言ひきかせて下さい。

肱をついたり、机の下へ兩足を投げ出したりして勉强する態度もやはり不作法です。

この年ごろになりますと、お母さんが何んでも面倒を見ておあげにならなくてもよろしい代りに、自分一存で何んでもしますから、お母さんの方でも御注意は怠れません。

外出する時、假令五、六間先のお友だちの家へ遊びに行くのでも、また始終行きつけてゐる親類の伯父さん、伯母さんのお宅へ上るのでも、必らず、どこそこへ行つてまゐります。とお母さんに話し、お許しを得てから行くことにさせて下さい。猶、遊びに行くとか、これこれの用事があつて行くとか、その理由を話し、何時までに歸りますと言ふやうにさせて下さい。かういふことをいゝ加減にし、うちの子のことだからと安心してゐられる家庭から、始末の悪い不良少年などが出るのですから、今から家の出入りを丸帳面にするやう躾けませう。

僅か十歳ぐらゐの子供が大外れたことをする筈があるものかとお考へにならず、またさうまで嚴格にする必要もなからうとお考へにならず、子供が學校以外のところへ出かけて歸宅しましたら、一應はどんなことがあつたかお糺し訊し下さい。勿論訊問のやうな口吻では、お子さんが不用意に喋つたり、無邪氣に喋つて、叉叱られるのかと思へば、慮心に話せませんから、やさしく「おばさんはどうしたの、おぢさまもお宅だつたの」といふ風な行つた先きのお宅の樣子から始めて、子供がどんなことをして遊んだか、どんな風にそのお宅で振舞つたかを知るやうにして下さい。

お子さんの教育の上からも大切なことですし、子供の家庭の外での行狀などが判れば、お母さんの躾けを徹底させるについてもよき資料となりませう。そのために、お子さんに

歸宅したとき、いろ〳〵とその間の出來ごとを報告するやうなお行儀をつけておくことは大變結構なことだと思ひます。

外出は特に用事のあるときは仕方がないとして、單獨で乘りものなどで遠出はさせないやう、また日が暮れてからの外出もこの時分のお子さんにはよろしくありません。

他家へ行つた時の心得

御飯時分に人さまのお宅へ上つていけないことは既に以前に述べましたが、夕方などの忙しい時分に人さまのお宅へ上ること、ましてお取り込みがある時、例へば御婚禮とか御不幸とか御出産とかがある場合、また遠方からお客さまがお見えになつてるといふやうな時に、お邪魔に上ることは、先さまの御迷惑になりますから、控へさせて下さい。

もうそろ〳〵人さまの生活にさしさはりのあることをしてはいけないのだ、といふことを敎へて行つてもよろしいでせう。

よそのお宅に上るときは、もし下駄穿きで足など汚れてゐましたら、お家でしてるたのと同樣に裏口で足を洗はせていたゞくとか、雜巾をお借りして泥などのついたまゝお座敷へ通らないやうにさせます。途中で雨に降られて衣服が濡れてるるのに、そのまゝ上つたりしてはいけません。靴下など泥水が浸みてゐましたら、お玄關で脫いで靴の中へ殘して上ります。レインコートのまゝ上るのもいけません。冬など外まきや手袋をはめてお座敷に通るのもいけません。

夏など、假令、おばさんが「まあ〳〵暑いから裸になりなさい」と仰言つても、パンツ一つきりの姿になるのは、お行儀がよくありません。せい〳〵上衣を取らせて頂く程度にします。

お茶やお菓子を出されましたら、お行儀よく頂きませう。「有難う」と頭を下げて、お茶碗を兩手で持つて飮みます。お子さんのことですから、手をどうかけるとかいふ風なお作法はまだ早いから喧しくいふことはいりませんが、片手で持つてそのまゝ口へ運んだり、銀

指をお茶碗の内側まで突つ込んで取り上げたりしてはいけません。お菓子は大きいのをそのまゝ手づかみにして口へもつてゆき頬張らないやう、鼻紙などの上に取つて、二つか三つに割りながらゆつくり頂きます。食べかけをお菓子鉢にかへしたりしないやう、あられのやうな小さいお菓子を指先で摘んで口へ運び、舐めた指先でまたお菓子を摘みなどするのは汚らしく、他の人に喰べ殘しを食べさせるのと同じで不作法です。

頂き終りましたら「御馳走さま」とお禮を申します。

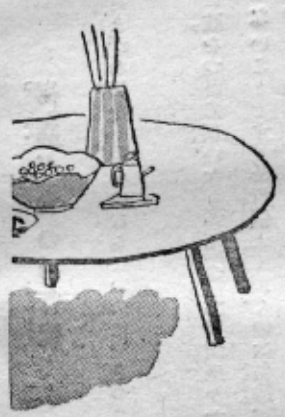
何度も「おあがりなさい」といはれても手を出さずに、おばさまが引つ込んでしまつたら、むしやゝゝ喰べ出し、おばさまの足音がすると慌てゝ手を引つ込め、すましてゐるなどは子供らしくなく、卑しいことです。また頂かうともしないくせにお菓子を睨んでゐるのもみつともないことです。頂きながら、上眼や横眼を使つておばさまの方をちらゝゝ見るなどは不行儀です。

御飯どきのお行儀

お父さまがお箸をお取りにならないのに、さつさと先に御飯に手をつけないやうにします。

お膳に肱をついて頂いたり（挿圖參照）、胡坐をかいて頂いたりしていけないのは、申すまでもないことです。お行儀よく頂くのは勿論、あんまり默りこくつて、お膳にかゞみ込んで頂くのはよくありません。ニコゝゝと樂しさうにして頂きませう。お夕飯のときなど全家族の顔がみんな揃ふのですから、その日學校であつたお話しなどをしながら頂くのは嬉しことで、お父さん、お母さんは可愛い、お子さんの口から「僕、今日算術のお答がみんなあつたので、先生によく出來ましたつてほめられたの」とお聞きになることはお樂しみなことです。併し、グラゝゝ笑ひこけたり、お箸でお茶碗の緣をちんゝゝ叩いて興に乘りすぎたり、口にいつぱい食べものを頬張つてお喋りをしたりしてはいけません。またお食

事中は、屠龍なお話や、犬が犬殺しにつれて行かれただの、芋虫をふんづけた話だの、人が電車に轢かれた話だの、御飯をまづくさせるやうな惨らしいお話はさせないやうにします。不思議に御飯が始ると、言つてはいけないお話を思ひ出したりするものですが、お母さん方でも絶対にお慎しみ下さい。



熱いお汁のお碗などは片手で受けとると粗忽して火傷などしますから兩手で受けとらせます。御飯の御給仕をしてもらつてゐるときは、おかずを食べたり、お箸を手にしながら待つてゐてはいけません。ちやんとお箸を、置いて待つてゐます。お母さん、お姉さんが何か口へ入れようとなすつてゐるとき、片手でお茶碗を突き出して、「早くウ、御飯」などと、お給仕をせきたてゝはいけません。お給仕の方が箸を置いて手をお出しになるまでお茶碗を置いて待つてゐます。



食事が始まりましたら、食卓の前を離れていけないのは、もうお膳けずみの筈ですが、食卓の上に並んでゐるおかず以外のものをあれこれとねだつて、お母さんをたゝせるやうなことをしてはいけません。

お汁やお茶を半分殘したりするのもよくないことです。お漬物、カツレツなどに中のものが泳ぐほどお醤油やソースをちやぶ〳〵かけてはいけません。

御飯がすみましたら勿論「御馳走さま」の挨拶は忘れないやう、お箸をぽんと投げたりしてはいけません。女のお子さんなどにはお箸をきちんと揃へたり、お茶碗とお皿を重ねて始末するくらゐは教へてよろしいでせう。まだ大した手助けにもなりますまいが、自分のお箸とお茶碗くらゐ臺所へ運ばせてもいゝと思ひます。

お友達づきあひ

同じ學校同じ級で勉強を始めてから、三、四年も經ちました。お友達とのおつきあひにも馴れて來ました。お子さんも新入學當時と比べて、あんまりやんちやな眞似やきかないことをしなくおなりになつたことでせう。併し、一方、感情も少しづゝ複雜になつて來ましたし、交友範圍も稍々廣くなつて來ました。今まで自分のことばかりしか考へなかつたのが、人の身のまはり、他の生活などに目を向けるやうになります。對外的な關心をもつやうになつて來たことは、子供がそれだけ成長したのですから、結構ですが、それだけ好からぬことも覺えますから、更に進んだお躾けをなさらなければなりません。

「朱に交れば赤くなる」といふ格言がありますが、よくないお友達とはつきあはないこと、お友達は選ばなくてはならないこと等教へてゐます。尤もそれに越したことはありません。



（孟母三遷の圖）

あの有名な「孟母三遷」のお話はよく御存じのことでせう。

支那に孟子といふ學者がありました。幼ないとき父を亡くし、母の手で育てられました。孟子のお母さんは賢婦人として名高い方ですが、初めお寺の近所に住んでゐたのですが、孟子が毎日門前を通るお葬式の眞似ばかり

するので、我子を教育する場所ではないと思ひ、町の方へ引つ越しました。其處は商人のゐる町で、孟子は今度は物賣りの眞似をして遊ぶので、孟子のお母さんは三度居を移して、學校のそばに住みました。すると孟子は學校で勉强をしてゐるのを見て、その眞似をして遊ぶやうになりましたので、初めてお母さんがこれでよろしいと安心されたといふ話です。

このやうに友達とか環境とかは子供の教育にとつて忽に出來ないことです。併し、今少し進んで考へて見ますと、いろ〳〵な身分の人、さま〴〵な職業の人が寄り合つて住んでゐるといふのが實際社會の現狀ですし、またさういふ人々がお互に助け合はなくては社會といふものは成り立たないのです。所謂共存共榮で社會が進み、文化も進むのです。して見るとどういふ場所に身を置くことになるか判らないのです。そして掃き溜めの鶴とか「泥中の蓮」とか言はれてゐるやうに、濁りに染まない身構が必要で、お行儀のよさ、愼しみのある振舞で、他から浸されず、また自分も濁らず、清らかに處して行くことが出來るのです。さういふきりつとした身構の出來るやうにさせたいものです。

御近所に疫痢にかゝつた子供があるとします。疫痢はなるほど恐しい傳染病ですが、それだからと言つて引越さなくてはならないとしたら大變なことでせう。傳染しないやう、嚴重に消毒し、またさういふ病氣にかゝらぬやう、平常から胃腸を丈夫にしておき、食物なども氣をつけて、豫防注射などをしておけば心配はないのです。

新しい時代の禮儀作法の精神とはこのやうに進んだものでありたいと思ひます。どんな環境にあつても、お互にお行儀よく振舞つてゐれば、決して惡風に染むことはないのです。ですから、常に、お子さんを禮儀正しくお躾け下さい。

例へば、お母さんから始終お金をねだつては、駄菓子の鐵砲玉を買つては道のまんなかでしやぶつてゐたり、おでんの立喰ひをしたりしてゐるお友だちがあるとします。さういふお行儀のわるいことを見習はせないやうにさせるには、あの子と遊んではいけませんと遠ざけることは、却つて子供に差別的な觀念を與へ、友愛の念を薄らがせることになります。で、さうするより、子供に路上で、ものを食べないやうに、お友達と買喰ひなどをさ

せないやうに常々躾けてあれば、不潔なお行儀の悪い眞似は決してしないでせう。

それから、ナイフとか切り出しとかいふやうな切れものを屋外に持ち出して、それで木を削つたり、草を切つたりして遊ばせないことです。かういふことは子供を殺伐にしますし、誤つて、お友達を傷つけたりします。野蠻な遊戯、危險な遊戯でお友達づきあひをさせないことです。男の子らしく勇しい遊戯は結構ですが、駈けつこをするとか、野球をするとか、その他男の子らしく充分に活潑な遊びが澤山ありませう。

お話がかういふところにまゐりましたから序に申上げておきませう。このころから、お子さんは屢々小英雄的な振舞をするものです。どんなことがあつても、お友達と腕力で爭ふといふことは絶對に禁じて下さい。何かと言へば手出しをしたがり、ひどいのになると下駄を脫いで相手を毆らうとしたり、石や棒つきれで相手を脅やかすやうなことをします。どんな理由があらうとも、お友達に危害を加へるやうな所業は野蠻極ることです。それから徒黨を組んで、東方、西方と別れ、大喧嘩をして快哉を叫ぶ、さういふ仲間で相當重き

を置かれることを誇とするといつたこと、これは何處の子供も少年時代には一度は經驗してゐることですが、昭和の今日、鐵男を好む眞似は是非止めさせませう。

この時代のお子さんは羨望、嫉妬、競爭の心が强く、好奇心も亦强いものです。

お家でちやんと入用の學用品、運動具など買つてもらつておきながら、「人の花は赤い」とでも譬へませうか、お友達が變つた形の鉛筆削を持つてゐると、自分ので充分に役に立つのに、それが欲しかつたり、新しい玩具などを持つてるとそれが羨しかつたりします。果ては「おい僕にそれおくれよ。ね、ね、いゝだらう」などゝ否應なしに我がものにしてしまひます。またお友達が「僕の兄さんが素適なハーモニカを持つてるぜ」などと言ふのを聞けば、友達の家にそんな素適なものがあるのが、何となく妬ましく「嘘だらう」と挑戰します。お友達の方ではまたやつきとなつて「本當だよ」と言ひます。すると「本當なら明日持つて來て見せてくれよ」などゝ無體なことを言ひ出します。こんなとき「持つて來なけりや、もういつしよに遊ばないから、いゝよ」と言ふ者が出てくると、氣の弱い子供な

どは仲間外れにされることを怖がつて家から持ち出しをします。かういふ態度での交遊はいくら罪のない子供でも決していゝ傾向へ導きません。もしそんなことを耳になさつたときはよく〳〵言ひ聞せて下さい。物質の上でばかり友達がつきあつて行くことは美しい遊情と友情との結びつきを、早くも軽々しく考へさせることになりませう。竹馬の友」と言ひますが、幼い時竹馬にのつて遊び戯れてゐる時分の友達といふものは骨肉こそ分けませんが、兄弟にも優る深い愛情で結ばれてゐるもので、それが大人となつても共に助け合つて末永く美しい友情を続けて行くものだといふことを言つたものです。まことに「竹馬の友」といふものは大人になつてから、仕事の上や利害の上で結ばれたものでなく、純粋な友情だけで結ばれたもので、容易に得がたいものですから、さういふつきあひ方を幼いときから培つてやりませう。

始めにちよつと触れておきましたやうに、さま〴〵の職業や身分や事情のある子供たちが集つてゐるのですから、決してさういふことでお友達を軽蔑させてはいけません。

「あの子のお父うさんは豆腐屋だつて」とか「あの子は繊子なんだつて」とか言つて差別的な態度を示すことはよくないことです。而も大體子供はさういふことを最初から意識してゐるわけではなく、大抵口さがない大人から「あの子のお母さんはかうなんですつてね、あの子の家はかう〳〵ですつて」などゝ噂をするのを聞き込んで、人の口の葉にのぼつてゐるのは、何か普通とちがつたその人の家の秘密なんだらうと考へて、特別な注意を拂ふ結果なのですから、お家でもお母さんはさういふことを口になさらぬやうにお氣をつけて下さい。

子供が「一雄さんは新しい運動靴を買つてもらつたから、僕にも買つて」などゝせがまれたとき、不用意に「古くても、あなたの方が上等よ」と人のものを安つぽく考へさせることによつて、子供のおねだりを矯正しないで下さい。「どうだい、僕、お母さんにこんないい運動靴を買つてもらつたの」と言つて、夜枕もとにまで並べて喜んでゐたものを「何んだい、そんなもの、僕の方がもつと上等だよ、お金だつて高く出したんだ」などゝ言下にけなしたりするのは、前言つたやうなお母さんの失言があつたからです。

お友達の身なりや容貌などをとやかく言ふこと、これもよくないことです。

男の子のこれくらゐのときはあまり身なりや容貌など氣にとめませんが、女の子は小さい頃から、美しくないといふことは相當氣にするもので、頬つぺたに黒子一つあつても苦になります。それを「豆大福」などと言はれると恥しく、しまひには人の前へ出るのをいやがるやうになります。殊に服裝のことなど、あれこれと品評させないことです。質素にしてゐればゐるで、「あの人いつも同じお洋服ばかり着てるわ」と言ひ、新しいのを着てくればくるで、「いゝのを着てすましてるわ」と言ふ。式などで正裝してくると、また「あれお姉さんのおさがりよ」などゝ、女の子にあり勝ちなことです。

「まあ暫くでございました。お變りはございませんか」と一つ頭を下げた瞬間に、翡翠の簪をさしてゐたがあれは大したものではなさゝうだ、帶〆めはいつか、誰それから頂いたとか言つてゐたあれだ。新しい草履をまた買つたのかしら、と着物の色が紺だつたこと、柄には蜻蛉がとんでたことまで——頭のさきから爪さきまで手にとつて見たほど一度に見てとるといふ淺間しい女心は始終話題になつてゐますが、十歳位の女の子には早くもこの傾向が見えますから、さういふことを決して口にしないといふ禮法を通じて、いやな女性特有の臭味を除くやうにしませう。

公德心を養ふこと

住宅があんまり混んでゐない時分は、自分の家の庭などもゆつくりととつてありましたし、空地などもあちらこちらにあり、人の往來、車、自動車などの往來もさう頻繁ではなかつたので、お子さんの屋外での遊戲もさう喧しく言はなくてもよかつたでせう。併し今日では實際子供の遊び場所がなくて、どちらのお母さん方もこぼしてをられます。

狹い家の中でどたばたやられることはお母さんの方で困るし、お子さんの方では「さあ、そとでお遊びなさい」と言はれて追ひ出されても、伸び〳〵と遊ぶところがないといふ調子で可哀さうです。而もこの時分のお子さんは學校の勉强も一日せい〳〵一時間か、二時間

も複習、豫習をやればすむのですから、それにいろ〳〵とお友達といつしよに變つた遊び方もしたいしといふので、自然道路でキヤッチボールをやつたり、繩飛びをやつたりしますが、これは止めさせませう。人の往來の妨げにもなりますし、ボールが人道から飛び出して車道に轉がり込む、それを拾ひに行くと自動車が走つて來る、交通妨害にもなり、事故を起して大怪我をします。道路で遊ぶことは警察當局でも禁じてあることですから、長い棒つきれなどを振りまはして、今流行のチヤンバラなどを、人通りの場所でしてはいけません。（挿圖參照）また、男の子はどうしても亂暴なことを好みますが、街路樹を倒つたり、電柱に攀ぢのぼつたりすることもいけません。

とかく惡戲ざかりのことですから、人さまのお宅の呼鈴を押して、取り次ぎの人が出てくると慌てゝ逃げ出したりしますが、こんなふざけたことは、假令、惡氣でなくともいけないことです。メンコやバイ廻しが今も子供の間に盛んに行はれてゐますが、教育上投機的な遊戲がいけないことは云ふまでもなく、その上、人の通り道で五人も六人もの子供が



固つて、こんな遊戲に歌つてゐることはやはり迷惑な振舞です。

水鐵砲で歩いてゐる人に水を飛ばしたり、うす暗がりで網を張つて人を躓かせたり、落し穴を掘つて人を嵌めたり、何か自分で仕舞けたワナに人をひつかけて滑稽な失敗があることなどを豫想する所業は、その不作法さ加減はもとより云云すべくもありませんが、心理的動機からして既に不埒なことです。

假初にもこんなことをさせてはいけませんし、若し滔々と手柄顏に話すことがあれば、嚴しくお叱り下さい。

十歳ぐらゐのお子さんのことですから、公徳心を養ふと言つても、六ケしく考へることはないのです。他人に迷惑をかけないこと、往來で邪魔になることをさせないこと、共有物を破損させない事を、お子さんの身近かな遊戯中の振舞を通じてお教へになつて下さい。

公園や遊園地でブランコや遊動圓木などをいつまでも自分だけで獨占したり、自分の仲間で占領してしまはないやう、新しく出て來たお子さんにも仲間に入つてもらふやうにします。上り臺などは上から順々に上るやうにするのが本當なのに、自分が上つたら、その足ですぐ、逆にのぼつて行つて、次ぎの子供の上べるのを邪魔したり、早く上りたいので前の子供を突いたり、足で蹴つたりしてはいけません。

海水浴場、プールなどでは一層お行儀よくさせなくてはなりません。それこそ全然見も知らぬ子供たちが集つてくるのですし、自分の家からは離れてゐるのですから、何をやつてもその場限りといふやうな、しまりのない態度ではいけません。

脫衣場や水浴び場は混み合ひますから、濡れた身體で、ちやんと着物を着終つた人にぶつかつたり、自分のものをさがすのに人のものを亂雜に取り扱つたり、人が身體を拭いてゐるのに、その横でざあ〳〵水をかぶつたりしないでおきませう。

錢湯などでも自分さへよければそれでいゝといふ風な態度は愼しまねばなりません。湯桶を一人でいくつも取り占めたり、身體についた石鹸の泡をよく流さずに、湯槽に入つたりしないやうに、また自分がぬる好きだからといつて、水をどん〳〵出しつぱなしにして、いゝ氣持ちですましてゐるなどは大變我がままな行ひです。

次ぎに學校の中の生活、つまり共同生活では特にお友達のことや級全體のことを絶えず頭に入れて行動しなくてはなりません。先生が「こゝからこゝまで宿題にしますから」と仰言つたら、出來ないところがあるのは已を得ませんが、必らずお言ひ付通り宿題をして行かねばなりません。出來ないところは、かういふ風に考へてやつて見ましたが、こゝのとこ

ろがどうしても分りませんといふ風に先生にちやんとした質問が出來るやうにしておかねばなりません。自分一人が怠けてたとか、いゝ加減なやり方ですませておいたゝめ、級全體の勉強が、それだけ後れてしまふのですし、級の成績にも影響することになれば、先生にも、お友達にも大變申譯けないことでせう。自分がいゝお點をもらへないとか、先生に叱られるとか、一人だけですむ問題ではないのですから。運動會とか、體操時間にリレーやバスケットボールなどをさせられた時、自分の役目は必らず最上の努力で果さねばなりません。大勢でやつてるのだから、自分が負けても次ぎの人が取り返してくれるだらうとか主將がゐるのだからといふ無責任な態度はいけません。一人一人が、誰かがやつてくれると考へて、いゝ加減にしておいたとすればどうなるでせう。最上の努力を拂つて而も尙力及ばず負けるといふことは大變潔い立派な態度です。競走のとき、一番あとに引き離されたのに、最後まで一生懸命汗を流して走つてるお子さんの必死な姿を見ると、思はず眼頭が熱くなりますが、集團の中では超えずかういふ態度で禮節を守つて行きたいものです。

小學校卒業頃の女生徒の禮法

螢雪の功空しからず、六年間のなつかしい學び舍の生活もあますところ僅かとなりました。義務教育最後の生活です。

女のお子さんは學校の勉強で一通り常識を供へると共に、禮法の上でもいろ〳〵なことを知つてゐなければ恥です。もう、何分子供のことですからではすまされないのです。女學校へ進むにしても、このまゝ何かお稽古ごとの方へ入るにしても、またお家の事情で何處かへお勤めに出るにしても、小さい乍ら、淑女としての準備が入るわけです。

日常の起居振舞

因循なのは勿論いけません。近代女性らしく明朗活潑なのは甚だ好しいことです。併し粗野であつてはいけません。

歩き方など、足を必要以上に大股に運んだり、兩足をしまりなく開いて歩くのは見苦しいものです。踊りの先生などは、まつすぐに張つた綱の上を渡るやうな心持ちで、股を離さずに歩くと、女らしくしとやかに見えると仰言いますが、これはいゝ姿勢を作る上からも大變參考になることだと思ひます。立つてゐるときも、膝から上を喰つつき氣味にしてをれば、爪さきは開いてゐても、樂にくづしてゐても、着物の裾が亂れるやうな無樣な形にはなりません。女の子が洋裝をするやうになり、ブルーマーを着用するやうになつてこの方、女性のしとやかさ、優美さが失はれてしまつたと嘆かれてゐますが、この慎しみを忘れた姿に、どうして敎養と誇りの高い新時代の女性の精神が宿りませうか。まづ歩くことから慎しみのある態度を取るやうにお躾け下さい。

お部屋がたとへ少々散らかつてゐたとしても、そして大變急いでゐたとしても、ものを跨いで通つてはいけません。お座布團や寢床をのべてあるとき、夜具の端を踏むことも無作法です。夜具の端をちよつと手で除けて通るやうにします。

兩手でものを持つてゐるからと言つて、足で障子や襖を開け閉てしたり、下駄が何かのはづみで裏返つてゐるからと言つて、それにナニどうせ足に穿くものだからと、足で引つくり返して穿くなども慎しむべきことです。

まづ手にもつてゐるものを一度下において障子を開け、もつてゐるものを移してから、障子を閉め、再びもちものを手にとつて運びます。下駄を穿く時も、もちものを一度下へおいて下駄を揃へてから穿きます。下駄が遠くにあるとき、飛び下りて穿くことなどもいけません。脫ぐときにちやんと端近かに揃へておけばさういふことをしなくてすみますが若し澤山脫いであつて、已を得ず遠くで脫いであつた場合は手近かの下駄をちよつと借りて、自分のと穿き換へ、借りたものは元の位置にきちんと揃へておきます。

御不淨のスリッパや草履はそのまゝ脫ぎ捨てぬやう、次ぎに入る人が穿きいゝやうに向ふむきに脫ぎます。それから御不淨の內側に栓のないやうなとき、いきなり戸を開けて大變失禮をすることがありますから、必らず一度外からノックして入ります。內部にお手洗

がついてない御不淨では、出るときは左手で戸を開け、お手洗の柄杓も左手で取り、右手の方をまづ濟めます。

人さまの見てゐないところで、まづお行儀よく振舞ふやうに絶えず心掛けておかないと、人前で、突然つゝましやかにしようとしても結局附け燒刃に終つて、ちよつとしたことですぐボロを出します。

身近かをしまりよく

この年ごろになれば大抵のことはお母さんのお世話を燒かさずに、自分でしなくてはなりません。朝夕のお掃除も、自分のお部屋は必らず自分でしませう。

「四角い座敷を丸く掃き」ではいけません。朝、學校が遠方で間に合はぬ時などは勘辨していたゞくとしても、せめて夕方ははたきをかけ、本箱や机の上に塵のたまつてゐないやう、家具の置いてある隅々、机の下、障子や本箱の棚なども丁寧に塵をはらひませう。

本をいつもきちんと揃へて本箱に入れます。一冊は背表紙をこちら向け、隣りのはむかふ向け、それから倒さまにといふ風なのは大變だらしないものです。机の上に積むにしても曲つたまゝにしておかないで、まつすぐに揃へて重ねておきます。小さい本が一番下にあつて上の方に大きいのが重ねてあると何となく不安定です。勉强の都合でさうするときはどこか一方の端か角で揃へておくと、見た眼にきまりよく映ります。紐、毛糸の玉、ネクタイ、バンドの小物類を、ばら〳〵にしとくと、如何にも亂雜に見えますから、お菓子の空箱とか、果物籠にまとめて入れておきます。

引き出しを少し閉め殘したり、斜めに閉めたり、閉めた隙間から、紙の端や、紐の端が覗いてゐるなどは如何にもやりつぱなしだといふ風に見えます。

お裁縫をしたあとなど、必らず針の數を調べます。針は針山に亂雜に長い糸をつけたまま、あつちこつちから突きさしておかないで、あとでその續きをするときでも、ちよつと橫に揃へてさしておきます。糸まきの端から糸をとり出して、長い端を引きづつたまゝ、針

箱に投げ入れておかないで、ざつと巻いておきます。急ぎの場合でもちよつとした注意できまりよくすることは造作ないのです。

縫ひかけの着物に待ち針をつけたまゝつくねておかないで、一度抜きとつておきます。仕立物はざつと疊んで筥臺の上にでものせます。大部分出來上つてゐて、疊むと惡癖のつく時なら衣紋竿に通してかけておけばいゝでせう。あとはすぐ掃いて、糸屑や綿屑を始末しておくに越したことはありませんが、さう出來ないときは糸屑をまるめて、小箱にでも藏つておきます。雜巾さしだの織きあてに用に立ちますから、捨てないでおきませう。

外出から歸つたとき、學校から歸つたときは、塵をざつと拂ひ、洋服かけや衣紋竿にすぐかけておきます。着物など座敷の隅につくねておかないやうにします。丁寧すぎてすぐ疊むのは考へもので、體臭や汗の移り香などを一度風通しのよいところで抜いてから仕末をしないと早くいたみます。制服は一々疊んで仕舞ふ必要はありませんが、一週に一度はスカートなどアイロンをかけて、きちんと疊みつけ、夜、寢床の下に敷いておくか、押



しをかけておくと、假令、地色が少々やけてゐても、また、所々に織きがしてあつてもいつも小綺麗に見えませう。

ハンカチや靴下は出來るだけ毎日お洗濯をします。その心掛けさへあれば、お顏を洗ふとき、序に、洗面器で洗ふだけの手間で、いつも淸潔にしておけるのです。

肌着なども夏は特に再三お洗濯なしませんと汗臭くて人さまに不快を與へます。矜もとやネクタイ

などは垢のついてゐないやう、手マメに塩を除き（掃除参照）、揮發油かベンヂンで拭いておきます。インキや墨でシミをつけたときは、お母さんに早くお見せして、シミ抜きをしていたゞくやうにします。女の子が純白の制服に赤インクのシミなどをつけたまゝで歩いてゐますと、その人の常日頃の行狀を窺はれませう。

髪は自分で再三洗ひ、いつもきちんと梳かしておきませう。學校から歸りがけ、洗面場で汚れた手や顔を洗ひ、髪もちよつとなでつけ、根元がゆるんでゐたら、しばり直し、靴下を吊り直すといふ位の身づくろひは大した手數ではありますまい。

頬べたや眦に墨やインクがついてゐるのを知らずに歩いてゐるなんていふのは嗜みのないことです。朝、顔を洗ふときは顔のまんなかばかり洗つてすませておかないで、生え際やもみあげの垢のたまり易いところも念入りに洗ひ、耳の後も洗ひ、耳の穴などはよく拭いて、黒く汚れてゐないやうにします。

さし櫛、お下げ止め、紐などはちよつと氣のつかないものですが、髪を洗ふとき、いつ

しよに石鹸液で洗つておくといゝのです。脂で汚れた紐で結んでゐたり、お下げ止めで止めてゐたりしますと、本人には氣づかぬことでも、明るみでは人目につき易いものです。

雨具類などもお天氣になり次第手入れをよくしませう。足駄の齒がへつてさゝくれてゐたり、爪皮に泥ハネが何度もゝ〳〵はね上つてシミついてゐるのは見つともないものです。雨傘や雨ゴートも水洗ひしてよく乾かし、くちや〳〵になつたのを次ぎの雨降りにまた着て行くといふのはだらしないことです。

お食事中のお作法

お食事中のお作法はもう度々他の章でもかきましたが、この年ごろの女のお子さんには一層つゝしみ深く箸けませう。

箸の先きでお皿やお茶碗を引き寄せること、片方にお茶碗、片方にお汁椀といふ風に兩手に一度にもつていたゞいてはいけません。お皿をおいたまゝ口を近づけて食べてはいけ

ません。お皿を取り上げて頂きます。家庭でのお食事はいつしよ盛りにしてあることが多いのですが、遠くにあるものを箸を伸ばして取つてはいけません。一度手前に取り寄せて添へ箸で取ります。自分の箸で取るときは、ちよつと倒さにしてとるといふ風にすれば、氣分だけの事ですが、自分の口へ運んだ箸でぢかに取つては、他の人が汚らしく思ふだらうからといふ心遣ひが見えて床しいものです。

御飯の初めにお漬物をどつさり取り込んだり、端を除けてまんなかばかり取つたり、きれいに盛り上げてあるのをどこからでも、構はず崩してしまつたりするのはいけません。牛鍋やその他鍋ものを家族ぢうで箸を入れていたゞくのは大變樂しいお食事です。ひとりでどし〳〵箸を入れたり、好きなものばかり取り出したり、選り好みして箸の先でさがし廻つたりしてはいけません。またお鍋からぢかに口に運ばないやう、一度お取り皿に移してから頂きます。お汁などを食卓に垂らしながら運ばぬやう、お皿なり、お茶碗なりをお鍋の方に持つて行つて取ります。

この年ごろになりますと、お母さんや、お姉さんと並んでお給仕のお手傳ひもしますが、何度も盛るのが面倒だからと、一度に山盛りに御飯をつけてはいけません。お茶碗の緣にいつぱい御飯粒をつけたり、お汁のみをお椀の緣につけたりしてはいけません。またお茶碗の緣や內部に指先をふれないやう、熱いものは直接手渡しにしないで食卓に一度置くとか、兩手で持ち、相手がちやんと受け取つたのを見屆けてから、手を離さないと粗忽をして火傷などします。

食卓の向ふ側の人に手を伸ばして渡すときは袖の先がお汁の中に浸つたり、お醬油さしやソース瓶などを引つかけたりしますから、片手で袖口を押へるとか、口に喞へるとかして渡します。

「お酒は置き注ぎは失禮」と言ひますが、「お茶は置き注ぎ」と申しますが、お茶碗を自分の方へ受け取つて注ぐとか、食卓の上へ一旦置いてもらつてから注がないと火傷をさせます。注ぐときは左の手でちよつと庇ふやうな調子にします。熱い飛沫が相手の人に飛ばな

いやうにといふやさしい心遣で、女のお子さんらしい仕草です。おやかんを取つてくれと言はれたときも、口を相手に向けぬやう、自分の方へ向けて差し出します。

御飯が終つたあといつまでも、食卓の上のおかずの殘りやお漬物を食べてはお茶を飲むのはいけません。またお漬物をお茶の中へ入れてかきまはしたりするのは汚らしいことです。御飯はいつしよに頂いてゐる人を不快にさせないやう、綺麗に食べなくてはいけません。御飯中に咳やくしやみをしたり、痰を吐いたり、鼻をかんだりするのはまことに氣持ちの惡いことで折角の美味しい御馳走も不味くなります。

食事の前によく鼻などはかんでおきます。くしやみや咳は不意に出るので已を得ませんが、人の方を向いたまゝ、またお膳にかゝるやうな姿勢でしないこと、ハンカチや鼻紙で口を押へ、ちよつと後向きになつてします。急な時で間に合はぬ時は突差に袖や掌で口を被ふだけの嗜みがなくてはいけません。猶、「ごめんなさい」とそのあとで一言おことはりする位の心得もあつてほしいものです。

食事最中に髪の毛をいぢつたり、耳や鼻にさはつたり、身體を搔いたりしてはいけません。ましてお箸のもとでさういふことをするなどは不作法も甚だしいことです。

人前でのお作法

日本間では立ちはだかつて人に話をしないこと、急ぎの場合でも、中腰で膝をついて話すぐらゐの愼しみを持たねばなりません。お父さん、お母さんからお叱言を受けたり、分けて何かためになるお話を伺つたりする時は、きちんと坐つて手を膝においてきゝます。そして眼はお話してゐる方の眼を見てゐるか、うつむけてゐます。天井をながめたり、庭を眺めたり、横を向いたりしてゐるのは不謹愼です。これは人さまとお話しする時も同樣で、誠意を缺くことになります。卑屈な人、陰險な人は、人の眼を眞正面に見ないもので す。心に疚しいところのない人はいつも眼をまつすぐに上げてゐます。人と對坐する場合、正々堂々とした曇りのない態度でゐるべきです。といつて、顎を突き出し、傲然と控へて

るのはこれまた女らしくないばかりか、不遜な態度です。人さまがお話してるる最中、お話を半分で引取つてしまひ、「だつて、それは……」など言ふこともいけません。お話中は言葉を挟まず、終りまでよく聞き、それから自分のお答へしなくてはならないこと、又意見などを述べます。控へ目にしてるることが、つゝましやかだと言つても、人さまのお話が分つたのか、聞いてるないのか、分らないやうな、無表情な態度でるることも無論失禮です。あまり高くない聲で「ハイ」と言つてもよろしく、靜かに頷くのもよろしいでせう。質問されたことには一々はつきり先さまに納得がゆくやうにお答へしなくてはなりません。「お母さまの御病氣は如何でございますか」ときかれてるるのに「さあ」と答へ、「よほどお惡いのですか」ときかれても、「いゝえ」と答へ、これではさつぱり分りません。「少しはよろしい方です」とか、「もうすつかりよくなりました」とか、「まだ休んでをります」とかお答へしなくてはいけません。併し、またあまりハキ〳〵し過ぎて、「お姉さまが近近御結婚なさるんですつてね」と言はれたのに對しては、「ハイ結婚します」でよろしいのを、新婚旅行には何處そこへ行くのですつてとか、何々屋で衣裳を誂へたんですとか、訊きもしないことまで先つ走りして喋るのはいけません。頭のよいお子さんほどこれが多いのですが、特に目上の方に對しては失禮です。

打てば響くのはよろしいが、響きすぎるのは及ばぬと同樣禮儀ではありません。

人さまの前を通るのはいけません。後へ廻つて「御免下さい」と



（ナイフや鋏などは双方自分の方にして差し出します）

おことはりして通ります。前を通らねばならないときは頭を下げて、少しこゞみ加減にして「御免下さい」と會釋して靜かに通ります。坐つてゐる方の肩に手をかけたりして通るのは大變失禮です。

狹い道などで人さまがゐられるときも、見知らぬ方でも一寸頭を下げて、成るべく後を廻るやうにします。

長上の方とごいつしよで戸口にさしかかつた時は、身をひいて自分はあとから通ります。併し、電車などの乘り降りのとき、目上の方が揃つて下すつて「さあ〳〵」と仰言つてゐるのに「いゝえ、どうぞ、どうぞ」などゝいつまでも尻込みしてゐるのは失禮ですし人さまをお客間に御案内したりするときは先に立つて歩くのが禮儀です。でなければお客樣がどこへ通つてよいかお困りになりませう。

知つてゐる方が前を歩いてゐられるときは、斷つて通り抜けたり、駈け抜けたりしてはいけません。「お早うございます」とか「今日は」とか聲をかけて、お辭儀をして、急いで

ゐれば「お先に」と會釋してそのまゝ先へ行つていゝのです。

人さまにものを取つてあげるときは先さまの見よいやう、また受けとりよいやうにして差出します。本などは字が向ふから讀めるやうに、つまり自分の方からは倒にして渡します。繪なども同樣です。團扇や扇子は柄を人さまの方へ向けます。ナイフや鋏などは刃を自分の方にして差し出します。凡て刃物は相手の方に傷をつけぬやうに刃を必らず自分の方にします。但し品ものが切れものですから、過ちのないやうにぢかに手渡さず、一旦下に置いて、やはり刃の方は手前にして差出す方がよろしいでせう。長い棒つきれやうのものや鋸などは左手で持つて右手を輕く添へて渡します。

お客さまへのお作法

そろ〳〵、お母さまやお姉さまの代りになつて、あまり肩のこらないお客さまのおもてなしやお給仕を覺えてもよろしいでせう。

お玄關でお取り次ぎの折に「いらつしやいませ」と御挨拶がしてあつても、お座敷へお通しして、お布團をおすゝめしたのち、改めて、兩手を突いて「いらつしやいませ」と御挨拶をいたします。お客さまにお茶やお菓子を運ぶ時、大體お盆を目のうちよつと下位の高さにし、捧げて自分の息がかからないやうにします。

お茶とお菓子を一度に兩方持つてすゝめてはいけません。お盆にお茶とお菓子がいつしよにのつてをりましたら、まづお菓子を先に出し、お茶をあとから出します。盛り菓子でお箸がついてゐましたら、お客さまが右手でお箸をお取りになれるやうに握りの方を自分から向つて左手に、添へて出します。お菓子鉢が蓋つきならば、蓋の上の模樣がお客さまが御覽になつて倒さまにならないやうに向けます。お茶碗は茶臺に右手をかけ、左手を疊について出します。お茶碗に手をふれぬやうにします。

お客さまの前で何かする時、お客さまにお尻を向けぬやう、例へば夏扇を卷き上げたりする時、少し斜めに身體をよぢつてします。

冬、襖や障子を開けてお客間に出入するとき、あとを閉め殘さぬやう、また開けたらすぐその手で閉めるやうにいたします。

お食事のお給仕についてはこの次ぎの女學生のお作法の方で正式のを述べますから、ここでは、ほんのお心安い方のお給仕だけにしておきますが、御飯やお汁のお給仕は是非小さい通ひ盆を使ふやうにして下さい。お茶碗やお汁椀の緣をぢかに指先でふれることは汚らしく、また失禮に當ります。それに充分にお接待になれないので、粗喪をします。

御飯はお櫃の中で輕く掬いて、ふうわりとつけます。固つた御飯をそのまゝつけたり、お杓子についた御飯をお茶碗の緣でこすつてはいけません。

お茶は御飯の初めに差し上げておきます。お代りの時にお茶を出しますと、もうそれでおしまひになさいと言はぬばかりに見えます。さうでないときは、お茶道具を只片隅に用意しておき、いつでも差上げられるやうにしておきます。

蟹とか燒き蛤とか、頂手をつかはなくてはならない御馳走のときは、おしぼりかお手拭

きを出します。正式の日本食ではナフキンはかけないのですが、それでもお召ものをお汚しになつてはと、綺麗な手拭などを差上げて、「どうぞお膝におあてになつて下さい」とおすゝめすることは、女の子らしいやさしい心遣ひで、お客さまも、この氣のきいたおとりもちを心からお喜びになりませう。

お客さまがお茶をお飲みになり、お箸を納めて「御馳走さまでした」と仰言つたら、お粗末でした」と改つた御挨拶は出來なくとも、丁寧に頭を下げて、それにお答へしてからお膳を下げます。まだお茶を飲んでるらつしやるのに、卓上のものを片づけ始めるのはよくありません。折角のおもてなしがドタン場で水の泡です。

猶つま楊子は楊子さしにさして差上げます。ないときはお小皿に二、三本受けて差上げます。人さまのお口に入るものを指などでつまんで來ては失禮です。

小學校卒業頃の男兒の禮法

男のお子さんの禮法については、後章中等學校男生の方で委しく述べることにいたしますが、小學校卒業までは智能的にも生理的にも男女の差異はさほど著しくはありません。學校教育も特別な科目の他は同じ教科書で教授を受けますし、世間的にも殊更な差別待遇を受けませんから、禮法上にもまあ言はゞこれといふ目立つた區別はないわけでした。併しこの時代を一つの境として、學校も男は中學校、女は女學校といふ風に分れてゆきます。それにつれて日常生活の上でも、男兒と女兒に分れてそれ〴〵特別な扱ひを受けてゆくやうになります。そこでその第一歩として、男のお子さんの躾けが必要となつてまゐります。

男のお子さんの禮儀作法の仕込みどころと言へば、家庭がその唯一の教場と言つてもよろしく、その擔當の先生は勿論お母さんです。

女のお子さんが主として家庭内の生活が生活の中心となるに反して、男のお子さんは家庭外の生活、即ち、社會的生活と早くから接觸を持つので、一段の對外的な禮法が必要だと申せませう。猶、小學卒業と同時に、上級學校へ進まず、直に會社、商店などの實務方面に入つて、早くも實際社會の一成員としての生活を始められるお子さん方にとつては上役の方々、同僚の人々への禮法が必要となつてまゐります。

學友・同僚との交際

仲のよいお友達同志のことを「口のものを喰ひ合ふほどの仲のよさ」と言つて、小鳥が嘴から嘴へ一つの餌を移し合つてゐる微笑ましい光景になぞらへられるほど睦み合つてゐるのは、美しい友情の交歡ですが、その親愛にも自らけじめがなくてはなりません。

矢鱈にお友達のお茶碗やお箸などを無斷で使用したり、また借りしたりするやうなことはふしだらで、失禮です。帽子などをお友達の頭から取り上げて自分で被つて見たり、その他身のまはり品、學用品などを始終借りたりすること、殊に墨、インク、鉛筆などのやうに消耗してしまふ物品、使つた分量の不明な物品の貸借は控へるべきです。利害關係を離れての友情はもとより美しいものには違ひありませんが、友人の所有物、生活を目するといふ態度は愼しむのが本當で、さういふ心遣ひこそ、もつと深い友情を表はすものと言へませう。苟し已を得ず借りた場合は、どんな些少なものでも、直ちに返濟すべきで、それだけの義理堅さは常に持つてゐることです。それは貸してくれた友人の好意に報ひ、また友人の生活を尊重し、友人



に損害をかけないといふ友愛の心が内にあれば、必らずさうしないでは居れますまい。さういふ態度で交つてゆけば、お互に自己的な振舞から友人を失ふ嘆きを見ることはありません。

これはひとり、學友との交際に止らず、社會に出たとき、職場内の同僚との交際についても基本的な態度と言へることです。

もういつまでも子供々々で通る歳ではなくなりました。そこで友達が「ちよつとその本を見せてくれないか」と言つたやうな場合、「よし、これかい、ヨイショ」など、投げて渡すやうな失禮なことはしてはいけません。ちやんと友達の手に渡します。もう一層丁寧にするならば友達が受け取りよいやうにして手渡します。また「おい、いゝぢやないか、ちよつと見せろよ」など、友達の手のものをいきなりひつたくつたりしてはなりません。「すまないが、ちよつと」とか「ちよつと拜見」ぐらゐの挨拶はすべきです。かういふ態度に出られては、相手も「いやだよ」など、失禮な返答はしません。必らず「どうぞ」と愼しみ深く應對して來ませう。

親しい間柄で、途上で出會つた時など「よう君！」と肩の一つぐらゐ輕く叩いてゐるのは親愛の情が溢れてゐますが、いきなり抱きついてゆき、足拂ひをかけるやうな惡ふざけで、むしろ相手を蔑ろにした行爲で、六年生ともなればもうかやうな振舞は斷然愼しませませう。常に、少年としての誇りを持ち、節度ある態度に出るやう、お母さん方にお躾けをお願ひいたします。

（挿圖參照）帽子をくるりとひき剝がし、頭をペタ〳〵叩くなどは度が過ぎた惡ふざけです。

長上への態度

長上に用事を言ひつかつた時は用向をはつきり聞き取り、若し腑に落ちないことがあれば、念を入れて問ひ返し、手拔かりのないやうに用事を足します。坐つてゐる時なら、膝の上に兩手を置いて、畏つてゐられる方の方をまつすぐに見て、いち〳〵靜かに頷くか

輕く「ハイ」と受け應へをして用件を終りまで聞きます。家庭内の小さい用事の場合ならその必要もありますまいが、若し勤めさきの御主人、上役の方が一度に二つも三つもの御用を言ひつけられたやうな場合、金額とか、行き先の住所、番地、人名などを間違ひなく聞き、紙片とか手帳に書き止めるぐらゐの用意をします。椅子席ではきちんと起立して、首を心持ち下げて、愼しみの形を取ります。足を「休め」のときのやうに投げ出したり、頭をぼり〳〵掻いたり、躰をくね〳〵させたり、横を向いたりして御用を承るのは無作法で、さういふことでは、假令、實際は頭もよく、用事もてきぱき片づける優秀な少年でも、長上の方の信用、愛顧を受けることは出來ません。

長上の方が親しい態度、氣輕な調子でものを言ひかけられてゐる場合でも、それに甘へて狎れ〳〵しい態度に出ることは控へなくてはいけません。冗談を仰言つたからと言つてニコリともしないのはあまり頑くなで、可愛氣がありませんが、かと言つて、グラ〳〵笑つたり、「ヨヽ、冗談でせう」とか、「なアんだ」などゝ、こちらも圖に乘つてまぜ返した

り、輕い口を利いたり、おどけた表情を作つて應酬するのはよくありません。又、長上の方の前ではいとも神妙な態度で愼んでゐても、一歩、その部屋から出た途端、ペロリと舌を出したり、「ヘン、何言つてやがるんでえ」等と呟いたりする態度は實に卑しいことです。

それから、これは特に會社、銀行、お役所、商店などの實務方面へ入つて行かれるお子さん方に申上げておきたいことです。長上や上役の方から呼ばれましたら、返事の出來る位置にある時は直に明瞭に「ハイ」と答へ、それと同時に素早く身を起すことです。それから何はともあれ、お呼びになつた方のところへ御用を伺ひに行くことです。

部屋に入るときは必らずノックします。ドアが開けてあるときでも一應は聲をかけ、「御免下さい」と斷つて入ります。次ぎに先方が聲をかけるまで默つて突つ立つたりしてゐることは失禮でもあり、氣のきかないことです。「御用ですか」または「お呼びになりましたか」と御挨拶をします。御用を聞き終りましたら、「ハイ、承知いたしました」または「ハイ、畏りました」といふ風な、しつかりした御返事をして、頭を下げて退きます。來客その

他が同席されてゐるときには、輕く會釋をして自分の用事を足します。

お叱りを受けるやうな不注意なことはしないやうに氣をつけねばなりませんが、若し、長上の方の思ひ違ひから叱責を受けるやうな場合でも、相手の言葉を全部聞かないうちに「いゝえ、さうぢやありません」とか、「だつて、それは誰それ君が……」などゝいきなり口答へしたり、性急に責任を明かにしようと試るのはよくありません。一通り聞き終つてから、まづ「すみませんでした」とお斷りし、それからはつきりした態度と言葉遣ひで、上役の方が充分に納得されるやうに申開きをいたします。

凡て長上の方には謹愼を根本精神として應對することを忘れなければ、巧まずに自ら愼しみの深い、隨つて禮法の心にも形にも叶つた擧動が外に表はれてまゐりませう。

就職試驗についての禮法

日常の家庭内外の立居振舞、その他の一般の禮法については後章に委しく述べますし、

既に女のお子さんの場合に充分述べましたから、それに準じて頂くことゝいたし、こゝでは小學卒業と共に實際社會に立たれる男のお子さんの爲に就職試驗を受けるに就て心得ておかねばならぬ禮法について申上げて見ませう。中學受驗場での態度もこれと同じです。

履歷書　必らずはつきりと丁寧に楷書で書きます。「字は體を表はす」と言ひます。うまい字でも亂暴に書いてあればその人の性情が窺はれて人樣から信頼を受けることが出來ませんが、下手でもきちんと眞面目に書いてあれば床しい人格のほどが偲ばれて、試驗をなさる人が詮衡するに當つて、後者の方に好感を持ちませう。また一事が萬事でかういふ心掛けの少年は何事にも几帳面で、責任を以て與へられた任務を果します。

身のまはり　度々申しましたやうに、淸潔であることが第一、それから衣服は正しく身に着けることです。前の晩にお風呂に入り、躰を淸潔にしておきます。頭髮が見苦しく伸びてゐないやう、手足の爪をきちんと切り、衿もと、袖口などは特に汚れてゐないやう、きれいに洗濯した下着類を用意します。洋服の綻びや破れた個所は前日にお母さんなり、お

姉さんに繕つて頂いておきます。御飯粒や糊などが胸のあたりにこびりついてゐるのは見苦しいものですから、ちやんと落しておきます。また肩のあたりにフケや埃が白くたまつてゐるのは、みすぼらしい感じがしますから、ブラッシュでよく刷いておきます。

穴のあいた靴下や汗臭い靴下を穿いて行かぬやう、靴は泥をよく落して磨いておきます。ハンカチ、鼻紙を忘れぬやう、鉛筆や小さいノートなども用意して行きます。

試驗場での態度　控室に順番を待つてゐる間は勿論靜肅にしてゐなくてはなりません。靴でカタ〳〵床や椅子の脚を蹴つたり、鼻唄を唄つたり、同席の受驗者達と私語を交したり、また盛高に談笑したりしてはいけません。

自分の番がまはつて來ましたら、洋服のボタンがきちんとかゝつてゐるか、ポケットからハンカチや紙の端がはみ出したりしてゐないか素早く身のまはりに注意して、試驗場に入ります。部屋に入つたらお辭儀をして、指定の場所まで、しつかりした足取りで進みます。靴を引き摺つたり、どすん〳〵高い足音をたてたりしてはいけません。口頭試問を受



けてゐる間はわき見をしたり、くす〳〵笑つたり、その反對におど〳〵して、試問に應へなかつたりしてはいけません。明瞭に一々返答をしなくてはなりません。態度に曖昧なことがあつてはいけません。分らぬことがあつても「分りません」と取り亂さずに落ちついた愼みのある態度で返答すればそれは却つて立派です。（挿圖參照）

常に堂々とした虛心坦懷な態度でゐることが肝心です。それがまた立派に禮法に叶つた擧措なのです。

女學校三、四年生の禮法

今まで小學生の禮儀作法全部を終り、今度は中等學校程度のお子さんの禮法ですが、まづ女學生からやつてゆきませう。

女學校の中心になるのは三、四年生ですし、また、精神的にも肉體的にも娘さんらしくなるのはこの年齢ですから、三、四年生の禮法を中心にお話してゆきます。

さて、女のお子さんの學校教育は、普通は女學校が最後で、女學校を出るとすぐお嬢さんにもゆかねばなりませんし、妻として母として、一人前の立派な女性として社會生活をしてゆかねばなりません。

さうすればこの女學校三、四年生の禮法が、娘時代の最後の禮法で、この時代の躾け方如何で嫁いだ先の夫、舅姑、世間一般の方に愛され敬される良妻賢母となるか、または嫌はれ嗤はれる悪妻愚母になるかの、方向を決定する大事な時期です。お母さんとしては餘程の御注意が肝要です。

では、女學校三、四年生の禮法を、家庭と學校と社交とに分けて研究して參りませう。

家庭

◇言葉遣ひ

言葉は明瞭に、正確に遣ひませう。丁寧なのは結構ですが、馬鹿丁寧に「御」の字を矢鱈につかつたり、度の過ぎた遊ばせ言葉などはおかしいものです。

言葉は、自分の氣持を相手に傳へるためのものですから、「私……」などと半分で言ひさしにするのは相手の方に充分こちらの氣持が傳へられないと同時に、失禮に當ることです。殊に電話の場合等ですと、直接に面を合さないだけに餘程言葉遣ひを明瞭正確にしないと、思はぬ行き違ひを生ずるものです。

電話は、最初に、はつきり自分の姓名を述べ、ひと通りのご挨拶を二言、三言すませま

を友達扱ひにしてなれ〳〵しい言葉遣ひをすることもいけません。「親しき仲にも禮儀」です。母を「オフクロ」などといふ女性に限つて自分を「ボク」といひ友達を「キミ」と言ひます。君とか僕とかいふ呼び方は封建時代の遺習で、相手を君――即ち主人と尊び、自分を僕――即ち相手の下僕と卑下して尊敬を表はさうとした呼び方で、決してさういふ方達の考へるやうに新しいものではなく、ゆく〳〵は男性の間でも時代の進展と共に廢止されてゆく運命にある言葉です。決してこのやうに輕佻にして浮薄な言葉は、愛しいわが子に遣はせて默任してゐるやうなことがあつてはなりません。

近年は惡い映畫や少女歌劇の影響で、男裝の麗人を氣取る「キミ・ボク」とか、「モチ」「ダンチ」等の流行語が相當女學生間に流行してをりますから、愼重な注意が肝要です。

なほ、少々英語が讀めるやうになつたからといつて、矢鱈に話の間に橫文字を入れるのも聞苦しいものです。

◇烏嗜み

したらすぐ要件を申します。無駄話を初めに長々としてゐて、最後に時間がなくなつてから要件をせか〳〵とせきこんで言ふのは誠に聞き苦しいものです。長上の方をぢかに電話口へ呼び出さないこと、どうしても呼び出さなくてはならない時は、必ず自分自身が電話へ出ること、切る時は相手の方の受話器をかける音を聞いてから切る、等といふことも電話をかける時に必要な禮儀です。

さて、これは電話の時のみならず、すべて自分のことは「私」といふのが正しく、話相手には「貴方」と言ひます。但し目上の方や、身分の高い方には「貴方」とは言はず、「岩淵さん」とか「山本先生」といふ風に呼びます。

近親のことを他人に話す場合は、「父が」「母が」「祖父が」といひ、「お父さんが」「お母さんが」などと自分の兩親に敬稱をつけたりすると、もうこの年齡になれば笑はれます。

またこれと反對に、しとやかであるべき女子の身でありながら、間違つた新しさから、母のことを「オフクロ」などと呼ぶのは、例へ友達同志の話の時でも、以ての外で、同時に母

朝起きたら、うがひ手水で身を潔め、ちやんと着付けをして髪を束ねるまでは人前に出ないやうにします。細帯姿や伊達巻姿で外へ出たり、寝乱れ髪で人前へ出たりしてはなりません。タオル地のパジヤマなどでパンを買ひに出たり、納豆屋さんを呼びに出たりすることも嗜みないことで、あれはどこまでも西洋の寝間着なのですから、ズボン式になつてゐるからといつて寝間着で外へ出るのはおかしいことです。

寝間着を着換へる時は必ず人のゐない蔭の方に向つて前を合はせます。窓や、通りの方へ向つて合はせたり、家族だからといつて兄や弟の前で合はせてはいけません。

昔の女性は「夫に素顔を見せるな」といふ精神で、身嗜みを厳しく躾けられました。これはなにも朝起きたらすぐ厚化粧をせよ、といふことではなく、起きぬけの寝呆け顔を人に見せたり、寝乱れ髪を見られてはならぬといふことなのです。ですから、起きて寝間着を着換へ、顔を洗ひましたら髪を束ねます。

「素顔を見せるな」といふ言葉があるからといつて、女學生が鏡臺の前に坐つたきり三十

分も一時間も動かず、あゝでもない、かうでもないと白粉や紅を塗つたり、さしたりしてゐるのは見苦しいものです。この年頃はさういふ人工的なお化粧をしなくとも充分に美しく、またさういふ人工的なお化粧を加へることに依つて、却つて内から溢れてくる若さの自然な健康美を曇らせることになります。

なほひとさまの前で鏡臺に向つて身繕ろひすることは失禮です。これは、ひとさまの前で爪を剪ること、靴下の下つたのをなほすこと、あくび、紙、ハンカチをあてゝ鼻むきにならずにくしやみをすること、頭髪に指を入れてかいてはならぬこと等と同じく失禮なことです。耳や鼻をほぢつたりするのは失禮を通りこして不潔です。

このほか、お母さまとして特別注意してやらねばならぬことは月經時の身嗜みです。日本女性の初潮平均年齢はこの年頃ですから、そのことを娘から聞きましたら堅牢なバンドを買ひ與へ、絶對に粗襲させないやうに致します。女として人前でこの粗襲をしましたらこれに勝る恥と失禮はありません。

なほ、かういふことは臨り知識を與へ相談に乘つてやることは必要ですが、ズケ〳〵と愼みなく口にのぼすことはなりません。これはお母さまの態度が相當影響しますから御注意が必要です。また、このことに關聯して、自分の肌につけるものは絶對に母や女中に洗はせず、自分で洗ふ習慣をつけさせます。おこしやズロースを女中に洗はせたりするのは愼みのない態度です。

◇接待、接客のお作法

お客樣がおいでになりましたら、ご挨拶もせずに「お母さんお客さんよ〳〵」などと怒鳴つて遊びに行つてしまつたり、赤い顏をして、たゞモジ〳〵してゐるばかりで、ろくにご挨拶も出來ないのでは困ります。

もうこの年齡になりましたら、お母さん代りになつて、お取り次ぎ、ご案內、お給仕ぐらゐは致しませう。

まづお客樣のお名前を伺ひましたら、「少々お待ち下さいませ」と待つて頂いてお母さ

んにそのことを告げます。「お通ししなさい」といはれましたら、「お待たせ致しました。どうぞこちらへ」と客間なり、應接室へなりご案內致します。この時、先に立つてお客樣を置いてきぼりにして、獨りでずん〳〵先へ行つてしまつてはなりません。時々後を振りかへつて、廊下の角などでは一度立止つてお待ちします。すべてお客樣の二、三步前ぐらゐを靜かに步いて、ご案內するつもりでゐれば間違ひありません。

お客間へお通ししたら、まづお蒲團を出すと同時に、夏ならば絞りタオルや團扇、扇風機があれば扇風機、冬ならばお火鉢、手焙り、電氣ストーヴなどを出します。

お茶を出す時は、お茶碗の緣へ拇指をかけたり、手渡しにしたり、疊へぢかに置かずお盆に載せます。疊の上では菓子皿などは、お盆のまゝ、すゝめてよろしく、卓上ではお盆にのせないのが普通で、（挿圖參照）紅茶盆なら添へて出してもよろしい。紅茶、コーヒーなどはお盆にのせて運び、一度左手でお皿ごと取り上げ、右手ですゝめます。菓子皿にはテイナプキンか紙ナプキン、それにフオークを添へて出します。



お膳をすゝめる時は、最初に一禮して、あとはいち〳〵禮をしなくともかまひません。ご飯を盛る時は一杓子で盛ることは忌まれてゐますから心得ておきませう。

洋式のお給仕はお客さまの後の左側からしますが、お酒と水は後の右側からします。

大勢のお客樣を御招待した場合には、好き嫌ひをしてひと所にばかりゐず、萬遍なく

おもてなししなくてはなりません。

さてお客樣がお歸りになる時は玄關までお見送りします。お客樣が玄關をお出になるとすぐに戸や障子をたてたり、門燈を消してしまつたり、大聲で談笑したりするのは誠に失禮で、それでは今までの折角のおもてなしが、水の泡になつてしまひますから、注意しませう。これは殊に箸が轉げても可笑しいこの年齡の娘さんたちのやり勝ちなことです。

學校

◇服裝

女學生の服裝は、正しく淸潔に、といふ點に主眼を置きます。よく、制服では恰好が惡いからといつて、勝手に制服の上衣を短く縮めたり、スカートのひだの數をふやしたりする方がありますが、あれはいけません。また古くなつたからといつて着ず、新調する方もありますが、この羊毛や綿糸の缺乏してゐる國民總動員の秋に、それは大變誤まつた贅澤

なこと、言はねばなりません。破れたらば綺麗につゞくればよいのです。古くとも垢さへついてゐなければ決して失禮ではありません。いや、ものを大切にして、破れ、すり切れた所を綺麗にかゞり、古くとも清潔な服を着てゐる女學生さんを見ることは、見るからに人柄が偲ばれて奥床しいものです。

徒らに高價なブローチを買ひ、贅澤な裝身具で身の廻りを飾らうとするよりは、襟垢はついてゐないか、カフスは汚れてはゐないか、スナップやボタンはとれてはゐないか、スカート、靴下に綻びはないか、下着は清潔か、といふ風な點に心を配るやうにさせます。お母さまも、ブローチなどをねだられるとすぐ買つて與へるやうなことをせず、以上のやうな諸點はちやんとなつてゐるかどうか注意なさる方が結構です。破れ、汚れてをりましたら、針で縫ひ、揮發油で拭くやうにさせることが必要です。

西洋に「靴の光は人格の光」といふ諺がありますが、靴も埃をかぶつて白くなつてゐるやうなのを履かせず、ちやんと丁寧に磨かせて置きませう。ほかの所が立派でも、靴が汚れてゐると大變目立つものです。殊に學校は大勢ですから、一人だけ汚れた靴を履いてゐるとお嬢さんが恥をかくばかりでなく、お母さんの躾けが悪いといふことになつてお母さんの恥にもなります。

◇通學時の心得

通學の時、學校の前などは身動きの出來ないほど押し合つて校門をくゞる女學生を見受けますが、三人以上横に並んで、我もの顏に往來を歩くのは禮儀に外れたことであるばかりでなく、ひとさまの迷惑になります。三人以上の時は、二人づつ縦に並ぶやうにします。

往來をゆく時にお友達同志あまりにぺちやくちやお喋りして歩いてゐるのは見苦しく、歌を歌ひながら歩くこともいけません。こちら側の人道から、車道を越して、あちら側の人道の友達を、大聲でつだれそれさアーん」なんぞと呼びかけることも愼みませう。

電車、バス等乘物で通學する時は、乘降りは順番を待ち、女だてらに肱でひとをかきわけて乘降りし、車内で厚かましく座席を獨占するやうなことはいけません。（挿圖參照）乘



車券を求める時も順番を待ち、若し窓など開ける時は一應隣りの乘客に聞いてからにします。車内で足を組むことは見苦しく、また通路を狹めますから絶對にしてはなりません。

先生等、長上の方とご一緒になつた時は、少し後から、又並ぶ時は左側に隨ひます。お逢ひした時は、數歩手前でちやんと立止つて體をします。

また先生とご一緒の時、お友達に逢つたからといつて先生を放り出して置いて「誰それさアん」などと騒け出すことは大變失禮です。往來の眞ン中に大勢で固まつて長い間立話をしたり、笑ひ轉げたりすることはいけません。

また、道ゆく人の品定めやら、身振りの眞似やら、ひやかしなども無作法です。



學校の歸りに、お友達とデパートやお汁粉屋へ寄り道したり、映畫や少女歌劇を觀にゆくことは大變いけません。

◇學校でのお作法

學校といふものは團體生活ですから、自分一人の無作法のために、他の大勢のお友達が迷惑することがあつてはなりません。また大勢ですと中々統制のとれにくいものですから、殊更愼ましく控へ目にして、先生方にお手數をかけないやうに致しませう。

音樂會、講演會、茶話會、等では、中坐することは人の興を妨げます。會の初まる前に

ご不淨へなどは行つておかなければなりません。已むを得ず離席する時は、輕く會釋して立ち、目立たぬやうに退場します。

授業時間中は殊に靜肅を心がけ、ひそ〳〵話をしたり、お友達が答へそこなつたからと言つて、ひとの過失を笑ふやうなことがあつてはなりません。

椅子をひく時、キイーと床に軋ませたり、机の蓋を開ける時、亂暴にバタンと音をさせたり、筆箱をガチャ〳〵いはせたりすることも不作法です。

「あれ人絹よ」なぞと先生のお召物を批評したり、お持物の批評を蔭で言つたりすることは失禮です。

また、先生に親しむのは結構ですが、狎れて「先生々々」と肩を抱いたり、縋つたりすることは無作法の甚だしいものです。これはお友達についてもいへることで、後から抱きついてふざけたり、べた〳〵と相手の體に觸り、手を握り、洋服やネクタイなどをいじり廻すことはいけません。

狹い廊下で先生に行き違つた時は左側へよけて立ち止り、會釋して相手の通り過ぎるのを待ちます。無遠にすり抜けて通つたり、恥しがつて驅け走つたりするのは失禮です。

階段では、二、三段上つたところならばひき返して待ち、いゝ加減上つてゐればそのまゝ止つて左側によけて待ち、先生がお先に上られてから上ります。下りる時もこれと同じ要領で、下りかけならばひき返して、先生の上りきるのを待つて下ります。

先生が下りられる時、こちらが追越して先に驅け下りるのは失禮です。

社交

◇交友の禮儀

「朱に交はれば赤くなる」といふ諺があります。これは、友は選ばねばならぬといふことをいひ、友達の影響力が如何に強いかといふことを言つたものです。

一人の惡い生徒がゐた爲に、級の大半が惡くなつたといふやうな例はよくあります。一

人の華美な生徒があつて友達に驚嘆な贈り物をした爲に、貰つた者が皆無理をして同じやうに驚嘆な品をお返しして級にさういふ氣風が生ずる、などといふことはよく見受けるところです。この年齢頃から漸く女らしい虚榮心が萠し初め、「誰それさんに貰つたものと同じやうに高いものをお返ししてくれなければ恥しくて學校へゆけない」なぞと言ひ出すものです。

女性が、ことに次の時代の家庭の主婦となるべき少女たちが、今までの保守的な態度から徐々に脫して開放的になりつゝある現代では、クリスマスのお祝ひ結構、親しいお友達の誕生日を祝ふ贈物結構です。然しどこまでも質實であるべき女學生として、高價な佛蘭西人形の贈物とか、豪奢な裝身具などを贈ることは分を過ぎた沙汰です。

ほんたうに、こちらの歡び祝ふ心持を傳へる爲ならば、却つて心を籠めて自分で作つたお手製のクッションなぞを贈る方がよろしく、それは決して失禮ではなく、慎ましい人柄の偲ばれる作法です。

お友達をお訪ねする時は、なるべく前もつてお伺ひする時間を打ち合せて置き、もしその時になつてゆかれなくなりましたら、電話があれば電話でその理由をのべてお詫びします。約束すれば相手のひとはほかのことは捨てゝも待つてゐるものですから、萬一の場合を考へて、約束の時に「何時までに行かなかつたら用事が出來てお伺ひ出來なくなつたものと思つてね」ぐらゐの周到な心遣ひが必要です。なほ、如何に親しいお友達でも、早朝や御飯時分や、深夜の訪問は失禮です。時間をお約束してある時以外は、ほゞ午前九時から十一時まで、午後二時から四時までの間が結構です。

お友達が病氣になつて、そのお見舞に伺ふ時は、病人の氣分を害しないやうな細心の注意が必要で、高い熱を出して面會謝絶で寢てゐるのに無理矢理に病室へ通り、大聲で話しかけたり、笑つたりするのは大變失禮なことであるばかりでなく、却つてお友達の病勢を昂め、折角のお見舞が悪い結果を及ぼしたりします。

病氣お見舞の時はなるべく長坐しないことが肝要で、若し面會謝絶の時は押して會ふや

うなことをせず、お取次の方にまで、かう〳〵かういふ者ですがお見舞に上りました、といふ旨を傳へ、若しお見舞品を持參してゐた場合はそれをお渡ししてそのまゝ歸ります。

お見舞品は、適當な雜集、繪、雜誌、草花の鉢物、消化し易い果物、滋養のある食物等が結構ですが、お腹を壞してゐるのに果物、食物などを贈つたりするのは考へものです。

また、お友達の家にご不幸があつてお悔みに出る時は、制服で伺ふのが一番よろしく、赤いリボンや光つた裝身具をつけることはご遠慮します。若し和服で伺ふ時は、赤い帶や赤い色、派手な色柄の着物などは避け、襟は白襟に致しませう。

◇訪問の禮儀

着席の仕方　他家を訪問した時、オーヴァやコート、ショール等は何處で脫ぎ、何處で着るものか迷ふものですが、お玄關で取次の人が「お上り下さい」と挨拶した時に脫げばよろしいのです。コート、ショールを着てゐる時なら、ショール丈外して取次を待つ程度でよろしい。往來などで、ショールから外套から手袋まで外してゐる人がありますが、さう

する必要はありません。

それからオーヴアは日本間以外の室内では必ずしも脫がなくてもよいことになつてゐますが、レーンコート、和服コートは脫がなくてはなりません。新しい禮法では以上のやうになつてゐますがこの邊は親疎の別によつて常識で判斷し、どの程度に行ふか定めませう。

お客間へ通されて挨拶が終り、座蒲團をすゝめられたら遠慮なく會釋して敷くのが正しいのです。何度すゝめられてもあてないのは却つて失禮に當ります。然しご主人が出て來られたり、相客が入つて來られたら、一度立ち下りてお辭儀をします。

立居の作法を申しますと、坐るときは片足の爪先を引くか、出すかして膝を折り、立つ時は腰をあげ、爪先を立て、片足を少し踏み出して立ち、足を揃へます。坐つてゐて向きを變へる時は、跪いたまゝ一方の爪先を開き、他方の足を前へ出して向きを變へます。凡て向を變へる時は上座に背を見せないやうにし、長上の間近かでは正面を避けて向きを變へます。

なほ、襖、障子は必ず跪いて開け閉てし、畳の縁は踏まないやうに歩きます。

若しお客間に通された時、先客がゐらつしやれば一禮するのですが、ご主人もゐらつしやつたら、ご主人から先にお辭儀をします。

席は、主人のすゝめた所につき、長上と一緒の時は長上を上席にします。床の間のある方が上席で、それがない時は入口に遠い方が上席になります。

これが洋間でしたら、ストーヴのある方が上席で、ない時はやはり入口に遠い方が上席になりますから、間違へて上席などへ坐る失禮をしてはなりません。若し、洋間で席が定められてゐない時は、中程に腰をかけて指定されるまで待つのが作法ですが、女學校三、四年の方達なら、さういふ時は一番末座に坐ることが慎ましいし、さうすれば失禮をしなくて濟みます。

椅子にかけるのは左側から、外すのは右側からで、ご主人が出ていらしたら必ず椅子を立つて一禮するのを忘れないやうにしませう。



お茶とお菓子の頂き方　お茶は茶托か茶臺にのせてすゝめられますが、お茶碗は右手で持ち、左手を糸底に添へて音をさせないやう靜かにのみます。（挿圖參照）

コーヒー、紅茶の場合は、お茶碗の把手は必ずこちらから向つて左へ來るやうに出て來ますから、それを左手で支へてからスプーンで攪きまぜ、スプーンをお茶碗の向ふ側へ置いてから、把手を靜かに右へ廻し、右手に取つて飲みます。コーヒー茶碗を兩手で持つて頂くのは、むしろ可笑しく、これは右手だけで頂いても失禮にはなりません。

お菓子を出されましたら、蒸菓子ならば添へてある箸、又は楊子で銘々皿に取り、小さ

く切つて頂きます。お皿のない場合は懐紙を出し、二つに折つて左膝の前に置き、右手に菓子箸で一つ取つてのせ、二つに分つて頂きます。干菓子は紙を四つに折り、一つ二つそれに受けて頂きますが、これは箸でも手でも、どちらでもよろしいが適宜に割つて頂きます。

洋菓子を頂く時は、菓子皿の上に載せられてある紙ナプキンを皿の左の方に下し、フオークは皿の上にのせ、菓子を皿に取つて右手でフオークを持つて適宜に頂きます。サンドウヰツチは手で取り、片手で頂きます。

和食の頂き方　御飯を頂く時は、ご主人または長上の相客が手をおつけになるまでは手を出してはいけません。

順序は、まづ汁椀を取つて箸を取り、汁の實を箸でおさへて汁を吸ひ、御飯を喰べ、汁の實を喰べて汁を吸ひ、御飯を喰べ、次に平皿のものを喰べてまた御飯を喰べ、膳を頂くといふ順序になります。

蓋、その他のものを手に取る時は右側のものは右手で取つて右側へ置き、左側のものは

左手で取つて左側へ置く、といふ風に決して右左交叉させてはいけません。

汁椀は、お膳の上に置いたまゝ實を喰べると失禮になります。膳の向うにあるものは一度手に取つて後喰べるので、箸で膳越しに取り、或ひは膳の左右にあるものをその儘取り、又は右にあるものでもそのまゝ袖越に取ることは失禮です。婦向けになつてガツガツ喰べたり、喰べる時にお膳の上を見廻したり、椀の底の汁の實を探つて喰べたりすることも避けなくてはなりません。

お魚は骨越しに裏の身を喰べるのは失禮で、裏返して喰べても差支へありませんが、頭が右にならぬ樣に注意します。

お菜が一緒盛りの時は、添へてある箸でお小皿にいつたん取り分けて頂くのが禮儀で、自分の箸ですぐ口へ運ぶのは失禮です。これはお壽司の場合も同じです。お菜がいろ〳〵盛り合せてある時は、一品だけ澤山取るやうなことをせず、少しづゝいろ〳〵と取ります。

香のものに初めから手をつけるのは、御馳走がないといふことになるので失禮になり、

御飯を頂いて了つてから、お茶の中に入れてかき廻すのも失禮です。

御飯のお給仕を受ける時は、一口ほど茶碗の底へ御飯を殘し、通ひ盆にのせ、箸を置いて待ちます。置く時に箸をお膳の緣にかけて置いてはなりません。御飯をついで頂きましたら、受けた茶碗は、いつたんお膳の上に置いてから、改めて取りあげます。

御飯を頂いてしまつて楊子ですが、人前で楊子を使ふのは嚴格に言へば失禮なのですが、若し使ふ時は懷紙で隱すか、左手で隱してソッと使ひます。大きな口を開いて覆ひもせず、使つたり、齒をシイシイいはせたり、せゝつたりするのは失禮です。

洋食の頂き方　洋食の頂き方は、日本ではそれほど嚴格に西洋流で行ふ必要はなく、ナイフでものを喰べたり、ナイフやフォークの音をガチャ〳〵させたりすることはいけないといふやうに、健康な常識で判斷して、見苦しくない程度に頂けばよいと思ひます。

ナプキンは、最初の料理が出たとき膝にかけ、食事の終つたあとは疊まないで、輕く丸めて卓子へ置きます。ナプキンは口のまはり、指先を拭ふ程度に使ひます。

ナイフとフォークは外側のものから順々に使ひ、途中で誤つても取り換へないこと、食事の途中では交叉させるか、八の字にしてお皿の緣にかけて置き、フォークは仰向けにします。終つた時は、ナイフとフォークを二行に縱に並べて置きます。

オードーヴルはナイフとフォーク、又はフォークのみで頂き、スープはお皿の時はスプーンで向ふ側へ押して掬ひ、手前へひいて頂き、コップの時は右手で把手を持つて頂きます。

パンは指で割つて頂きます。スープが出てから頂くので、デザートに入つてから頂いてはなりません。

ソース、胡椒等の調味品を矢鱈に使ふのは失禮です。取り廻しのときには頂きたくないものは、輕く會釋して斷つてもいゝのですが、手を振つて斷るのは失禮です。

フィンガーボールは、養いてあるナプキンごと皿の外へ置き、その皿へ果物を頂き、フィンガーボールで指を洗つてから果物を剝きます。蜜柑などでしたら皮は花びらのやうに

剝き、喰べかすの房の袋を散らさないやうに皮で包みます。バナヽは皮ごと三つに切り、林檎も四つに切つてから皮を剝いて頂きます。

お暇の仕方　さてお暇する時は、自分の席の周りを見廻して、取り散らかつてはゐないかどうか注意しませう。お暇したあとで、今まで坐た席に紙屑やら、お菓子の粉やら、御飯粒などが散らばつてゐたのでは、折角お作法通り頂いたのも何にもならなくなります。

また、座は落さなくともお借りした團扇をあちらへ放り出し、見せて頂いた寫眞帖は開いたまヽ疊の上へ、などといふのでも困ります。團扇は團扇受けへ、寫眞帖は疊閉らで卓子の端へ、といふ風に心を配りませう。

なほ、日本間の場合に、お暇する時によく座蒲團を折つて歸る方がありますが、あれはかへつて失禮になるので、座蒲團はそのまヽ一寸わきへ寄せるぐらゐで結構です。

お玄關へ出てお暇のご挨拶が濟み「どうぞそこでお召し下さい」と言はれたら、「では失禮して支度させて頂きます」とコートやオーヴァーは着てもよいのです。寒い冬など折角さう仰つしやつて下さるのに、着ないのは、却つて御主人側のご好意を無にすることになります。

支度をさせて頂くのは、履物を履く以前でも、履いてからでも、家の造りによつてどちらでも構ひません。

◇手紙の書き方

「文は人なり」といふ言葉があります。手紙を見れば一目でその人の性格、人格が解ります。手紙は、そつくりそのまヽその人の人格を現はすものですが、時には失禮な書き方をした爲に人格以下に受け取られて大變損をし、恥をかく場合があります。

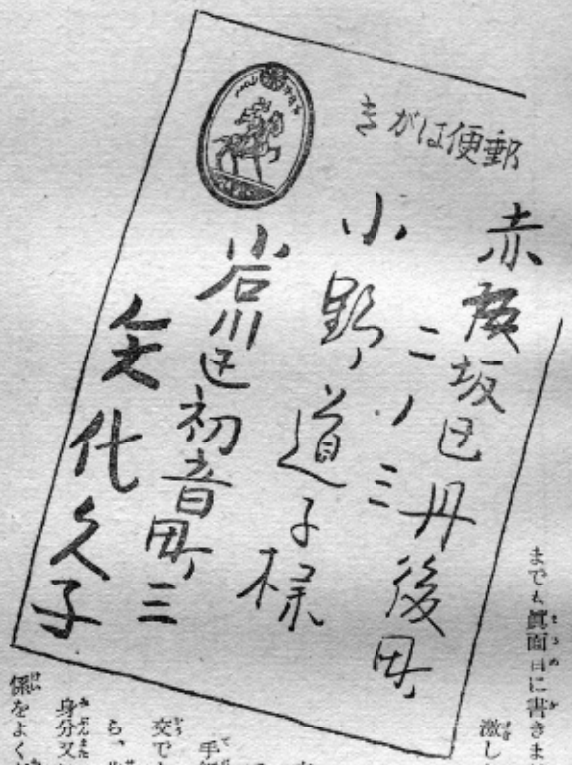
手紙は、書かうとして書かずに濕心誠意、無心に書いた方がよい手紙が書けるものですが、一應正式の禮儀を心得ておく必要はあります。次に手紙の書き方についての作法を申し述べてみませう。

手紙の形式には、文語體、口語體、候文とありますが、候文は足利時代の口語體です。

現代の私達は、ことに女學校三、四年の方たちは口語文を掴んだ方が、充分に自分の意志が發表出來て便利です。

手紙は郵送される會話で本人の代理となつて先方に應對するのと同樣ですからその長短、種類の如何に拘はらず、何處までも眞面目に書きませう。感情の激した時、又はいらいらした時は筆を取らない方がよろしいです。

手紙は一種の社交でもありますから、先方の地位、身分又は自分との關係をよく考へ、失禮に



ならぬやう書きます。目上の方に輕々しくすれば不敬に當り、お友達に他人行儀な言葉を遣ふのもおかしいし、それかと言つて餘り押れすぎた言葉をつかふのは失禮です。又目下に對して鄭重すぎれば却つてその人を馬鹿にしたことになります。

手紙は、簡明に、そして美しく書かなくてはなりません。無駄な言葉を澤山並べたり、走り書をしたり、當字や、はつきり知らないむづかしい言葉なぞを遣ふことは避けねばなりません。

便箋にペンで書く方が普通ですが、若し卷紙に、毛筆で書く場合は、初めと終りに凡そ一二糎、天に一糎五粍、地に一糎の餘白を殘し、吉事には墨を濃くし、凶事には淡くして書くのが禮です。

用紙は、最も正式な時は奉書、又は杉原を用ひ、略した時には改良紙、江戸川などを用ひます。

卷紙を折る時は、相手の名前に筋をつけないやうに終りから初めて卷いてゆきますが、

折目が行にかゝらないやうに卷くのがよろしく、折り直して二重に筋のついたものは失禮です。

便箋にペンで書く場合は、あまりゴテ〳〵した花模樣の色刷便箋などは避けませう。字が青や紫の模樣にまぎれて見えないことがよくあります。これと同じ意味で、色刷の封筒も避けなくてはなりません。お友達の間で淡い色刷便箋や封筒を取り交すことはまだよろしいが、目上に出す場合には絶對に避けなくてはなりません。ペンの場合は白い角封筒が正式です。封筒には必ず年月日、住所氏名を正しく略さずに記し、書き終つたら一度全文を讀み返します。先方の住所・氏名を小さく、自分の住所・氏名を大きく書いたりするのは失禮です。（挿圖參照）

手紙を出す時は、切手の貼り方に注意しませう。若し誤つて逆さに貼ると絶交狀になつてしまひます。なほ、郵便規則に違反しないのは勿論、受信者に迷惑のかゝらぬやう注意します。日方超過のために不足稅を支拂はせたり、切手を貼らずに出しで倍額拂はせたり

することがあつては、それこそ大變な失禮にあたります。

なほ、先方の返信を要する場合は、切手、葉書を封入すべきで、電信ならば返信料を拂つて返電付の電報を打つべきです。又、急を要する場合でも、止むを得ない限りは電報、速達を出す時は、先方に到着する時間を考へて、眞夜中にお起しするやうなことはご遠慮するのが禮儀です。

中學校三・四年生の禮法

なんといつても女の子はしとやかに優しいもので、禮儀作法を敎へるのにお母さまも樂ですが、これが男のお子さんで、殊に中學校三、四年生となると、全く手を燒きます。

この年頃は、生理的にも「聲變り」などといふ現象があり、少年の領域を脫して青年の領域へ移るころであり、稚い形ながら一個の「男性」としての意識が目覺めてくるのです。それで導き方を誤ると、ともすると粗暴になつたり、生意氣な態度をとつたりするやうになります。

この時代の生活と習慣とが、將來社會人として立つてゆく時の生活と習慣の基調になるのですから、お母さまとしては、充分注意のうへにも注意を重ね、その家庭生活と學校生活と公共生活とを見守つてやつて頂きたいと存じます。

では、中學校三、四年生の禮法を、家庭と學校と社交に分けて申し上げませう。

家庭

◇言葉遣ひ

中學生も三、四年になりますと、どうしても言葉は亂暴になり勝ちです。自分を「おれ」といひ、友達を「貴樣」などと呼びます。「貴樣、おれの間柄」といふ言葉がありますが、かういふ間柄が生ずるのは普通中學校か高等學校からです。

これは現在社會の相當重要な地位にある人々が「書生さん」と呼ばれた明治の頃に、さ

ういふ氣風を作つたものと思はれます。この書生さん達は、多くは地方から笈を負うて上京し、青雲の志に燃えて勉强し、友達と逢つては「人生意氣に感ずぢや、貴樣なか〳〵話せるわい、一杯のめ！」といふお國訛まる出しの言葉で語りました。そして自分を「僕」とか「私」と言つたり、ひとを「君」とか「貴方」とか呼んだりでもしようものなら忽ち「あいつは女子の穿つたやうな奴ぢや」と輕蔑されてしまひました。それ故正確に標準語を話せる者までが「貴樣のいふことはなつちよらんぞ」といふ風に九州男兒を氣取りました。

然し時代は移り、御代は昭和です。明治の開拓期を過ぎて、昭和は建設期であらねばなりません。さうすれば言葉も、豪放磊落を氣取る「おれ、貴樣」から禮儀正しい「僕・君」に移らなければなりません。「世界の日本」として躍進を續けてゆく大國を荷ふ第二國民として、中學生はその教養の點からだけでも他國の少青年に負けてはなりません。言葉は教養の高低を示すバロメーターです。野卑な、失禮な言葉遣ひをする國民が、他の國民と國

際場裡で相見える時、相手はこちらを教養の低い、文化の低い國民と輕蔑するでせう。そんなことがあつてはお國の恥です。

他國と對する時ばかりでなく、自分の國にとつても、開拓期に行はれた粗暴な言葉がいつまでも行はれてゐてよいといふことはありません。國家の進展につれて、國民としての教養文化を高めてゆかなくてはなりません。

それ故「書生さんだから」「學生だから」といつて亂暴な言葉遣ひをするのを默許して置かず、次の時代の日本を背負つて貰ふ大事な第二國民として、愼みと教養ある立派な國民に育てるために、まづ亂暴な言葉遣ひから直してゆく覺悟と決心が、お母さまには必要だと思ひます。

言葉を拔きにして思想などといふことは考へられません。友達を「あの野郎」「あん畜生」と呼ぶことは、單に言葉でさう呼ぶばかりでなくその友達を「あの野郎」「あん畜生」と考へることです。「山本君」と呼び「山田君」と呼ぶことは「山本君」と考へ「山田君」と考

へることです。「あの野郎」と考へるのと「山本君」と考へるのではその友達に對する態度が自ら違つてくる筈です。さういふものが外に表はれない筈がありません。

若し「おれ、貴樣」とか「あの野郎」とかいふ亂暴な言葉を遣つたり「そりやいかんよ」などといふ豪傑氣取りの訛言葉を故意に遣ふのを聞きましたら、お母さんとしては直ちに粗暴な言葉を改めさせ訛言葉はやめさせて正確な標準語を遣はせるやう注意致しませう。「クソ面白くねえ」とか「ばかツくせえ」とか「チャンチャラ可笑しいや」とかいふ野卑な言葉もこれと同樣です。

なほこの時代は、もう大人になつた氣取りで何でも一度馬鹿にしてみねば氣がすまず、今までは尊敬し、恐いやうにさへ思つてゐた先生に對しても、「あの逆襲がな」とか、「馬車馬の奴」とか、先生の綽名を呼びたがるものですから、かういふ點にも注意しなくてはなりますまい。「自分はもう少年ではないのだ」といふ誇りと自負とを、さういふ形で表はさす「それ故自分は立派な愼みと態度を持たなくてはならない」といふ方向へ導いてやる注意がお母さんとしては肝要です。

◇身嗜み

「弊衣破帽」といひ「衣は肝に至り、袖肘に至る」といひます。破れた着物に、破れた帽子、腕が出、腕が出るやうな着物を着ることが男らしいとされた時代は過ぎました。少年は少年らしく、正しい清潔な服裝をさせませう。

木村重成は、戰死を覺悟しての出陣の折、名香を兜の內に焚



きこめ、（挿圖參照）首實驗をした敵將も、その床しい武將の嗜みに感じ入つたといふ逸話があります。かういふ心がけこそ必要で、男の子だからと言つて、破れた着物、破れた帽子を被つてるてよいといふ法はありません。

男の子は、とかく面倒くさがつて着物の綻びなど出しませんから、お母さんとしてはよく注意してやりませう。わざ〳〵帽子を壞したり、帽子の徽章を灰の中へ埋めて古くしたり、折角新しくちやんとしてるるものを、新しいのが氣恥しいといつて故意に破損し、古く見せようとしてるるのを見たら戒めなくてはなりません。買つたばかりの帽子を、くしやくしやに揉んで裏巾を剝がし、鍔を折り、頭の天邊に當る所に穴を開けたり、一文字に引き裂いて縫ひ合はせたりした珍妙な姿によつく出會ふことがあります。誠に物の有難さを知らぬ勿體ない話です。

これと同じく、規定された學帽の鍔を縮めて所謂「メリケン」にしたり、自分の學校の帽子では恰好が惡いからといつて慶應型のものを誂へたり、苦だしきは他校の徽章のついた帽子を被つて遊びに出たりする不心得な中學生もあるとのことですが、これは單に帽子だけの小さなことゝして見逃がさず、このやうに服裝を亂すものは、心も亂れ緩んで來たものとして嚴格に注意しなくてはなりません。

なほ、學帽を被つた場合には、和服ならば袴をつける、といふのが禮儀です。徽章といふものは自分の學校を象徴するものです。その徽章のついた制帽を被つて出るのに、着流しといふことはありません。

着流しならば、伊達を氣取つて帽子を横つちよに被つたり、阿彌陀に被つたりして、喫茶店とかその他つまらぬ場所に出入する氣にもなりますが、ちやんと袴をつける習慣にしておけば、袴をはいてそのやうな場所に出入することもなりませんから、自然とそのやうな心配も要らなくなるといふものです。

何處へ出るにも袴を穿いて出る、といふのは感心ですが、かういふ學生の中には時には異樣に鼻緒の太く白い薩摩下駄などを履いてるるのもありますから注意しませう。薩摩下

駄を履いて白い羽織の紐を首へかけて、犬殺しのやうな木刀のステッキを持つて歩くなどといふのは、何處から見ても決して見榮のよいものではありません。

家庭内にあつても、袴帶や懐手をゆるしてはなりません。ある外人の方が日本にいらつして「日本人にはどうしてあのやうに不具者が多いのかしと聞いて見ますと、懐手をしてゐる者を見て手無しと見誤つたらしいのです。誠にこの懐手といふのは日本にだけあるだらしのない習慣で、外國人が見たら異樣に映ると思ひます。

これと同じことが洋服の場合にも言へます。それは、ズボンのポケットに手を入れることです。西洋流の禮儀から言つても、人前で、或は人に逢ふ時、ズボンのポケットに手をつゝこんで逢ふことは大變な失禮とされてをります。

また日本の軍隊では、ポケットのことを「物入れ」と言ひますが、「物入れ」は物を入れる所で手を入れる所ではない、と非常に嚴しく躾けてゐるさうですが、尤もなことです。そのやうに細かい所まで細心な注意が拂ひ、軍律が嚴しく軍紀が嚴正であるために、日本の軍隊は強いのです。

兵隊さんは、どんなに寒いからといつても決してズボンのポケットには手をつゝこみませんし、どんなに暑いからといつても許された時以外は上衣のボタンは外しません。

中學生が、少し暑いからといつて、或ひは暑くもないのに氣取つて、上衣のボタンを二つ三つ外して道を歩いてゐるのはみつともないことです。

暑ければボタンを二つ三つ外すやうなことをせず、上衣を脱いで輕く疊んで腕にかけるやうな嗜みが必要です。然しそれならばいつそ前をきちんと合はせてゐた方が氣分に張りが出て、氣持が、シャンとしてしまひ、暑さもそれほど苦にならないものです。

その他、前述の帽子と同樣、制服を勝手に改變して、上衣を長くしたり、縮めたり、ズボンをセーラー・ズボンにしたりすることを戒めなくてはならぬことは勿論で、なほお母さまとしては上衣のボタンが取れてゐはしないかどうか、どこか綻びた所はないかどうかを注意してやる必要があります。

◇日常の起居動作

女性を遇する態度如何によつて、國民の教養の程、文化の程度が解るときへ言はれてゐます。

日本の男性は、女性に對して一般に無禮であり、無作法であります。その無禮、無作法を、さも男らしいことでもあるかのやうに考へてゐるのは大變な誤りです。

女性を優しくいたはり、禮儀正しくし、尊敬する立派な男性を作るには、まづ母に對して禮儀正しい少年を作ることがその第一歩です。

苟くも母に對して不遜な態度をとり、不遜な言葉遣ひしたら、嚴に戒めなくてはなりません。よく、愼みのないぶつきら棒な、叱りつけるやうな態度で母に、「お母さん！」などといふ少年がありますが、さういふ態度は愼しませなくてはなりません。

殊に來客中などですと、お客さまに對する少年らしい羞取かみもあつてのことなのですが、お客さまにご挨拶もせず、閾ぎはに立つたまゝ、「お母さん！　ノート買ひに行くんだから十錢お呉れ！」などと言ひますが、これは以ての外です。

來客中にはさういふことは後にするのが禮儀で、もしどうしても買はねばならぬものでしたら、まづ坐つて「いらつしやいまし」とお客さまにご挨拶してから、母に「すみませんがお母さん一寸」と物蔭に呼び、それからかう〳〵と用件を言ひます。

その場合も母に「どうしても要るんだからお呉れよ、ねえ、ねつたら！」などと友達扱ひにした口の利きやうをさせてはなりません。鳩に三枝の禮あり」といふ諺どほり、鳩でさへ、子鳩は親鳩から三枝だけさがつて止るといひます。ましてや萬物の靈長といはれる人間は、自分を生み、育てゝくれた母に對しては、愼しみと尊敬を持たなくてはならぬ筈です。

これは、兩親の父母であるお祖父さま、お祖母さまに對しても同樣です。男の子は兎角お年寄などといふものを嫌つて「うちのぢゝいの奴つたら蒼蠅くつてしようがねえ」などと憎まれ口を聞いて「一寸肩を叩いておくれ」と賴まれても「なんでえ、そんなことは厭だい」

などと言ひます。かういふことは愼しみませう。お年寄は、お若い時を一家の繁榮の爲に捧げて一所懸命に働いて來られ、いま靜かにご休息されてゐるのです。お祖父さま、お祖母さまのお働きのお蔭で無事に中學に通ふことも出來、そのやうな我儘を言へる體を頂き、丈夫に育つことも出來たのです。少しばかりの手間と骨折りを惜んで御老人に對して失禮なことを言つたら、嚴しく躾けなくてはなりません。

また、母を女としてその優しさに狎れるやうに、よく姉妹を女と見縊つて粗暴な態度をとる少年があります。何かといふと「女は默つてゐろ」とか「何だ女のくせに」とか侮蔑的な態度をとり、時には理窟に負けると腕力沙汰にまで及びます。以ての外のことです。若し兄妹の間になにかあつたら、事の正邪を正しく判斷し、例へ兄だからといつて妹さんに、「おまへ女なんだから」とか、「向ふは兄さんなんだから」と言つて正しいのに泣寢入りさせるやうなことがあつてはなりません。かういふことが度重なると自然男のお子さんも「おれは男なんだから」「おれは兄貴なんだから」と、理由のない優越感を感じて妹を侮蔑し、ほては粗暴な態度を取るまでに到ります。

なほ腕力沙汰はどんな場合にでも無作法極まる、非禮極まることで、例へ肉親の場合と雖も相手の體へ手をかけるといふことはいけません。

例へ兄さんが正しい場合でも、若しも妹さんに手を上げたならば、そのことはそのこととして妹さんを叱つたあとで、手を上げたことに就いて兄さんを叱らねばなりません。

また、この頃から既に一人前の男性の嗜みとして、姉や妹がお風呂へ入つたりお化粧してゐる傍に居合はさせないやうな注意も、お母さんとしては必要でせう。これと同樣、女姉妹の前で裸になつたり、肌脫ぎになつたりすることも愼みのないことです。

食事の時に暑い時に熱いものを食べるのだからといつて、猿股一枚で食卓の前へ坐つたりすることも無作法です。この頃から、食事の時に胡坐をかいたりするやうになるものですから注意しませう。食事は、明るくたのしく頂くのは結構ですが、決して無作法に流れてはなりません。

中學生も三、四年生になりますと學課も増え、試驗勉强で夜更しもしなくてはならなくなりますが、その時、寢床の中へ本とお菓子を持ち込んで、少し讀んではお菓子を食べ、讀んでは食べるやうなことを平氣でやるやうになります。

夜更しをすればお腹も空きませうが、寢床の中で、ものを食べるといふことは無作法で第一、學生が教科書を寢床の中で讀むといふ法はありません。教科書のみならず、書物はすべてきちんと机に向つて讀書するのが當然です。

すべて、この年頃の少年の起居動作は、嚴し過ぎるかと思はれるくらゐ嚴格に躾けて丁度よいのです。

學校

◇通學時の心得

制服の金ボタンを誇らしげに輝やかして通學した入學當初と比べて、三、四年ともなりまして、學校への往き歸りの氣分も、やゝ緩んで參ります。

海軍ヘルの、或ひは雪降りの制服に、白い巾の鞄をかけた姿は、少年らしい清潔な感じがしてなかなかよいものですが、これが鞄の紐をお尻に當るくらゐ長くして、バタンバタンとぶつけ乍ら歩いてゐる姿は、見た眼にも誠にだらしないものです。

手提げ鞄ですと、それを振り廻して友達同志ふざけて打ちあつたり、物差しを横に差して通行人の着物にひつかけてしまつたりします。物差しとか、T定規とかいふものは必ず横に差すなり、手に持つなりすべきです。また、手提げ鞄の提げ紐は、どうしてもすぐボロ〳〵になりやすいもので、それは見苦しいものですから、そのまゝ放つて置いたり、捨てゝしまつたりせず、ちやんと繕つてやりませう。

電車、バスで通學させる場合は、公衆道德を守らせることが必要で、電車の中で友達とワア〳〵騒ぎ合つたり、劍道の道具を座席に置かせたりしてはいけません。劍道具とかその他大きな荷物は網棚があれば網棚か、無ければ足許にひとさまの邪魔にならぬやう置く

のが禮儀です。

また、不具の方が前へ坐つた時、友達同志噪き合つて笑つたり、合圖したりすることもいけません。すべて他の乘客の顏をぢろ〳〵見たり、見て笑つたりすることは無躾けです。

學校の退け時はまたラッシュ・アワーですが、他人を腕力でおしのけて無理矢理に乘つたりするのは、無作法なだけでなく危險なことです。混んでゐたら靜かに順番を待ち、決して無理矢理に飛び乘りをしたり、車掌さんが「もう一臺お待ち下さい」と賴む言葉に惡態をついたりしてはなりません。

切符を買ふならば、なるべく乘つたら直ぐ買ひ、降りる時になつて急に一圓札を出したりするのは非常識です。

乘つたら入口に立たず中へ入り、座席へ坐つたら膝を詰つて席をあけること、老人、子供には席を讓ること、若しひとの間へ坐るなら禮をして坐ること、等々は申し上げるまでもなく公衆道德の第一步です。

次に自轉車で通學させる場合は、絕對に交通信號を守らせませう。自轉車事故は年々その數を增してゆきます。これから勉强し、社會有用の人材にならうとする若木のやうな少年が、僅か一分一秒を急いで交通信號を無視したが爲に、あたら命を落したり、取りかへしのつかぬ不具者になつたりしたら、それは親御さんの嘆きであるばかりでなく、社會の損失です。

少年は冒險心に富むものですから、殊更繁華な場所や燕のやうに走り拔けようとしたり、急な坂を猛烈なスピードで下つたり、交通信號の青が赤に變らうといふ瞬間を待たずに、飛ばしたりしたがるものです。これらは大變危險であり、また交通道德にも悖ります。

通學の途次、先生、上級生、同級生に逢つたら必ず敬禮し、下級生に敬禮されたら答禮します。敬禮は學校によつて擧手の禮、脫帽叩首の禮とふたつあるでせうが、いづれにせよ、投げやりな面倒くさげな動作でなく確實に行はねばなりません。

なほ、學校の歸途、喫茶店・飮食店・映畫館・娛樂場などへ寄り道してならぬことは勿

論で、これは初めから學校の歸りはどこへも寄り道せずにまつすぐ歸る、といふ習慣をつけて置くことが肝腎です。若し試驗準備等その他の用事で友達の家へなど寄る時は、朝登校する時ちやんと斷るやうにさせるとよいと思ひます。そして若し友達の家へ寄つた場合は、必ず夕飯までには家へ歸つてくるやうにさせ、そこのお宅で晩御飯をよばれたりさせてはなりません。

◇學校内での禮儀

中學校といふものは、先生も生徒も全部男で、優しい女性の匂ひといふものが何處にもないので、どうしても殺伐になり易く、從つて亂暴無作法になり勝ちなものですから、注意しませう。

若さ、健康さが溢れて多少活潑の度を越す程度のものはまだ許せますが、無作法に振舞ふことを自慢したり、惡意があつてさうするものなどは許せません。

惡意あるものといふのは、例へば教師を揶揄することで、先生が一寸口を滑らしたり、失言したり、むづかしい試驗問題を出したりした場合、口笛をヒユーと吹いたり、机をガタ〳〵鳴らしたり、拍手したりすることで、甚だしきに至つては、先生の入つて來られる入口に黑板拭きを挾んで置いたりするさうですが、これらは言語道斷といふべきです。學生である以上は學問を最も尊ばねばならずその學問を教へて下さる先生に對しては絶對的な尊敬を拂はねばならぬことは、今更三尺去つて師の影を踏ます



といふ古い格言を持ち出すまでもありません。

神聖なる學問を勉強する道場である教室に在つては、すべて靜肅を旨とすべきで、遊び時間と雖もバタ〳〵走り廻つたり、机を椅にとつて追ひかけ合つたりしてはなりません。

机、椅子等は大切にすべきで、机の上にナイフで落書したり、豪傑を氣取つてそれらを壞したりすることは愼しまねばなりません。（挿圖參照）机は大切な本を置く場所ですから、この上へ乘つたり渡り歩くことは大變無作法なことです。自分達の授業時間中を靜肅にし、內緒話傍見、笑聲等を愼しむは勿論、自分達の授業が少々早目に終つた場合は他の教室のことを考へて騷いではなりません。また廊下を通る時階段を通る時等は靜かに歩くべきで、「何先生の時間かしら」と飛び上つて覗いたり開いてゐる窓から覗いて授業中の友達をからかつたりすることは無作法です。次に試驗の時には殊更態度を愼しむべきで、姿勢を正しくして、苟くも他人から一寸でも疑はれるやうな態度を取つてはなりません。

支那の虞といふ人の言葉に「李下に冠を正さず、瓜田に履を入れず」といふのがあります。李の木の下で冠をなほしてゐると李を取つてゐるかと疑はれ、瓜の田で跼んで履をなほせば瓜を盜んでゐるかと疑はれる、苟くも、そのやうに他人の疑を呼ぶやうな行ひは愼しむ、といふ意味で、誠に禮儀の精神に適つた言葉です。

試驗場に於いては、この心がけが必要で、若し他人から疑ひを受けるやうなことがあつたら、疑ひを受けるやうな態度と姿勢でゐた、といふだけで充分罪に値します。

禮儀、作法といふものは、それを行ふことに依つて無駄な摩擦を避けるためのものなのですから、試驗場に於ては殊更注意して自分自身が他人に疑はれないやうにし、試驗場を出てからは廊下で聲高に問題の解答などを語り合つたりせず、まだ試驗を受けてゐる友達の迷惑にならぬやうにするのが禮儀です。

次に辯論大會の折などですが、好意のある聲援はよいとしても、辯士が言葉に詰つた場合に「どうした！」と叫んだり、言ひ間違つた時に「ひつこめー」と怒鳴つたりする、惡意ある野次は愼しむべきです。殊に下級生が上級生に向つて、上級生が困つてゐることを

面白がつて惡戲半分の惡意ある野次を飛ばしたりすることは愼しむべきです。

日頃から、上級生に對しては尊敬を拂ひ、言葉なども、「どうしたい、おい！」などと同輩扱ひにせず、「どうしたんです」といふ風に丁寧な言葉を使ふべきです。

學校は團體生活であり、一人で生活するのではありませんから、各個銘々が禮儀と作法を守つて、自分一人の無作法のために統制を破り、大勢の友達に對して迷惑をかけるやうなことがあつてはなりません。

社交

◇交友についての心得

交友といふことはむづかしいものです。友達づき合ひがちやんと出來れば、もうそれは立派な一人前の人間です。

「淡交」といふ言葉があります。これは、「禮記」の「君子の交はりは淡交水の如く、小人の交りは甘きこと醴の如し」といふ所から出たものでありますが、立派な人間の交友は淡淡として水のやうであり、未熟な人間の交友は利害に結ばれ、べた〳〵してゐて、さうで甘酒のやうに甘い、といふ意味です。

友達づきあひの忠諫はこの「淡交」といふことで、ある特定の友達と度を過して親密にするよりは、誰とでも萬遍なくつき合ふやうにしなくてはなりません。

度を過した盲目な交友には必ず綻きが來ます。どのやうに親しい友達に對しても一應の禮儀を置き、淡々水の如くつきあふことは、その交友關係を永續させることです。「禮儀を置く」といふことは白々しい隔てを置く、といふことゝは違ひます。友達に對する禮儀、といふのは友達に對する尊敬であり、信愛であり、思ひやりであるのです。

友達を「長島！」と呼び捨てにすることは親愛の情を表現してゐるやうで、決してさうではありません。親しい友人に對しても必ず「君」づけで呼ばせませう。「長島君」と呼ぶことは、「長島！」と呼び捨てにすることゝ、大して違ひはないと思へるかも知れませんが

このやうな些細な所にも相手の友達に對する尊敬を忘れず、「長島君」といふ風に呼びませう。眞の美しい交友は、相手を尊敬することから生れます。また「長島君」と呼ぶその言葉の響きは、「長島！」と呼び捨てにするよりは何と優しい思ひやりと、美しい響きとに滿れてゐることでせうか。禮儀は友情の安全瓣です。

例へば若しもお互ひに意見の衝突などがあつた場合でも、「長島君」と呼ぶやうな尊敬の心と習慣とを持つてゐれば「然しねえ長島君」と、なほも條理を盡してお互ひに話を進めゆくことが出來、和解の道も見付かるものですが、これが「長島！」と呼ぶ癖がついてゐると「長島！　貴樣のいふことは」などと言葉も亂暴になり、論理の通らぬやうなことも言ひ出したりして、果ては手を出したりするやうにもなるものです。

かういふ、友達を尊敬し、一應の禮儀を守る態度があれば、友達の家を訪ねた時無斷でズカ〳〵部屋へ入つて行つたり、オーヴアその他のものを着たまゝ通つたり、部屋へ通されてからゴロリと寢そべつたりする無作法もしなくなると思ひます。

お勳語にも「朋友相信ジ」とあります通り、友達はお互ひに信賴し合はねばならず、信賴し、信賴し合ふためには相手の信賴を裏切るやうなことや、約束を破るやうなことをしてはなりません。どのやうな障害があらうとも約束を果す、といふのが立派な男性でありまた友情です。

西洋の逸話にかういふ話があります。あることの爲に牢屋に入れられてゐる友人の母が死にかけてゐるのを聞き、是非一目だけでも母の死に目に合はしてやりたく、その身代りにさせてくれるやうと王に願ひ出ました。王は彼の志を嘉してそれを許しましたが、その時かういふ條件をつけました。「若しお前の友達がそのまゝ逃げてしまつたらお前を死刑に處するがそれでもよいか」彼は答へました。「私の友人はそんな男ではありません。私は友人を信じてをります。願ひを訊いて頂ければどのやうな條件でも」といふことで彼の願ひは許され、友達は鄕里へと立ちました。然しそれから幾日たつても歸つては來ません。周りの者はそれ見ろ、と言ひましたが彼は少しも動ぜず、固く友人を信じてゐました。

いよ〳〵處刑の時が來ました。あはや彼の胸に鋭い槍が突き刺らうとした時です、その場へ白泡を噛んだ馬を乘りつけた者があります。彼の友人でした。二人は手を取り合つて泣きました。わけを訊くと、母に逢ひ、それからの歸るさ、海が荒れて難船してしまひ、思はぬ所に打ち上げられ、それから夜に日をついで何頭もの馬を乘り潰して馳せつけたとのことでした。彼の信賴は正しかつたのです。友人は彼の友情に厚く感謝し、「さアこの上は私を存分に處刑して下さい」と王に申しましたが、王はその美しい友情に深く感心して二人の命を助け、恩賞を與へたとのことです。

美しい話ではありませんか。友達を、それほどまでに信賴し、信賴された友人はまたその信賴を裏切らぬために全身全力を擧げたのです。友人間の信賴はかうあらねばならぬと思ひます。

約束したことは必ず守ることです。その爲には何でも安うけあひしたり、輕約束をしたりせぬことで、出來ないと思ふことは、それは僕には約束出來ないと斷り斷ることです。

これは友情に薄いのではなくて、かういふ態度こそ、約束したことは斷じて守る美しい友情なのです。

◇訪問の心得

中學校三、四年生になりますと、もう父母の代理になつて他家を訪問しなくてはなりません。殊に男のお子さんは、お父さんの代理として、ご挨拶に上るやうなことが度々あるでせう。他家を訪問した場合の心得を一々實例を擧げてお話し致しませう。

まづ家を出る前によく口上を聞いて置きます。自分は何のために、どこへ、どういふものを持つてゆくか。を、ちやんと知つてゐなくてはなりません。それが飮みこめてゐれば、自然挨拶も出來るといふわけです。

お歲暮とお中元では挨拶が違ひますし、こちらから先に伺ふ時とお返しに伺ふ時とでも挨拶は違ひます。

自分が他家を訪問する理由をよく飮みこんでゐない爲に、ご挨拶が出來ず、子供の使ひの

やうに「これ持つて來ました」などといふ珍妙なことを言つてしまふのです。

まづお訪ねして、向ふのお宅の方が出ていらつしやつたら、「父が伺ふ筈でございましたが、私が代りに參りました」と、父の代理に伺つたことを述べ、それから、かう〳〵かういふ譯で伺ひましたと、お伺ひした理由を申上げます。途中で言ひ間違へたり、言葉に詰つたからといつて、決して頭をかいたり舌を出したりしてはなりません。ご挨拶は、失禮な言葉にならない限りは、特別むづかしい言葉を遣ふ必要はなく、理由を簡潔明瞭に申し述べることが肝腎です。むづかしい言葉などを遣ふと、途中で言ひ淀んだり、絶句したりしてとんだ恥をかくことになります。



手土産、贈答品、お見舞品を出す時は、風呂敷包みはちやんと取つてから出すので、風呂敷ごと「これ」なんかと差し出すのは失禮です。



風呂敷をとりましたら、その折箱なら折箱に「御見舞」と書いてある字が、相手の方に讀めるやうに向ふ向きに差し出します。

お茶を出されて「どうぞ」とすゝめられたら飲みませう。固くなつていくらすゝめて頂いても手を出さず折角のお茶を冷ましてしまふのは却つて失禮です。頂く時は、兩手で頂く必要はありますまいが、豪傑ぶつて肩肱を張つてガブリと飲んだりせず、靜かに頂きます。

お丼ものなどを取つて頂いた時などは、何時食べてよいのか困つたりしませうが、これもやはり「どうぞ」とすゝめられた時に箸を取ります。「私が居たんでは上りにくいでせうから、どうぞごゆつくり召上つて下さい」と向ふの方が席を外して下さる時は、その時に「では頂戴します」と禮をして箸を取つてよいのです。いくらすゝめられても箸を取らず席を外して下さるのにもご挨拶せず、さて向ふの方が歸つていらしてみるとお丼がペロリとかたづいてゐた、などといふのでは困ります。

いくらお父さんの代理で伺つたからといつて、お話中に、偉さうに腕を組んで、「フウムフウム」などとお話を伺つたり、懐手をしたり、胡坐をかいたりすることは大變失禮です。

さて、代理で伺つたやうな時には、餘り永居をせず、潮時を見てお暇しませう。代理に伺つたのか自分が遊びに伺つたのか解らないやうに永居をしたり、遊び呆けたりしてゐてはなりません。

歸る時は、やれ〳〵といふ風に大きなのびをしたり、今まで坐つてゐた座蒲團を踏んで

立つたり、跨いで出たりしてはなりません。支那の古い言葉に「龍頭蛇尾」といふのがあります。ある畫家が最初、立派な龍の頭を力一杯に描きましたが、そのうちにだん〳〵力が拔けてしまひ、尻尾はまるで蛇の尻尾のやうに情けないものになつてしまつたので皆に笑はれたといふ話です。この話のやうに、初めはちやんと立派に應待して「ほゝう、なかなかお行儀の良いお子さんだ」と思はれても、お暇する時になつてのびをしたり座蒲團を踏んだりして立つたのでは、「なんだ陽燒双か」と笑はれることにもなります。

さて今度は近親を訪ねた時ですが、他家へ嫁いだ姉さんに例を取りませう。

血を分けた姉さんであり、家に一緒にゐた時は我儘も言ひ、甘へた姉さんであつても、他家へ嫁いでしまへば嫁いだ家のひとゝして、ちやんと禮儀を盡さなくてはなりません。

「姉さん來たよ。これ家から持つてけつて」などとお中元などを放り出すことは誠に失禮で、姉さんも嫁いだ先の家の方に對して恥しい思ひをなさるでせう。

一應は「御無沙汰しました。その後皆さんお變りありませんか。これは家からお中元に

ことづかつて來ました」ぐらゐの挨拶をしなくてはなりません。

若し義兄さんがゐらしたら義兄さんにもちやんと挨拶します。また、病人でもある時は「秀夫君の病氣はその後如何ですか」と輕い御見舞の言葉を添へるやうな注意も必要です。そして挨拶が濟んでから、初めて打ち解けた調子になるのは結構ですが、まづ一應挨拶することを忘れてはなりません。

次にどこの御家庭でもよくやるやうに、お父さんの代理としてお年賀に伺つた場合ですが、（挿圖參照）これは特別にむづかしい型通りの言葉を述べ立てなくともよろしいでせう。中學生が「幾久しく新年の御慶を申納めます。舊冬は種々お引立を蒙りまして、本年もどうぞ相變りませず」などと言ふことは却つておかしいものでせう。言葉は簡潔でも面に誠意を表はして、「明けましてお目出度うございます。昨年中はいろ〳〵とお世話樣になりました。本年も相變らずお願ひ申上げます」ぐらゐで結構です。

さて、いろ〳〵と中學生の禮法について書きましたが、指導するお母樣の心得としては決して粗暴を許さず、どこまでも正しい禮法を守らせることです。

この年頃になりますと、自我を主張する態度が生れ初めます。これは決して惡いことではなく、「自分」といふものがはつきりしなくては決して仕事は出來るものではありません。然しこの「自我」の主張が惡い方向に發展し、所謂我の強い人間に育つのを放任してはなりません。

惡い意味で「自我」を主張し、何でも自己流に振舞はうとして、禮法や形式と稱されるものを無視しようとする態度がありましたら注意してやりませう。

禮法を「形式だ」と言つて安易に輕蔑し去ることは易いことです。然し何故さういふ形式が生れたのでせうか、それは相手に對する尊敬を最も簡單に表現するため、無駄な摩擦を無くして社會が滑らかに圓轉するやうに、自然とさういふものが生れたのです。

若し禮法を輕蔑するやうな時は、さういふ意味を噛んで含め、教へ導いてやりませう。

粗暴であることは決して男らしいことではありません。現代は、愼ましい、そして豊かな教養を持つた文化人を要求してゐます。

形式偏重はいけませんが、内に愼しみの心があれば、外に愼しみの形が表はれる筈です。それ故、形を教へることによつて心を育てようといふのが禮法の根本です。

生活様式が新しくなつてくるにつれ、禮法にもいろ〳〵の變化が生じて來ますが、以上數十項目に渡つて申し述べましたことを應用されまして、お子さまを立派に育てゝ頂きたいと存じます。

お母さんの禮儀作法

五、六歳から中等學校三、四年ごろまでのお子さんの禮法を、年齢の程度に應じ、また男のお子さんと女のお子さんとの性別に基いて、家庭内と家庭外との日常生活、學校生活の實際に即して述べてまゐりました。身のまはりはいつも清潔にきちんとしておくこと、自分の持ちもの、學用品は定めの場所にきまりよく整頓しておくこと、お父さんを初めお母さん、お兄さん、お姉さん、その他目上の方を尊重すること、食事中のお行儀、人さまには無禮な振舞をしないこと、人さまのお宅に上つたときのお作法、學校の先生に對する禮儀、お友だちとのおつきあひについての心得、公徳、道徳等についてお子さんとして是非心得ておかなくてはならない禮法について、細々と述べて來たのでございます。

さて、その次ぎにはお母さんの禮法が大切になつてまゐりませう。お子さんを禮儀正しく育てるについて、お母さんも禮儀正しく振舞はなくて、ならないことは勿論です。凡て

お子さんは、お母さんの感化を最も多く受けて育つもので、お母さんの一擧手、一投足を見習つて、その通りに振舞ふものです。それと今一つはお母さんの我が子に對する禮法が大切になつてまゐりませう。お子さんのお母さんに對してのお行儀作法が行き屆いて敎へられると共に、お母さんもまた、お子さんに對して得手勝手な、そしてなげやりな態度を取つてはいけないわけです。これでは片手落ちであるばかりでなく、お躾けの效果があがらないわけです。なほその他、お子さんの鑑となるお母さんの日常の禮儀作法についていろいろと申上げて見ませう。まづお母さんと子供の禮法からはじめませう。

お子さんへの禮法

子供の呼び方と言葉遣ひ　お母さんは飽くまでやさしくありたいものです。心の底には嚴として動かせぬものを持つてゐなくてはなりませんが、それは決してきつい言葉遣ひや、子供を震へ上らせるやうな態度として、表面に表はれるものであつてはなりません。只怖

いから、お母さんの目の前だけではそれを守るとしても、お子さんの血となり肉となつて浸み通らせるには、もの柔くふうわりとお子さんの身體を包んでゐるやうなものでありたいと思ひます。

「あんな人」と心では思ひ乍ら、「でもお辭儀をよくしないと、またお母さんが怒るから」さう思つて頭を下げるといふ風ではなんにもなりません。形があつて、心がそれに添うてゐないわけで、これでは禮法に叶つてゐるとはいはれません。人さまにお目にかゝればニコニコと自然に頭が下がるといふ風になつて、始めてお母さんのお躾けが本當にお子さんの身についたと言へませう。

それでまづお母さんのお子さんに對する言葉遣ひと呼び方から述べませう。

お子さんを一個の人格者として、常にお考へ下さい。なにまだ子供だものと、まるで一人前の人間に出來てゐないやうに考へること、これはそも〳〵誤りです。

赤ちやんでも六ケ月たつと音のする方に振り向いたり、お母さんがよし〳〵などとあや

したりなさると笑ひますし、メエーなど、睨むとちやんと判つてベソをかきます。その時分から「このお馬鹿ちやんが」と口癖に言つてゐると、子供は知らず〳〵のうちに、人を罵るときには「馬鹿」と言ふんだといふことを覚え込んでしまふのです。赤ちやんは、お母さんの言葉を耳できゝ、その口の形を真似て言葉をだんだんと覚えてゆくのですから、赤ちやんの前だからと言つて決して乱暴な言葉遣ひ、野卑な言葉遣ひをしてはいけません。

隣の奥さんには「まあ、さやうでございますか」など、丁寧な言葉遣ひをした口で、「なんてこいつは」などゝ子供に仰言つたとします。すると、だん〳〵智慧づいてゆく子供は「こいつ」と呼んでいゝ人があること、人によつては他所行きの言葉を遣ふものだといふことを覚えてしまひます。

そこでお母さんは、お子さんが、ほんのオギア〳〵の赤ちやん時代から、自分のお子さんに對して、美しい言葉遣ひをなさらなくてはなりません。

「美代子ちやん、さあ、バイ〳〵をあげませう」といふ風に仰言つて下さい。「ソレ、バイバイだよ」とか「この子はどうしてかう寝つきがわるいんだらう、いやんなつちやふ」などゝ仰言るのはよくありません。

「なに〳〵しておくれ」といふところは「なに〳〵して頂戴」とか「下さい」とかいふ風にして下さい。さうでないとお子さんがいつまでたつても「お母さん、本を買つておくれ」などゝ親に對してぞんざいな言葉遣ひをすることを止めません。親に向つておくれとは何んです」と叱つても、お母さん自身が小さい時からさう言つてたのを覚えたのですから、「お母さんはいゝが子供はいけない」といふ風な無理なことを通すわけにはゆきません。

それからお子さんの呼び方ですが、それこそ親ですから、「一郎」「春子」と呼び捨てにすることは子供に對して無作法といふわけにはならないですが、女親としてはやさしく「太郎さん」「春子ちやん」と呼んだ方がいゝでせう。それからいま一つは小さいお子さんがだん〳〵殖えて来て、一郎さん、春子さんが、お兄さんになり、お姉さんになつたとき、小さいお子さんが、お母さんの口真似で「一郎」だの「春子」だのと呼び捨てにします。もつと

大きくなれば次第に直つてゆくとしても、小さい時分から兄姉が敬つて、長幼の序を亂さぬといふ態度を覺えさせておくことは必要です。ですから、お母さんも、小さいお子さんが生れましたら、猶更さういふ風に呼ぶやうにして下さい。

それに我が子を尊重して「さん」づけにして扱ふといふお母さんの態度はお子さんにも嬉しいことです。自分をそんなに重んじて、そしてまたやさしく待遇して下さるお母さんをお子さんも尊敬せずにゐれなくなりませう。

子供の叱り方　十人のお母さんの中八人まではお子さんを撲つてお叱りになるやうですこれは絶對におやめ下さい。「言つてきかしても判らないから」撲るのだとお言ひになりませう。お母さんの平生の態度にいけないことがあつたり、躾け方に行き屆かぬことがあつたから、言つてきかしてもお子さんが聞かないのです。どんな理由があるにせよ、自分の血と肉を分けた、まあ言つて見れば自分の肉體の一部である我が子の身體に手をかけるといふのは、自分を侮辱すること、同じです。精神から言へばさうですし、また、撲るといふ形から言へば、いかに我が子にしても、そのやうな粗暴な態度は母としての禮法に反した行爲といはねばなりません。

何かと言へば、すぐ手を振り上げるといふお母さんがありますが（挿圖參照）そんなお母さんの子供に限つて、撲られるのが怖さに、その場は納得しなくとも一應は、「御免んなさい、もう今度からしません」とあやまりますが、何度でもやります。撲られる度に、子供はの歌やうに、それを繰り返へすだけです。それも始めは、あやまるといふ殊勝さがありますし、極く小さい時分は、それでもお母さんを怖れるといふ氣持がありますが、だん〳〵度重り、年も



大きくなると、「何んだい、打たなくたつていゝぢやないか」などゝ屢り返したり、お母さんを肱でつき返したりするやうになります。これでは母と子との間の禮儀は全くないことになります。

お子さんをお叱りになる時は、まづお子さんを「武さん、ちよつと、いらつしやい」と靜かに呼び寄せます。お子さんが入つて來ましたら、「其處へお坐りなさい。お話があるから」とお子さんを座につかせ、御自分も膝を崩さず、衿もとなどはだかつてゐましたら、きちんと合はせて居ずまひを正します。かうしてお母さんが凛とした態度をお取りになると、お子さんはそれだけで緊張します。それから平素よりも丁寧な言葉で、少し低めの聲で「どうしてあんなことをしたんですか」といふ風な調子でまづ理由を糺し、子供の言ひ分を充分聞いてやります。その上で、「さういふことをすると、他の方に迷惑をかけますから」と何故してはいけないか、そのわけを諄々と言つて聞かせます。

それを初めから、「武！」と大聲で怒鳴り、顔を見るなり「お前といふ子は、ほんとにまあ……」といふ調子では、「だつて僕が惡いんぢやないよウ」といふ風な態度に出ます。「またお母さんに口答へをする」とお母さんの方でも高い聲ではしたなく叱りつける、これではしめしのつけやうがありません。叱つてゐる間は、決してヒステリックに聲を荒らげてはなりません。中音の聲を出すことはお子さんの氣分を落ちつけますし、お母さん自身も自分の聲がひゞきますから感情の昂ぶることを靜めます。

次にどんな小さいお子さんでも人のゐるところでお叱りにならないことです。小さいながらも人前で叱られることは氣まりの惡いものです。それをまぎらさうとして、虚勢を張つたり、氣恥しさから因循になります。度々さういふことが繰り返へされてゐると遂にお子さんを卑屈にしてしまひます。少くともお子さんの自尊心を傷つけるやうな態度をおとりにならないことです。一寸の虫にも五分の魂と言ひます。假令片言しか云へない小さいお子さんでも、必らず人のゐない所へ連れて來て、もの靜かにお叱りになつて下さい。

身じまひ　度々申上げたやうに、第一に清潔であること、それから綻びがあつたり、破

婦人之友社

れてゐたりしてゐないこと、きりつと身につけてゐることです。

粗末なものを身につけてゐることは一向に差支へありません。お洗濯やお手入れの行き届いてゐないことが恥であり、そしてそんな不潔な身なりで人さまの前に出ることが失禮なのです。遊び盛りのお子さんのことです。また發育盛りのお子さんのことです。高價なもの立派なものを身につけさせても、すぐ汚して來ますし、鉤ざきをして來たりします。半年もたてば身長が伸びて、着物の丈が短くもなつてしまひます。ですからいいものを數少く買ふよりも、安價で堅牢な實質本位のものを數多く用意して、お子さんがいつも身ぎれいでゐられるやうにして下さい。子供を可愛く見せたいのは母心でせうが、着換に骨の折れるやうな窮屈な衣服で子供を飾らないやうにして下さい。自分のことは自分でさせるといふ習慣をつけておかうとしても、お人を借りなくては、脱いだり、着たり出來ないやうな服裝は厄介ですし、發育上から言つても、お人形が着るやうなびつちりした酒落れたものは發育を妨げますから不衛生です。

靴など孔のあいてゐるのを穿かせておくといふのは不衛生でもあり、見苦しいものです。始終きちんと手入れをして穿かせます。骨が折れたり、布の破れた洋傘を持たせることも感心出來ません。子供は始めは破れたのを嫌がりますが、お母さんがいつまでも構はずにおきますと、破れてゐても、折れてゐても、そんなになつてゐるものだと思ひ、自然だらしなくすることが平氣になります。

ズボンのボタンなど取れてゐても、ナニ子供のことだもの、一つ位ボタンが取れてゐたつていま忙しいんだから、序のときにしてやりませうなどいふことでは、ボタンのとれてゐることが普通になつて、今度ボタンが、ついてゐるときでもかけなかつたりするやうになります。そんなまゝで成長しますと、紳士にあるまじく、ズボンのボタンをかけ忘れたまゝ人さまの前へ出るといふ無作法をすることになります。

元來、子供といふものは天性綺麗ずきに出來てゐるものなのです。無心の赤ちやんでもおしめがよごれてゐたり、肌着が汗で濡れたりしますと、氣持惡がつてむづかります。よ

ちよち歩きのお子さんになれば、手足に泥がついたり、お菓子のおつゆでベトベトしたりしますと、「バッチ、バッチ」とお母さんに教へます。それをお母さんの方で、無情を構へておゝきになるものですから、四つ五つになつて、よく口が利けるのにおしつこをしてビショ〳〵になつてゐても平氣で遊んでゐるお子さんに出來上るのです。

「いくらおしつこと言ひなさいと言つても、粗忽ばかりして」と果てはこらしめだと言つてお尻を打つたりして躾けますが、さうなつてから、この癖を直すのは仲々容易なことではありません。

赤ちやんの時分から夜寢床に入るときには必らず寢衣と着換へさせるやうにして下さい。（挿圖參照）どうせ夜も晝も同じやうな生活をしてゐる赤ちやんだから、もつと大きくなつてからと考へてゐますうちに、夜、お寢衣と着換へる段になつて、だゞをこねて手こずらしたりするやうになります。それがだん〳〵習慣となつて晝間の着物のまゝ、寢床にもぐり込んで、夜の御挨拶の「おやすみなさい」などもしないやうな子供になつてしまひます。外出着なども同樣、お家に歸つたら、すぐ平常着と着換へさせるやうにいたしませう。

前にも一寸申上げましたが、夏、お子さんがパンツ一枚の裸姿でゐるやうなこと、冬家の中で衿卷などをしたまゝでゐるやうなことをさせてはなりません。その代り、これはお母さんにも是非だらしのない肌ぬぎの姿や、細帶一つの姿でゐらつしやること、また、冬、ドテラ姿などでゐらつしやること、またいつまでも寢卷姿でゐらつしやることを止めて頂きたいと思ひます。

お母さんが裸になつてゐた、お母さんも朝



ずつとお腰巻のまゝでゐたなんてことになりますと、お子さんが見苦しい恰好で人さまの前に出た時、嗜められません。

またよしんば嗜めたにしたところで、お子さんの方ではお母さんといふお手本にならつたのですから、お母さんの言葉に重きを置きません。

お母さん御自身もいつも身ぎれいにしてゐて下さい。衿垢がついてゐたり、お乳で胸のあたりがカチ〳〵になつてゐたり、醤油や油で汚れた割烹着などを何時もかけてゐたり、袖口や裾布が切れてつら〳〵が下つてゐたり、袖つけが綻びたりしてゐるやうなぢゞむさい身なりをなさらないやうに。赤ちやんにお乳をあげたあと、胸をはだけたまゝでゐたり、夏など外出先から歸つて着換へをすつかりすまさないうちに、お端折の紐もしめず、裾をずる〳〵とひきずつて、あつちのものを取りに、こつちのものを探しに歩き廻るといふやうなことは大變みつともないことです。湯上りのあとなど、座敷のまんなかに鏡臺など持ち出して、裸のまゝお化粧をしたり、縁側で湯もじ一枚の姿で涼んでゐたりする事など

は愼しんで頂きたいと思ひます。殊に相當大きい男の子のお母さんなら尚更です。お母さんの權威を落しますし、無作法です。

日常作法　お子さんが、人さまがお見えになつたとき、「ハイ、御挨拶をなさい」と言はれなくても御辭儀をするやうに躾けますには平常から、お母さんと、お子さんとでお辭儀をするやうにしておゝきになると、よろしうございます。例へば、赤ちやんがエンコなさる時分から、「道子ちやん、ハイ、今日は」とお緣側などで日向ぼつこをしながら、お母さんが手をついて頭を下げて、お見せになると、道ちやんも可愛い足を投げ出した姿で頭を横に曲げてお辭儀をすることを覺えます。夜もやはりお腰巻に着換へてから「お寢み」をして見ます。その他お父さまの御出迎へ、お見送り、お客さまのお見えの時など、その折折に「いらつしやい」「いつていらつしやい」「お歸りなさい」と赤ちやんといつしよに御挨拶をします。赤ちやんは見よう見眞似で御挨拶をすることを覺えてゆきませう。さうしておきますと、物心がつく頃には人さまの前でお行儀よくすることが自然に出來るやうにな

ります。

お母さんはお座敷の中で、子供を相手にしてゐるときだけでなく、お臺所にゐるときもお洗濯をしてゐるときも、お針仕事をしてゐるときも、何色でも染る白紙のやうなお子さんのことを念頭において、嚴しく御自分を愼しんで下さい。

おかずの味加減などを御覽になるとき、お杓子でおつゆを掬つてこのまゝ口へもつて行つたりなさると、お子さんがそれを見てゐて、お鍋やお井からおかずを摘み出して食べたり、戸棚から摘み喰ひすることを覺えます。必らず、お小皿に取つてからなさらなくてはなりません。また、壹など誰もゐないから面倒だからと臺所の隅で御飯などをすませたりなさると、お子さんがお膳の前にきちんと坐つてお食事をするとき、ついお行儀の惡いことをするやうになります。

またお臺所道具をきちんと定めた場所に置かないで、庖丁を投げ出しておいたり、お鍋の蓋を、おきつぱなしにしておいたりなさると、お子さんが、自分の學用品をあつち、こつちに投げ出しておいたり、鉛筆などまだ使へるのにいゝ加減に机の引出しへ投げ込んでおいて、また新しいのを買つて使ひ出すといふ風になります。

お子さんにものを投げて人に手渡したり、足でものをしたりしてはいけないとお躾けにならうとしても、お母さん御自身が、ものさしで遠くにある小箱を引き寄せたり、埃を拾てゐるのに庭の埃箱まで歩いて行くのを臆劫がつて、臺所の敷居のところから、ぽいと大根の端など投げて入れたりなすつてゐれば、何の役にも立ちません。

お洗濯ものなど、皺をきちんと伸ばし、歪んでないやうに形を整へてお乾しになつてゐれば、知らず〳〵のうちに、お子さんが外出先から歸つて着物を衣紋竿や衣桁にかけたりする時、衿がめくれ上つてゐたり、袖が裏返しになつたりするやうなかけ方をしなくなります。かういふ細い日常のお行儀作法はお母さん自身の行き届いた振舞がそのまゝお手本となるのですから、おろそかに振舞へないわけです。

それと共に、お母さんはお子さんを躾けるためにやさしい愛情を持つてなさらなくては

なりません。

獨逸の鐵血宰相として、あの有名なビスマークのお母さんもまた、偉人の母として今日に至るまで、頗かしい女性の一頁を飾つてゐます。

ビスマークは少年のころ、御飯を大變早口で噛んで食べる癖があり、何事もそれと同じやうにせか〳〵として落ちつきのない子供でした。お母さんはそれが何よりの心配の種でした。我が子を立派な偉人として育て上げるためには、あの癖をまづ治さなくてはいけない、さう思つて、いろ〳〵と工夫を考へました。そして、ある日、一つのことを思ひつきました。

ビスマークがその日も相變らず、せか〳〵とナイフとフォークを手に取つて、御飯をかき込まうとしましたところ、お皿の側に美しい繪本がありました。ビスマークは肉を一口頬張りながらそれを取り上げて擴げました。中には美しい繪が書いてありました。ビスマークは美しい繪に見惚れながら、御飯をせつかちにのみ込むのを忘れて、口の中の肉を知らず〳〵のうちに何度も噛んでゐました。

何んといふ、聰明で、またやさしいお母さんの愛情でせうか。お母さんはビスマークの早喰ひの惡癖を治してやりたさに、丹誠をこめて、美しい繪を描いて與へたのでした。

やがてビスマークの早喰ひの癖は治り、何ごともよく〳〵落ちついて熟考してからかゝるといふ風になり、遂に獨逸を危急から救ふ宰相として偉業を成し遂げたのでした。

お母さんご自身の禮法

如何にお子さんに對して「禮儀正しくしなさい」「お行儀よくしなさい」と言ひ、躾け、叱つたところでお母さんご自身が無作法であり、だらしがなかつたのでは「何だい、お母さんだつてお行儀が惡いぢやないか」と言はれてしまへば一言もありません。そして、それではお子さんに對して示しがつきません。

お子さんのお手本になり、鏡にならねばならぬお母さんご自身の禮法を、家庭内に於け

る禮法と、家庭外に於ける禮法に分けて申し上げませう。

◇家庭内の禮法

御主人への態度　世間のお母さまは、その大半はよき母であり、よき主婦です。然し「よき妻」であることを忘れるお母さんが往々にしてあるのではないかと思はれます。

「添乳する女房へ亭主米を磨ぎ」といふ古い川柳がありますが、このお母さんは恐らく赤ちやんへは實に優しいよいお母さんでせう。然し赤ちやんに乳を與へ添寢するのだからといつて、大切な御主人にお米を磨がせるなどといふのは妻として言語道斷ですかういふことは、よくあるのではないでせうか「私は坊やを見て





るんですから、その位のこと、あなたがやつて下すつたつて良いぢやありませんか！」などと御主人に仰つしやるお母さんはないでせうか。

また御主人に「少しおまへ身綺麗にしたらどうだ」と言はれて、「だつて私は子持なんですもの、そんなにしよつ中飾つてばかりもゐられませんよ」などと言ひ返す方はありませんか。

このやうなことが度重なると家庭は複雑な暗いものになつてしまひ、ひいては御主人の愛情も段々に遠ざかつてゆく、といふやうな結果になります。そして家長である御主人に對して命令するやうな言葉遣ひをしたり、言ひ返したりするのを聞いたお子さんはまたお

母さんの言ひつけを訊かず、自然言葉を返したりするやうになります。

そして、かういふお母さんに限つて、御主人に對して亂暴な言葉遣ひをします。「あんた役場からこんなもんが來たけど行かなくていゝの？」「又忘れたのかい？　馬鹿だねこの人は！」——これではどうしてもお子さんの言葉は亂暴になり、遂にはお父さんへの尊敬をさへ失つてしまふやうなことになります。父や母に尊敬を失つてしまつた子供には、もうどういふ躾け方も役には立ちません。

このやうな事になつては大變です。唯單によき母としてばかり事を行つたのではほんたうのよき母と申すことは出來ません。よき妻としても缺點がないやうに振舞つてこそ、立派な女性であり、またその姿をお子さんが見て學ぶことにもなり、初めて立派な母と言へるのです。

御主人に對しては　ちやんと愼しみある言葉を遣ひ、禮儀ある態度を取りませう。

御老人の態度　子供達から見ればお祖父さん、お祖母さん、夫の、或ひは自分の父母に當

る家庭の御老人に對してはどういふ態度を取るべきでせうか。

御主人に對しては　丁寧な態度を取るくせに、御舅姑さんに對しては「年寄のくせに」といはん許りの態度を取る方がありますが、これは大變な誤りです。

殊に自分の父母などですと、「年寄は默つてひつこんでればいゝんですよ！　厄介者のくせに」などとやります。この調子ではお子さんが口答へするのも無理はありません。御兩親に對して、自分から無作法な態度を取つて見せては、どうしてお子さんが、お母さんに對して禮儀を守りませうか。

「禮の甲より愛の效」　で、先に生れた方は、それだけ生活の體驗と智慧を持つてゐらつしやるのです。「年寄のくせに！」と一言でかたづけてしまはずに、そのお言葉をもう一度反省してみませう。

また我が身が今日あり、我が家が今日あるのは誰のお蔭であるかを考へて、少々は無理であつても、通してお上げするのが人の子の禮儀です。老先の短いお年寄は、短氣になるこ

ともあり、頑なになることもありませう。然しその場では逆らはずに「ハイ」と答へて置き、御氣嫌のよい時に、よく申し上げる方がよいと思ひます。

殊にお子さんのゐる前で御老人をやりこめたりすることは禁物です。老人と子供は親しいものでありますから、お子さんの前でさういふ態度を見せて置きますと、お子さんの敬老の念を傷ふことになります。

樂しみの少いお年寄には、時には、ゆつくり肩を揉んで差上げるとか、月に一度のお墓參りにはなるべくお供をするとか、お供が家事の都合で出來ねば、いろ〳〵と身の廻りお持物を注意して上げるとか、さういふ態度と心がけが必要で、父母を尊び、老人を敬ふといふことは禮法の第一課です。

女中さんへの態度　むづかしいのは女中さんの使ひ方です。女中さんに對する愚痴や不平はよく聞く所ですが、「うちの女中はどうも」といふ前に、主婦として女中さんを使ふのに自分の態度は正しかつたかどうか、考へてみねばなりません。

まづ女中さんを呼ぶのに、「たアけエー」などと金切聲を張り上げる方があります。これはいけません。正しく「お竹さん」とまでは言はないとしても、親しみを籠めて「竹ちやん」とぐらゐは呼びませう。

女中さんは、他家の大事な娘さんをわが家へ預り、働いて貰つてゐるのです。決して金錢上の單なる主從と考へずに、女中さんもわが家の一員と考へませう。さうすれば自然女中さんに對する態度もきまつてくると思ひます。お子さんが女中さんを「ねえやー」と呼んだり、呼びつけにして何でもかんでも詰らぬ用事まで言ひつけてさせる、といふやうなことを默認することも無くなりませう。

お子さんには、自分のことはなるべく自分でするやうにさせるべきで、その方がお子さんのためにもなります。折角女中を雇つたのだから使はねば損だ、といふ考へから、朝早くから起して夜晩くまで働き通しに働かせ、自分はなんにもしないで寢腰をしたりお化粧に憂身をやつしてゐる、といふのではお子さんも亦お母さんに習つて自分で出來ること

まで女中さんに言ひつけろといふことになります。

一體、日本ほど女中使ひの荒い國は外國にはありません。西洋では女中さんも通勤が多く、時間通り出て日が暮れゝば、ピタリと仕事をやめて歸ります。住み込みでもこれと同じで、夕食の後かたづけが濟んだら、後は女中さんの自由な時間で、その家のピアノなどを借りて彈いたり、夜學へ通つてゐる女中さんさへあります。

これらは自由主義、個人主義の發達が生んだよい點で、日本の主婦の女中さんに對する封建的な態度はもつと〳〵改められなくてはならないと思ひます。

この意味から言つて、女中さんだからと言つて家内の者の食べ殘した後のお茶で、家の者が食事の濟んだ後に臺所で御飯を頂かせるなどといふことも愼しまなくてはなりますまい。飽くまで、女中さんをわが家の一員として扱ふことが肝腎です。さうすれば女中さんもお給金を貰つてゐるから、といふやうな心算でなく、誠心誠意、氣持よくその家庭の爲に働いてくれるやうになると思ひます。

來客への態度　お客さまをどの程度におもてなしするか、といふことは誰しも一寸迷ひます。どの程度におもてなししたら良いので、どの程度におもてなししたら失體にならないか。殊に來客に對する茶菓のもてなしを虚禮として廢止しようといふ意見もある昨今、その規準がはつきりせずお困りだと思ひます。

然し茶菓のおもてなしなども、一概に虚禮として退けられないと思ひます。夏の暑い盛りに、汗を流して折角お訪ね下すつたお客さまに、一杯のシロップ、一杯の氷水も差し上げないといふことは、如何にも親切氣がありません。

お客さまを拔り出して置いて、わざ〳〵果物屋へ西瓜やメロンを買ひに行くほどのことは要らないとしても、冷たいおしぼりと冷い飲物の一杯ぐらゐはまづ差上げませう。

又冬のお客さまに對しても、熱い番茶か溫い飲物ぐらゐのおもてなしはすべきで、大體五分ぐらゐのお客さまにはお茶、二十分ぐらゐならあり合はせのお菓子といふ程度でよろしいと思ひます。

若し來客中に食事の時間になりましたら、一應お客さまに「お食事の時間ですが、何か簡單なものを差し上げたいと存じますが、何がお好きでせうか」と内意を伺つてから仕度にかゝります。折角一所懸命に作つて差上げたものが、運惡くお客さまの嫌ひなものであつたりしたのでは、却つて好意が無になるやうなわけです。

また、お客さまが外へ廻る用事があり、御飯を頂いてゐる暇がない、といふこともあるかも知れません。かういふ場合に「折角作つたのですからどうか一口でも召上つて」などと惡止めすることは却つて失禮です。御飯時分に御飯も差上げなかつたと言はれては、と思ひ、惡止めするのが禮儀だと心得てゐる方もありますが、これはお客さまに取つては却つて迷惑な話で、またお互ひの無駄になります。

次に、どうしたものだらうか、御飯は差上げた方がいゝのかさうしなくてもいゝのか、差上げるとしたらなにを一體」と、頻りと氣を揉み考へあぐんで、その度毎に一度々々、來客と對談中の御主人を「あなた一寸」と呼び出してこそ〳〵と相談してゐる方があります

が、これも失禮です。

それよりもお客さまに「今おそばでもお取りしようと存じますが、おそばがお好きでせうか、うどんがお好きでせうか」といふ風にはつきり聞いた方がよろしいのです。そしてこれは決して失禮には當らず、却つて主人を呼び出してこそ〳〵相談する方がずつと失禮です。

◇家庭外の禮法

訪問の心得　人をお訪ねする時は、相手の事情を考慮して、早朝若しくは夜更けて不意に訪問することは避けなくてはなりません。一寸した氣紛れからさういふことをするのは大變失禮で、よんどころない場合のほかは早朝、夜更、食事の時間は外します。

お訪ねする時の服裝は、清潔な垢のついてゐないものでありさへすればよろしいので、朝早くから起きて、お晝頃までかゝつてお化粧し、着物もあれでもない、これでもないと箪笥の引き出しを全部抜いて、ありとあらゆる着物を座敷にとり散らすやうなことは愼し

みませう。

それかと言つてエプロンを外しただけの汚れた平常着で訪問することも、餘程親しい間柄でもなければ失禮で、すべて服裝は相手の方が不快を感じないやうな、華美でない、そして清潔なものを身につけることが必要です。

普通の訪問の度毎に、無駄なお土産をさげてゆくこと、これはなるべくやめるやうにしませう。月々の交際費の中で、このお土産に支出する金額はなか〳〵ばかにはなりませんし、折角お訪ねして久し振りで打ち解けたお話をしたいと思つても、お土産のことを考へてつい遠慮になるなどといふことがあつては本末顚倒も甚だしいものと言はねばなりません。お訪ねするためにお土産を持つてゆくのに、お土産のことを考へて遠慮になつて訪問をやめるといふのは奇妙なこと、言はねばなりませんが、よくあることではないでせうか。

お土産は、自分の家の庭に咲いた花の一枝をさげてゆくやうな、誠心の籠つたものこそが結構で、頂いた方もその方がどんなに優しいこゝろが感じられ、うれしいものかわかりません。そしてお土産をそのやうに簡便化することは、資源節約、物資擁護の時節柄、どんなに望ましいことか知れません。

さて訪問は、世間話や、近況の報告、交情を温めるやうな意味の訪問は別として、お互ひに家庭の主婦としての多忙な生活を相方で邪魔し合はないやうに、用件をきつさと片づけて、辭去しなくてはなりません。

用件はほんの二言か、三言で済むのに、時候の挨拶から御無沙汰のお詫び、先達つて頂いた贈物のお禮などを馬鹿丁寧にくど〳〵と取止めなく喋り散らして、長いお辭儀を何度となく繰り返すのは、實に甚だしい無駄です。

漫畫にこんなのがあります。第一圖は双方お辭儀をし合つてゐる圖で、第二圖は片方の奥さんが頭を上げると相手の奥さんがまだ頭を下げてゐるのでびつくりしてまた頭をさげてゐる所、第三圖は今度相手の奥さんが頭を上げるが、こちらが頭を下げてゐるのでびつくりして頭を下げる、そして最後の第四圖はお互ひにグウ〳〵鼾をかいてお辭儀をしたまゝ

寢てゐる繪です。

これは單なる漫畫として笑ひ去ることは出來ません。人を訪問した時、されたこのやうな無駄な永挨拶はないでせうか。

慶弔の訪問　慶弔の訪問の場合は、なるべくお子さんに代理などをさせずに自分で出かけて行くのがほんたうです。

お祝ひの時に忌み言葉を使つてはいけない、といふことは單なる虚禮ではなく、その喜びをいつぱいに充したいといふ、やさしい氣持から出たことですから、さういふことのないやうにしませう。

折角可愛いお嬢さんが、一生に一度の花嫁さんにならうといふお慶びの時に、「去る」「切れる」「歸る」などといふ忌み言葉を不用意に使つたのでは、何のためにお祝ひに上つたのかわからなくなります。先さまの御兩親は、嫁ぎゆく娘が幸はせの上にも幸はせなれ、と祈り、お嬢さんも亦どうして自分の一生の轉期に立つて幸福を願はないことがありませう

か。その時不吉な忌言葉を、知らずに、或ひは不用意に洩らすことは、どんなに御兩親の慶びを、花嫁さんの幸はせを、傷つけ害ひ、翳をつけることになるかわかりません。お目出たい席では、忌言葉は嚴に愼しまなくてはなりません。

さて今度は告別式の場合ですが、御香奠はどうしたものでせうか。非常時ならばなほ更平時でも、御香奠は廢止した方が新時代の生活に適つてゐます。

元來、御香奠といふのは、靈前に供へるもの、靈前で焚くお香のことをいふのですから本來の精神から言へば香を懷中して出向くのが本當なので、若しお金を送る場合も香料の範圍を出ない金品を送ることが却つて正しい禮法なのです。

服裝は、禮儀として裾模樣のない黒の紋服を着用し黒い草履を履きます。若し紋服の持ち合せがない場合は、自分の持ち物の中から、常識で判斷して禮を缺かないものを着用すればよいので、色のけばけばしいものは避け、模樣ものよりは縞ものを着、半衿は白無地にします。草履は平常のでも差支へありませんが、なるべく派手に目立たないものを穿き

ます。

黒づくめで寸分の隙もない、いでたちをしながら、濃い白粉に頬紅、口紅をまつ赤につけて禮拜するのは大變失禮に當りますから注意しませう。

次に、告別式場で、左右の近親者、お坊さん等に、しきりに丁寧にお辭儀をしてから靈前に進む方がありますが、あれは間違ひで、まづ靈前に禮拜してから、後に喪主、喪主に會釋します。

燒香の時には、靈前に敷かれてある座蒲團には坐らないのが禮儀です。これは敬虔な心で故人の冥福を祈る、といふところから出たものです。

なほ、弔問の歸途は、他家へお寄りすることは避けなくてはなりません。

贈答の正しい形式　贈答品は、自分と先方の地位、關係、慶事、謝恩、輕重、季節、先方の嗜好等種々の場合によつて違ひますが、形式に流れないで、その精神を表はすに足るものを選ばねばなりません。その選び方と贈答の形式を簡單にしますと、折角の心盡しも

水泡に歸する許りでなく、却つて先方の感情を害ひ、併せて自分の品位まで損ふことがありますから注意しなくてはなりません。

贈答品の裝飾、形式は、慶弔の輕重、先方の尊卑等によつて包紙、水引等を違へねばなりません。紙に包み難いものは目錄をつくり、紙に包んで水引をかけ、又籠に入れ、或ひは盆にのせ、熨斗と名刺を添へて贈ります。

包紙は奉書を用ひます。慶事には綿入を二枚重ね、二つ折りにして輪を下に、右前に包みますが、凶事には紙は一枚、右前に包みます。

水引は、慶事には赤白で赤を右にし、金と赤では金を右に、普通兩輪ですが、結婚緣組には結び切りにします。凶事には白か、黒白（黒を右）にし、結び切りです。

魚、卵、海苔、鳥には熨斗は添へず、また凶事に添へないことは勿論です。熨斗紙、熨斗袋は長上や改つた場合には用ひません。

表書は、中央上部に品目、若しくは「御禮」「御見舞」「御靈前」などと書き、お人の場合

は内側に金高を書きます。

氏名は左の下部、又は中央下部に書くので、長上に對しては包紙に記名せず、名札を添へるのが正式です。

また進物は、台、小蒸、お盆にのせて進めますが、頂いたのでは紙紗、風呂敷を返す場合は紙を入れます。然し婚禮や凶事には入れません。二度さういふ事があるのは不幸なことだからといふ意味から、この風習が殘つてゐるのです。（尚ほ、悉しくは拙著「禮儀作法」——婦女界社發行——を御參照下さい。）

公德心について　最後に、公德心について申上げませう。

考へてみますと、日本の女性は、一般に言つて大變公德心に缺けてゐる憾みがあるのではないかと思はれます。

これはその家庭と生活樣式がまだ非常に封建的であるため、自分さへよければ、自分の家庭さへよければ、といふ考へ方をし、社會公共的にものを考へることに馴れてゐないからだと思はれます。



（よきは、よき子）

例へば紙屑などを掃くにしても、自分の家の前だけ掃き、それを取らずにお隣りの家の方へ掃き寄せて置く、といふやうなことをやります。溝の掃除にしても自分の家の前だけ詰らなければ構はないといふので、塵芥をお隣りの方へおしやつてしまひ、下の方でどんなに溝が溢れても知らん顏をしてゐます。

この様なことでは困ります。公徳の第一歩は御近所づき合ひから――、共同水道や道路などはお互ひに清潔にし、またラヂオや蓄音機なども必要以上大きく鳴らすやうなことをせず、すべて他人の仕事の能率を邪魔しないやうにすることから、進んでは御近所のお宅に、取り込みごとがあつた時には、早速出かけて行つてお手傳ひするまでぐらゐはしたいものです。

さてまた電車やバスの中では順番を待つて、われ勝ちにならないことが肝要で、却つてわれ勝に乘るのは男の人よりも中年の女の方に多いのは誠に殘念です。

老人子供に席を讓ることは勿論で、讓られた場合には會釋して坐り、坐つたら座席を獨占せずに膝を送ることも勿論です。ひとの間に無理矢理に割りこんだり、混んでゐるのも構はず荷物を座席に置いて場所を二人分とつたりすることも見苦しいことです。

また知人と一緒に乘つた場合、お互ひに順番を讓り合つて「どうぞお先へ」「いえあなたから」と押問答してゐるのは可笑しいばかりでなく、後から乘る方にとつて大變迷惑な話です。

また、ご自分の家では若しお子さんがそんなことをすれば「お行儀の悪い！」と言つて大變叱る方が、デパートの食堂などへ行くと、もう食べた後の始末も何もあつたものではありません。箸はペキンと二つに折つて食べさしのお丼の中に捻げこみ、そのうへ熱いお茶をのむんだといつて、前のお茶をお丼の御飯の上へ投げ捨て、その上へ紙ナプキンをつゝこんだりします。お金を拂つて取つたからには自分のもので、どうしようと勝手だし、あとはどんなに汚さうが、自分が始末するのではなくて給仕がやるのだ、といふおつもりでせうが世の中といふものはさういふものではありません。

殊にデパートの食堂などへいらつしやる時は子供連れが普通ですし、お母さんがこれでは自然お子さんも、他所で食べる時はこれで良いんだな、といふことになり、公徳心は薄れてゆき、ひいては家で食事をする時の態度も亂れてくる、といふわけのものです。

例へデパートの食堂であつても、食事を濟ませたあとは箸を揃へ、丼の蓋をちやんとし

紙ナプキンや巾袋はひとまとめにして置き、立つたあとは椅子を直しておく位の愼ましい愼しみと公德心が必要だと思ひます。

然し日本の近代文化初まつて既に明治以來七十年、段々に國民も公共生活に馴れて公衆道德も普遍され、殊に事變以來家庭の主婦が、國防婦人會等の團體動作を行ひ、公共生活に密接な連がりをやうやく持つに至つてから、公德の精神を徐々に備へて來たことは大變結構なことだと思つてをります。

この上ともに、家庭のよき母、よき妻となられて、日本文化のよき內助者となられるよう祈つてやみません。

母の禮法（終）

昭和十四年十一月二十五日印刷
昭和十四年十一月三十日發行

母の禮法
定價一圓二十錢

著者　大妻コタカ
東京市麹町區九段四丁目十三番地

發行者　都河龍
東京市神田區神保町三丁目二十九番地

印刷所　山縣製本印刷株式會社

發行所　婦女界社
東京市麹町區九段四丁目十三番地
振替東京二九七三番
電話九段（四四）七二一三番

不許複製
婦女界社

婦女界社版

母の文庫

全十二巻

婦女界社の育児報國大出版！

▼人口の増加と國力の發展は正比例します。新興國伊太利は申すに及ばず、日本の最近の發展は、實に人口の増加に原因しております。お隣支那が日本と同じく廣大な土地と無比の人口を持ちながら、同時に幼兒の死亡率の多いこともまた世界無比と云はれてゐます。

▼これは要するに母が間違ひだらけの育兒をやつてゐるからです。新東亜建設の大任を持つ日本としてこれでよいでせうか。

▼本社はこの點を深く憂ひ、母性再教育のスタートを切り、その第一着手として、『母の文庫』十二卷を世に送り、お隣支那に育兒報國の大任を立派に果してゐただくことに致しました。

▼筆者は何れも斯界の權威、新母性創造の熱情に燃えて執筆を快諾されました。全日本の女性にお贈ひします。今や、時局の脚光を浴びて、育ち行く兒、生れ來る嬰兒のために何をおいても是非本書を座右にお備へ下さらんことを！

第一巻 母の禮法 大妻コタカ

第二巻 姙娠と安産の心得 吉岡彌生

第三巻 母の裁法 膏木朝子

第四巻 母の手藝 大妻コタカ

第五巻 母の編物 大妻コタカ

第六巻 育兒の心得 竹内茂代

第七巻 病兒看護の心得 竹内茂代

第八巻 母の料理 秋穂敬子

第九巻 育兒の實際 編輯部

第十巻 玩具 綿木の與へ方 關寛之

第十一巻 一人子の育て方 三田谷啓

第十二巻 母の宗教 島地黙雷 島崎米峰 長田幹彦 口色竿 著 ガントレット恒子

定價 一冊 一圓二十錢（送料各十二錢）

（菊判並、四六判・二百五十頁）九ポイント總ルビ付・部入函本）

内容見本贈呈

準住前の圖版ですから全部成は部入用の巻に多數掲載の上、綴ぢつて御註文おき下さいますやう御願ひ致します。

婦女界社・母の文庫既刊書

第一回配本 定價一圓廿錢（送料十二錢）

育兒の實際

◇婦女界記者 都河龍 著
◇醫學博士 竹内茂代閲

——内容の一部——

子供は丈夫に育てた秘訣（都河龍）

◇授乳に就ての注意◇清潔に就ての注意◇便と食物に就ての注意◇消化に就ての注意◇運動に就ての注意◇睡眠に就ての注意◇最も重要なる注意◇子供が病氣した場合の注意◇子守を做くに就ての注意◇母親としての注意

夏の病兒看護の實際…（讀者五氏）

◇三兒の保育を簡單便利で◇經濟の實法を説つた好讀◇初產な消化不良を全治させて◇自分除の苦勞が全然するまで◇愛兒の大腸カタルを完治して

虚弱兒を健康兒にした實話（讀者八氏）

◇約束のない日光浴での體質の改造法の實行◇食用のいろ〳〵實驗談で「長下痢」お實話に對する竹内茂代博士の註釋

第二回配本 定價一圓廿錢（送料十二錢）

姙娠と安産の心得

◇東京女子醫專校長 吉岡彌生著

——内容の一部——

◇受胎の原理と月經の話◇胎兒の胎胞とその作用◇姙娠各月に於ける胎兒の發育と母體の變化◇姙娠中の插生法◇姙婦に併發し易い病氣とその手當◇流産及び早産とその手當◇異常姙娠及び異常分娩の心得とその處置◇分娩の支度◇分娩時の心得◇産後は如何に攝生するか◇赤兒の取扱方◇産褥中の病氣と療法

姙娠から出産までの體驗實話集（讀者五氏）

▽子宮外姙娠を手術して貰つた體驗記
▽帶狀疱疹を體驗した四人の母
▽醫者泣かせの難兒を安産した實話
▽産後への不攝生から困難ついた初產の記
▽大事をとり過ぎ過ぎた初產の體驗談

右實話に對する東京女子醫專産婦人科講師大村久榮先生の批評

第三回配本 定價一圓廿錢（送料十二錢）

母の手藝

◇大妻高女校長 大妻コタカ著

——内容の一部——

◇赤ちゃん用（十一種）◇三歳のお子様用（十四種）◇四歳のお子様用（十種）◇五歳のお子様用（九種）◇六歳のお子様用（十五種）◇七歳のお子様用（十三種）

手藝の基礎知識

▽フランス刺繍の基礎（十六種）
▽畳えておきたい鈎針編の基礎（1）鎖編（2）引き拔き編（3）短編（4）長編（5）二種編引拔き編（6）長々編

家庭で出來る染色

（1）染色の準備（2）染め方の注意（3）直接染料（4）酸性染料（5）媒染染料のいろ〳〵（6）各色染・脱色染・部色染

普及版出づ!!

生命は短かし、されど藝術は長し！殉情薄命の女歌人江口きち女の遺書遂に一萬部を突破し、今また普及版出づ!!きち女の祕稿『妹に與へた書簡』數通と年表等も新たに加へられた。一處女の一書よく幾萬の人々を動かし得たのは著者のもつ眞實の力である！

東京麹町九段四丁目
振替東京二九三七番
婦女界社 發行

武尊の麓

薄命の歌人 江口きち女著

序文・河井酔茗先生
後書・島本久恵先生

◇德富蘇峰氏曰く——

本書の後半には、昭和十三年六月一日より十一月末まで、五個月間の日記があるこれは恐らくは彼女が死を覺悟した後のものであらう、何ぼあれ、この日記には我等に取りては、前半の歌集よりも、却てより深く、且つ少からざる感銘を與ふるものがある。若し彼女が尋常一樣の家庭に在りたらんには、平和の、清潔なる、貞淑なる、主婦としての生活を遂げたであらう、一大いなるこの寂しさや天地の哀別は、これが彼女の最後の一首だと、この一首の前には我等も叩頭する。（昭和十四年七月十三日、東京日日新聞より）

「武尊の謎」讀後感想集御申込者に無料贈呈します

四六判・二百六十餘頁
寫眞數・口繪筆蹟挿入
特製版・一圓五十錢
普及版・一圓二十錢
（送料・各十二錢）

萩の島里

宿命の業病故に肉親の絆を斷ち遠く家郷を捨て、瀬戸の小島の療養所に、うら若き乙女の日を暮らす、これは女性哀傷歌であり生活歌でもある。彼女らのみに與へられた運命の苦難道！本書は歌の形を藉りて世に贈る彼女らの切々たる魂の訴へであり愛と希望の書てある

序……光田魚輔先生
結び得ぬ髪を歌つ……林 千秋子
盲目の夫と……瀬戸 貞子
短歌篇（第一部）
散文篇
少女寮の窓べに……伊藤 末子
愚寮に住みて……山田 よし子
流轉の宇生……片岡 雅子
白萩の丘……水野 美沙子
短歌篇（第二部）
肋膜か病みて……南 陽子
病む父……田島 泰子
一日病床に就く……小泉 冴子
曲れる指……和江 立子
鬼籠……山田 みつ子
癒えたき希望……小川 喜代子
病みて……松田 清子
亡き友に……山田 よし子
故郷……和田 麗子
母……小泉 冴子
短歌篇（第三部）
肋膜か病みて……陽子
病む父……泰子
長袖……伊藤 末子
惠の鐘……中村 君江
友の寢息……古田 長慶
狹子ケ丘の雀……伸子
水島……君子
平田……傳子
高見……美雪
西中……繁子
千本……直子
和田……雅子
愚寮の窓に……千秋子
子を負りて……貞子
足萎えの歌……光田魚輔先生
島のしづけさ……内田守人先生
肋膜なほれば……
病みてうれしの御歌……
山根ナヲ子
西輔つたつみ……
夜光虫……
頌榮……松田 清子
陸病みて……山田 よし子
亡き友に……和田 麗子
母……小泉 冴子
一日病床に就く……
指……
癒えたき希望……
短歌篇（第二部）
肋膜か病みて……
病む父……
惠の鐘……
友の寢息……
狹子ケ丘の雀……
水島……
平田……
高見……
西中……
千本……
和田……
愚寮の窓に……
子を負りて……
足萎えの歌……
島のしづけさ……
肋膜なほれば……
病みてうれしの御歌……
山根ナヲ子
西輔つたつみ……
夜光虫……
落椿……
その他三十餘名

四六判・二二〇頁
高雅・優美裝幀
定價一圓三十錢
送料 十二錢

題字……
厚生省豫防局長
高野 六郎先生

東京麹町九段四丁目二九三七番
振替東京
婦女界社

藥草藥木家庭療病寶鑑

佐々木　稔編著・四六判四三〇頁・布裝上製函入・定價一圓五十錢・送料十二錢・

奇蹟！醫師も匙を投げた病人が民間療法によつて、ケロリと癒つたといふ實驗濟みの奏效確實な藥草藥木家庭療病法六百七十種の一大公開！

神經の病　精神・神經衰弱・ヒステリー等ヤ初め皮膚病一切等凡ゆる神經病の療法に亘り一九七種の療法詳細發表

卒倒する病　腦溢血・腦貧血を初め、卒倒する病に對する療法九種

痛む病　リウマチス・關節炎等痛む病氣への一大公開

血及血管　貧血・血吐血・血腫・充血等血及血管に關する病氣廿四種療法

皮膚病　昆蟲・動物・植物カブレ等ヤ初め皮膚病一切の療法等十數種詳細發表

傷　傷・凍傷・火傷・擦傷等を初め凡ゆる傷に對する手當と療法一〇七種

中毒　藥品類・食物・金屬・動物・植物等の中毒に對する應急手當と解毒法

風邪　感冒の豫防法と手當法

血　血輕元氣等血に關する病氣廿四種療法

傳染病　患者の心得・看護者の心得・豫防法等十數種詳細發表

小兒の病　小兒の病氣百種に對する療法手當百九種の公開！何れも實驗濟みのもの

救急法　人事不省・假死・卒倒・腦震盪・溺死・凍死・感電・窒息等救急の場合に於ける手當法の要點と詳細

花柳病　花柳病と云はれる三六種の病氣に對する公開

月經　月經不順・月經困難・月經閉止・月經過多・月經過少・月經痛等婦人病全般に關する家庭療法二四種

婦人　婦人病全般に關する家庭療法二四種

雜　雜百種・萬病一切に對する民間療法發表

姓名　姓名學と家庭療法

初期の素人診斷、藥草藥效能異名集　初期の素人診斷と藥草藥效能異名集

東京神田鍛冶町九段四丁目　婦女界社
振替東京二九三七番

開運の礎 最新姓名學

五聖閣・熊崎健翁著　四六判三二〇頁・布裝・函入美本・定價一圓五十錢・送料十二錢

姓名の神秘！一生の運命を決する問題！開運出世の礎は本書から！

本書は最新熊崎式姓名學を懇切に說示されたもので、多方面に亘る體驗と實例によつて解說を施されたものです

◆あなたの姓名は、あなたの一生の運命を決します。あなたの赤ちやんには必ず開運出世の出來る良名を選擇して下さい。本書の活用によつて。

◆本書は姓名判斷の決定版で、本書を讀まないとは一生の幸運を掘むか不運に泣くかの岐路ともなりませうまさに本書は幸運の鍵です。

◆試みに本書を見てあなたの知人の姓名判斷をして御覽なさい。百發百中恐ろしい程的中します。

◆本書は七篇二百數十項目に分け實例として名士の姓名百數十を擧げ、熊崎式姓名學應用字典を添へたもので、命名も改名も自由に出來ます。

東京神田鍛冶町九段四丁目　婦女界社
振替東京二九三七番

我子の教育

東洋大學教授 關寛之先生著

忽ち五版!!

（四六判三三〇頁 布裝函入美本）

家庭教育の實際的指導書

▲お子様を立派に育てる秘訣一切が、學理にとらはれず、卑俗に流れず、實際的に說いてあります

▲これを讀んで感激せぬ親はなく、これによつて伸びぬ子供はありません。

▲本書によつて成績がぐつと上つた、惡い癖がすつかりなくなつたといふ感激の反響が本社宛に山のやうに殺到してをります。

▲女學校高等科、全國母の會では無二の教材として本書を引張り凧といふ盛況です。

定價一圓廿錢（送料內淨十二錢 館語區域十五錢）

近頃こんなに賣れた本は珍しいと、增刷又增刷目下第五版發賣中

目次の一部

◇いのちの育み……子供と宗教・敎育其他
◇童話と繪本……童話の種類・選び方・年齢による童話讀物の實例・其他
◇子供の遊ばせ方……遊びと仕事・年齢による遊ばせ方・玩具の與へ方
◇言葉と質問……言葉の正しい敎へ方・質問の種類と答へ方
◇學習と入學準備……家庭の學習指導法・幼稚園・小中學の入學準備法
◇惡の方化り方……正しいしつけ方・我子の惡德をどう導くか・其他
◇子供の金錢敎育……金錢敎育の方法・其他職業選擇法・惡癖期の敎育等、二十一篇二百餘項目を登載、乳幼兒期より思春期までの家庭敎育聖典

東京麹町九段四丁目 婦女界社

振替東京二九三七番

